

HP Network Automationソフトウェア

Windows®およびLinuxオペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 10.00

インストールおよびアップグレードガイド

ドキュメントリリース日: 2014年7月

ソフトウェアリリース日: 2014年5月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2001-2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

AMDは、Advanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

IntelおよびIntel Itaniumは、Intel Corporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Red Hat®は、Red Hat, Incの米国およびその他の国の登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

Oracle Technology — Notice of Restricted Rights

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are 'commercial computer software' and use, duplication, and disclosure of the programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are 'restricted computer software' and use, duplication, and disclosure of the programs, including documentation, shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software-Restricted Rights (June 1987). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

Oracleの完全なライセンステキストについては、NA製品DVDのlicense-agreementsディレクトリを参照してください。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passportのログインページの[New users - please register]リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <http://www.hp.com/go/hpssoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアバッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは <http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

目次

目次	4
第1章: はじめに	7
HP Network Automationサポートマトリックス	7
インストールの概要	7
NA 9.1xおよびNA 9.2xユーザ	7
NA 10.00ユーザ	7
インストール前のチェックリスト	8
その他のNA構成	12
HP Live Networkサービス	12
サマリレポート	12
第2章: 別のシステムからNA 10.00へのアップグレード	13
アップグレードおよびインストールに関する注意事項	13
以前に行ったカスタマイズの復元	14
アップグレード手順	15
NAライセンスの取得	18
(オプション) NAインストーラーの署名の確認	19
NA 10.00 Service Packインストーラーの実行	19
MySQLの構成の確認	21
NAの実行のためのulimit値の設定 (Linuxのみ)	22
JCSディスクキャッシュの無効化	23
データの整理	23
NAのユーザインターフェイス設定の確認	24
最新のNAドライバパックのインストール	25
第3章: 同一システムでのNA 10.00へのアップグレード	26
アップグレードおよびインストールに関する注意事項	26
以前に行ったカスタマイズの復元	27
アップグレード手順	28
NAライセンスの取得	30
(オプション) NAインストーラーの署名の確認	31

NA 10.00 Service Packインストーラーの実行	31
MySQLの構成の確認	33
NAの実行のためのulimit値の設定(Linuxのみ)	34
JCSディスクキャッシュの無効化	35
データの整理	35
NAのユーザインターフェイス設定の確認	36
最新のNAドライバパックのインストール	37
第4章: NA 10.00 のインストール	38
データベースの準備	38
MySQLデータベースのオプション	39
Oracleデータベースのオプション	39
NAのインストール中の非クラスタOracleの指定	40
NAのインストール中のOracle RACの指定	40
Microsoft SQL Serverデータベースのオプション	41
Nmapのインストール	42
WindowsオペレーティングシステムでのNmapのインストール	42
LinuxオペレーティングシステムでのNmapのインストール	42
NAライセンスの取得	42
(オプション) NAインストーラーの署名の確認	43
NAインストーラーの実行	44
NAの実行のためのulimit値の設定(Linuxのみ)	46
最新のNAドライバパックのインストール	46
第5章: NAおよびMySQLのアンインストール	47
WindowsからのNAのアンインストール	47
LinuxからのNAのアンインストール	48
NAの手動アンインストール(Windows)	48
MySQL 5.0.58のアンインストール(NAインストーラー)	48
付録A: 共通の手順	50
すべてのNAサービスの開始、停止、再開	50
すべてのNAサービスを無効にします。	51
.rcxファイルの扱い方	51

付録B: インストールに関するその他のトピック	53
NAライセンス情報の配布	53
[システムステータス]ページ	54
データベースのアップグレード	54
付録C: インストールに関するチュートリアル	55
スタンドアロンでのインストール	55
Windowsオペレーティングシステム	56
Linuxオペレーティングシステム	92
Service Packインストーラー	111
Windowsオペレーティングシステム	112
Linuxオペレーティングシステム	125
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。	130

第1章: はじめに

このガイドでは、HP Network Automationソフトウェア(NA)を1つのNAコアでアップグレードまたはインストールする方法について説明します。分散システムおよびサテライト構成では、アップグレード前にその他の情報が必要です。このガイドの手順を実行する前に、分散システムおよびサテライトのマニュアルを参照してください。

この章のトピックは、次のとおりです。

- 「HP Network Automationサポートマトリックス」(7ページ)
- 「インストールの概要」(7ページ)
- 「インストール前のチェックリスト」(8ページ)
- 「その他のNA構成」(12ページ)
- 「HP Live Networkサービス」(12ページ)
- 「サマリレポート」(12ページ)

注: このドキュメントは、新しい情報が加わり次第、更新されます。更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

詳細については、「[ドキュメントの更新情報](#)」(2ページ)を参照してください。

HP Network Automationサポートマトリックス

ハードウェアおよびソフトウェア要件、データベース要件、その他の製品との統合および共存、その他の必要なアプリケーション、グローバルライズおよびローカライズのサポート、その他のインストール要件の詳細については『NAサポートマトリックス』の「[ドキュメントの更新情報](#)」(2ページ)を参照してください。

インストールの概要

サポートされている64ビットプラットフォームにNAをインストールすると、64ビットのJava仮想マシン(JVM)が使用されます。

NA 9.1xおよびNA 9.2xユーザ

NA 9.1xまたはNA 9.2xから、NA 10.00に直接アップグレードできます(「[別のシステムからNA 10.00へのアップグレード](#)」(13ページ)または「[同一システムでのNA 10.00へのアップグレード](#)」(26ページ)を参照)。

注: NAをアップグレードする前に、既存の*.backupファイルを<NA_HOME>/server/lib/scripts/Database/TruecontrolディレクトリからNAディレクトリ構造の外部に移動します。

NA 10.00ユーザ

NA 10.00の新規インストールの詳細については、「[NA 10.00のインストール](#)」(38ページ)を参照してください。

インストール前のチェックリスト

HP Network Automation(NA)を正常にインストールするために、表 1 のインストール前のチェックリストを確認してください。

注: 32ビットオペレーティングシステムから64ビットオペレーティングシステムにNAをアップグレードすると、すべてのラッパー構成ファイル(jboss_wrapper.conf、syslog_wrapper.confなど)は上書きされます。

表 1 インストール前のチェックリスト

領域	検討事項
ユーザ情報	NAのユーザ数は?
	NAユーザのロール数は?
	タスクごとに資格情報を使用しているか、シングルサインオンか?

表 1 インストール前のチェックリスト (続き)

領域	検討事項
インストール情報	NAのインストール先 サーバのFQDNは?
	NAのインストール先 サーバのOSは?
	NAのインストールパスは?
	NAのインストール先 サーバで実行されているほかのアプリケーションはあるか?
	使用するデータベースは(MySQL、Oracle、Microsoft® SQL Server)?(注 意: Oracleを使用している場合、Oracleデータベースを作成する必要があります。Oracleデータベースの構成の詳細については、Oracleのマニュアルを参照してください。)
	データベースサーバの完全修飾ドメイン名は?
	データベースサーバでは、ユーザおよびデータベースを作成するための権限が必要です。(注: この情報は、NAのインストールの際に適切なユーザおよびデータベースを作成するために必要です)。
	データベースがリモート接続をリスンするTCPポートは?
	NAのインストールでMySQLをインストールする場合は、MySQLのインストールディレクトリは?(注: MySQLのインストール先システムがNAとは異なる場合、MySQLの実行ポートと完全修飾ドメイン名は?)
	デバイスにアクセスするための適切なデバイス資格情報はるか?(注: デバイスのグループ化には資格情報が使用されます。)
	NAサーバがデバイスにアクセスするために、アクセスリストの変更が必要か?
	デバイスグループの予定があるか?
	動的デバイスグループを使用する予定があるか?
CSVファイルによる一括インポートの際にグループを作成する予定があるか?	
ネットワークデバイスを検出する予定があり、IPアドレス範囲があるか?	

表 1 インストール前のチェックリスト (続き)

領域	検討事項
分散システム構成 (『NA Multimaster Distributed System on Oracle Guide』または『NA Multimaster Distributed System on SQL Server Guide』を参照してください。)	使用するのはOracleかMicrosoft SQL Serverか?
	データベースサーバの間にはファイアウォールまたはACLがあるか?
	データベースサイト間の適切な帯域幅は?
	NAサーバおよびデータベースサーバは同じタイムゾーンで構成され、共通の時間ソースで同期されているか?
	フェイルオーバーや負荷分散のため、分散システム構成を使用しているか?
	構成する予定のNAコアの数は?(注意: NAコア1つはNAサーバ1台と接続されたデータベースです。)
Syslog	デバイスがメッセージを送信するSyslogサーバはあるか?
	デバイスはSyslogメッセージをNAサーバに送信するか?
	Syslogサーバの完全修飾ドメイン名は?
	SyslogサーバのOSは?
	Syslogサーバの名前とバージョンは?
認証	<p>NAに使用する認証タイプは(ローカル、TACACS+、RADIUS、SecurID、TWIST、LDAP)? HP Server Automation (SA) を使用しているか? デバイスに使用する認証タイプは(ローカル、TACACS+、RADIUS、SecurID)?</p> <ul style="list-style-type: none"> 認証にTACACS+またはRADIUSを使用している場合、プライマリおよびセカンダリTACACS+またはRADIUSサーバの完全修飾ドメイン名またはIPアドレスは? TACACS+サーバまたはRADIUSサーバで構成されるNAホストの共有秘密情報は? TACACS+またはRADIUS通信の暗号化に使用する認証方法は(PAP(デフォルト)、CHAP、MSCHAP)? アプリケーション認証にLDAPを使用している場合、LDAPサーバの完全修飾ドメイン名は? LDAPポートは? LDAPサーバへの通信タイプは(通常、SSL)? LDAPへの接続に使用するユーザのドメインユーザアカウントまたはユーザプリンシパル名は? LDAPへの接続に使用するユーザのパスワードは? 検索ベースは? NAにアクセスできるLDAPセキュリティグループは? HP Server Automation(SA)の統合認証を使用している場合、SA Twistサーバの完全修飾ドメイン名は? HP SA Twistのユーザ名/パスワードは? OCCサーバ名は?
デバイス接続	<p>デバイスで使用できる接続のタイプは? 以下のようなタイプが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> Telnet SSH

表 1 インストール前のチェックリスト (続き)

領域	検討事項
	<ul style="list-style-type: none"> • SNMP • SNMPv3 • SCP • FTP • コンソール • 要塞ホスト • Rlogin • TFTP • NAT
電子メール	<p>SMTPサーバの完全修飾ドメイン名は?</p> <p>電子メールレポートを送信するとき、NAがSMTPの「From」アドレスに使用する電子メールアドレスは?</p>
ワークフロー	<p>ワークフローは有効か?使用している場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 承認が必要なグループは? • 承認が必要なタスクは? • タスクの承認者は?
サテライトゲートウェイ	<p>サテライトゲートウェイを使用しているか? 使用している場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • サテライトゲートウェイの設計目的は(ネットワークトラフィック、NAT処理された/重複するIPアドレスの単純化)? • サテライトゲートウェイで使用するOSは(サポートされているオペレーティングシステムについては、『NAサポートマトリックス』を参照)?
サイズ情報	<p>NAによる管理で使用する予定のノード数とその期間は?</p> <p>古い構成ファイルの保管期間は?</p> <p>構成ファイルの平均行数は?</p> <p>デフォルトのデータベースの整理オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 構成: 365日間保存 • 診断: 45日間保存 • イベント: 45日間保存 • タスク: 365日間保存 • セッション: 45日間保存 • ログファイル: 30日間保存 • タスクログファイル: 7日間保存 • トポロジデータ: 45日間保存 • ダイアグラムファイル: 1日間保存 • すべてのデータ: 365日間保存

その他のNA構成

分散システム環境の構成の詳細については、『NA Multimaster Distributed System on Oracle Guide』または『NA Multimaster Distributed System on SQL Server Guide』を参照してください。

Horizontal Scalabilityシステム環境の構成の詳細については、『NA Horizontal Scalability Guide』を参照してください。

ゲートウェイおよびサテライトエージェント環境の構成については、『NA Satellite Guide』を参照してください。

HP Live Networkサービス

HP Live Networkは、HP Network Automationに統合された補完的なコンテンツ配信サービスであり、NAの無料のドライバ更新、サブスクリプションベースのネットワークセキュリティ、コンプライアンスコンテンツの更新を配信します。HP Live Networkのセキュリティとコンプライアンスサービスにより、ネットワークセキュリティおよびポリシー違反の即時評価と、自動化された修復オプションが利用できます。

NAコアサーバは、別途インストールするHP Live Network Connector(LNc)を通じて、HP Live Networkサービスにアクセスします。

注: LNcでは、インターネットへのアクセスが必要です。

LNcと、インストールおよび設定方法が記載されている『HP Live Network Connector User Guide』は、次のHP Live Network Webサイトの[Resources]タブから入手できます。

<https://hpln.hp.com/group/hp-live-network-connector>

サマリレポート

サマリレポートは、Microsoft Excel(xls)形式で生成されます。サマリレポートの実行は、NAサーバに接続されているWindowsクライアントコンピュータから行います。NAをLinuxプラットフォームで実行している場合は、別のプログラムを使用してサマリレポートを表示できます。

第2章: 別のシステムからNA 10.00へのアップグレード

NA 10.00は、64ビットオペレーティングシステムで実行する必要があります。

この章では、スタンドアロンNAコアサーバで実行されるNA 9.1xまたは9.2xから、別のスタンドアロンNAコアサーバで実行されるNA 10.00にアップグレードする手順を説明します。

他のNA環境のアップグレードの詳細については、該当するマニュアルを参照してください。

- NA マルチマスタ分散システム

分散システム環境でのNAのアップグレードの詳細については、『NA Multimaster Distributed System on Oracle Guide』または『NA Multimaster Distributed System on SQL Server Guide』の「Upgrade the NA Mesh」を参照してください。アップグレード手順での指示に従ってから、この章に戻ります。

- NA 水平スケーラビリティ

水平スケーラビリティ環境でのNAのアップグレードの詳細については、『NA Horizontal Scalability Guide』の「Upgrading Horizontal Scalability」を参照してください。アップグレード手順での指示に従ってから、この章に戻ります。

- NA Satellites

NA Satellitesを使用している場合、NAの現在のバージョンをインストールした後、「リモートエージェントを配布」タスクを実行して、すべてのリモートゲートウェイでアップグレード後のサテライトエージェントを再インストールする必要があります。詳細については、『NA Satellite Guide』の「Upgrading the Satellite」セクションを参照してください。

アップグレードプロセスの実行中は、NAサービスを使用することはできません。また、NA Service Packインストーラーを実行した後、前のバージョンのNAにロールバックすることはできません。

アップグレードおよびインストールに関する注意事項

NAをインストールまたはアップグレードする場合、次の点に注意してください。

- このマニュアルでは、同じ種類のオペレーティングシステム(WindowsからWindows、Solaris/LinuxからLinux)でのNAのアップグレードプロセスについてのみ説明しています。オペレーティングシステムのパスにかかわらず、アップグレードに関する問題が発生した場合はサポートに問い合わせてください。NAを別のオペレーティングシステムに移行する場合は、HPプロフェッショナルサービスに問い合わせてください。
- NAインストーラーでは、バージョンチェックは実行されません。したがって、サポート対象外のプラットフォームでインストールやアップグレードを行ってしまう可能性があります。
- 64ビットNAの完全インストールまたはService Packインストールを32ビットプラットフォームで実行すると、NAインストーラーが起動した後、エラーメッセージが表示されて終了します。
- NAインストーラーのWindowsバージョンには、バックグラウンドで実行される黒いCLIウィンドウがあります。このウィンドウを閉じないでください。閉じてしまうと、通知なしでインストールが終了します。また、NAのインストールをネット

ワーク上で行う場合(例: リモート共有からhpna_win.exeインストーラーを実行)、黒いCLIウィンドウが数分間表示されます。

以前に行ったカスタマイズの復元

NAのアップグレードでは、NAセットアッププログラムによって重要なNAファイルが自動的にバックアップされます。

NAをアップグレードした後、インストーラーによって次のファイルが自動的に復元されます。

- バックアップディレクトリからデバイスソフトウェアイメージが<NA_HOME>/server/imagesにコピーされます。
- バックアップディレクトリからサマリレポートが<NA_HOME>/addinsにコピーされます。
- NA LiveNetworkコンテンツファイルが<NA_HOME>/contentにコピーされます。
- バックアップディレクトリからsite_options.rcxおよびadjustable_options.rcxファイルが<NA_HOME>/jreにコピーされます(インストール時に[use the previous administrative settings]オプションを選択した場合)。
- SecurIDトークンファイルが復元されます。
- ゲートウェイ暗号化キーが復元されます。
- SSL公開鍵証明書が復元されます。
- license.datファイルが復元されます(新しいライセンスファイルがない場合)。

次のファイルはバックアップされます。ただし、NAアップグレードでは復元されません。

- <NA_HOME>/jreフォルダのほとんどの.rcxファイル
 - site_options.rcxおよびadjustable_options.rcxファイル以外の.rcxファイルの変更は保存されません。
 - NAサマリレポートのテンプレートまたは仕様をカスタマイズした場合(レポートのタブの追加など)、バックアップしたバージョンのreporting.rcxファイルのカスタマイズ設定を新しいバージョンのreporting.rcxファイルに手動で更新します。
 - 以前にインストールしたその他の.rcxファイルを変更し、アップグレード後も変更内容を維持するには、その変更内容を新しいadjustable_options.rcxファイルに追加してください。以前の.rcxファイルを使用して新しいバージョンを上書きすることはできません。以前のファイルで上書きすると、アプリケーションにエラーが発生します。
- <NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/conf/log4j.xmlファイル
 - NA 9.20では、log4j.xmlファイルを使用しなくなりました。これに相当するファイルは<NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/deploy/jboss-logging.xmlです。
 - 以前の設定を復元するには、log4j.xmlファイルのカスタマイズ内容で、jboss-logging.xmlファイルを手動で編集します。2つのファイル間では構成形式が異なります。

- <NA_HOME>/server/ext/wrapper/confのラッパー構成ファイル
 - Upgradeインストーラーにより、バックアップしたバージョンのjboss.confファイルから新しいjboss.confファイルへの設定のマージが試みられます(インストール時に[use the previous administrative settings]オプションを選択した場合)。新しいファイルの構成を確認してください。
 - 他の.confファイルの以前の設定を復元するには、アップグレード後に対応するファイルを手動で編集する必要があります。以前のファイルを使用して新しいバージョンを上書きすることはできません。以前のファイルで上書きすると、アプリケーションにエラーが発生します。

アップグレード手順

次の手順では、NAをスタンドアロンNAコアサーバから別のスタンドアロンNAコアサーバへアップグレードする場合の概要を説明します。この手順では、Server Xがソース(既存)NAコアサーバを、Server Yがターゲット(新規)NAコアサーバを示します。

注意: サーバでNAのコアソフトウェアをアップグレードしている途中でOracleまたはSQL Serverをアップグレードしないでください。スタンドアロンNAコアサーバでデータベース製品をアップグレードする必要がある場合、この手順を完了した後、「[データベースのアップグレード](#)」(54ページ)の手順に従ってデータベース製品をアップグレードします。

1. 現在のNAのバージョンを確認します。
 - NAのコアバージョンがNA 7.xxまたは9.0xである場合、この手順を実行する前に、『NAインストールおよびアップグレードガイド』のバージョン9.20の該当するアップグレード手順を実行してください。
 - NAのコアバージョンが現在NA9.1xまたは9.2xである場合、この手順を続行してください。
2. NA 10.00の新しいライセンスキーを取得します。「[NAライセンスの取得](#)」(18ページ)を参照してください。
3. NAのデータベース名とデータベースユーザ名を調べます。

NAコンソールの[管理] > [システムステータス]ページでDatabaseMonitor行を見つけ、この行の[直ちに実行]をクリックします。

[監視の詳細]ページでデータベースカタログ(データベース名)およびデータベースユーザ名の値を確認します。
4. サポートされているオペレーティングシステムで、Server Yを準備します。
5. Server XですべてのNAサービスを停止します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。
6. コアゲートウェイがNAコアサーバにインストールされている場合、Server Xでゲートウェイを停止します。

```
/etc/init.d/opswwg-<ゲートウェイ名> stop
```

7. Server Xで次のファイルをバックアップします。

■ Windows:

- <NA_HOME>\jre*.rcx
- <NA_HOME>\server\ext\wrapper\conf\jboss_wrapper.conf
- <NA_HOME>\server\ext\jboss\server\default\deploy\db-ds.xml

■ Linux:

- <NA_HOME>/jre/*.rcx
- <NA_HOME>/server/ext/wrapper/conf/jboss_wrapper.conf
- <NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/deploy/db-ds.xml

8. データベース内のすべてのデータをバックアップします。方法については、データベースのマニュアルを参照するか、データベース管理者 (DBA) に問い合わせてください。

MySQLの場合、次のようなコマンドを使用します。

```
mysqldump -u root -p -h 127.0.0.1 --database NA > NAdump.sql
```

この手順のMySQLの例では、データベースユーザ名はroot、データベース名はNAです。

9. Server Yに、Server Xと同じバージョンのNAをインストールします。

たとえば、Server XにNA 9.22と1つの修正プログラムがある場合、NA 9.20、NA 9.22のパッチ、修正プログラムをインストールします。

注: Server YではこのNAバージョンを実稼働で実行しないので、Server Yのオペレーティングシステムに現在のNAバージョンをインストールしてもかまいません。

インストールの際、次の点に注意してください。

- 組み込みデータベースを使用している場合、MySQLをインストールします。Server Xと同じデータベース名、ユーザ名、パスワードを指定します。
- リモートデータベースを使用する場合、既存のNAデータベースに接続するための情報を指定します。

10. Server YですべてのNAサービスを停止します。「すべてのNAサービスの開始、停止、再開」(50ページ)を参照してください。

11. Server XのNA構成を次のように複製します。

- a. Server XからServer Yの同じ場所へ、バックアップした*.rcxファイルをコピーします。

ヒント: 複数のNAコア環境では、*.rcxファイルにNAコア固有の設定が含まれるかどうかを考慮します。この場合、既存のNA構成を新しいサーバに複製するように*.rcxファイルをコピーします。

- b. Server Yで、`jboss_wrapper.conf`および`db-ds.xml`ファイルを手動で編集して、Server Xで行われたカスタマイズを復元します。

12. 組み込みデータベースを使用している場合、次の操作を実行します。

- a. Server XでNAデータベースのMySQL構成が変更されている場合、Server Yに構成の変更をコピーします。

MySQLの構成ファイルにはいくつかのレベルがあります。変更があったのがどのレベルかを把握する必要があります。一般的に、グローバル構成ファイルは次の場所にあります。

- Windows: <ドライブ>:\MySQL\my.ini
- Linux: /etc/my.cnf

NA データベースについて変更があったMySQL構成ファイルを特定し、次のいずれかの操作を実行します。

- Server XからServer Yの同じ場所へ、これらのファイルをコピーします。ファイルの権限を維持します。
 - Server Y の MySQL 構成ファイルをServer Xに合わせて編集します。
- b. Server XからServer Yに、データベースバックアップファイルをコピーします。
- データベースユーザがデータベースバックアップファイルに対して読み取りアクセス権を持っていることを確認します。
- c. Server Yで、NAデータベースのバックアップから、NAのインストール中に作成した新しいデータベースインスタンスにデータをインポートします。次に例を示します。

```
mysql -u root -p NA < NAdump.sql
```

- 13. データベースサーバが動作していることを確認します。
- 14. (オプション)「(オプション)NAインストーラーの署名の確認」(19ページ)に従ってNA 10.00 Service Packインストーラーが正当なものであることを確認します。
- 15. Server Yで、「NA 10.00 Service Packインストーラーの実行」(19ページ)に従ってNA 10.00 Service Packインストーラーを実行します。

注: アップグレードに失敗した場合、すべてのログファイルをNAディレクトリ構造の外部に保存してから、アップグレードを再実行します。

- 16. Server Yで、NAがMySQLデータベースを使用している場合、「MySQLの構成の確認」(21ページ)に従ってMySQLの構成を確認します。
- 17. Server YがLinuxオペレーティングシステムを実行しており、NAがMySQLデータベースを使用している場合、`/etc/hosts`に次の行があることを確認します。

```
127.0.0.1    localhost
```

NAにインストールされているMySQLでは、localhost行がここに記載されているとおりである必要があります。ホストファイルの情報を拡張するには、追加の定義を含む行を新しく追加します。

18. (Linuxのみ) NAセッションで開くファイル数の制限を、「[NAの実行のためのulimit値の設定 \(Linuxのみ\)](#)」(22ページ)の説明に従って設定します。
19. 「[JCSディスクキャッシュの無効化](#)」(23ページ)に従って、JCSディスクキャッシュを無効にします。
20. (オプション)「[データの整理](#)」(23ページ)に従って、最適化されたデータの整理タスクを使用します。
21. 「[NAのユーザインターフェイス設定の確認](#)」(24ページ)に従って、NAの構成をアップグレードします。
22. Server Yで、「[最新のNAドライバパックのインストール](#)」(25ページ)に従って最新のNAドライバパックをインストールします。
23. コアゲートウェイがServer Xにインストールされている場合、Server Yで『NA Satellite Guide』に従ってコアゲートウェイをインストールします。

NAライセンスの取得

アップグレードする前に、NA 10.00の新しい恒久ライセンスキーを取得する必要があります。

ヒント: 複数のNAコア環境では、すべてのNAコアに同じライセンスキーを使用します。

NAでは次のライセンスタイプがサポートされています。

- **インスタントオン:** インスタントオンライセンスは製品に付属しています。各インスタントオンライセンスには、デバイス250台、製品インストール後の試用期間60日間という制限があります。
- **恒久:** 恒久ライセンスは、HP License Key Delivery Serviceから取得する必要があります。恒久ライセンスには有効期限がありません。
- **評価:** 評価ライセンスはキャパシティと期間がカスタマイズされた一時ライセンスです。詳細については、NAの営業担当に問い合わせてください。

NA 10.00恒久ライセンスキーを取得するには、次の手順を実行します。

1. <http://support.openview.hp.com/support.jsp>にアクセスします。
2. [Sign-in with HP Passport]または[Login]ボタンをクリックし、資格情報を入力して、[Sign-in]ボタンをクリックします。
3. [ダウンロード]タブをクリックします。
4. [ソフトウェアアップデート]ボックスをクリックします。
5. [My Updates]リンクをクリックします。

6. プルダウンメニューからサービス契約ID(SAID)を選択するかSAIDを入力し、使用条件に同意して、[Submit]をクリックします。
7. [Network Management Center]ノードを展開します。
8. HP NAバージョン10.00の行を選択します。
9. [Get Software Updates]ボタンをクリックします。
10. [Get Licensing]タブをクリックします。
11. 選択した製品名を確認します。
12. [Get License]リンクをクリックします。
13. [Search Entitlements to Activate]ページで選択した資格を確認し、[Activate]をクリックします。
14. NAライセンスファイルを保存し、NAコアサーバからアクセスできる場所に転送します。

(オプション) NAインストーラーの署名の確認

NAインストールメディアのすべてのNAインストーラーには、Gnu Privacy Guard(GPG)署名ファイル(.sig)が含まれています。NAをインストールする前に、NAインストーラーが正当なものであることを確認することをお勧めします。ファイルの有効性を確認するには、次の場所にある「Verification using GPG」の手順に従ってください。

<https://h20392.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=HPLinuxCodeSigning>

このプロセスは、NAでサポートされているすべてのオペレーティングシステムプラットフォームに対して有効です。ファイルの確認はgpgの実行をサポートしているすべてのシステムで行うことができます。確認プロセスはgpgのバージョンやオペレーティングシステムによって異なることがあるため、使用するgpgバージョンのドキュメントを参照してください。

NA 10.00 Service Packインストーラーの実行

NA Service Packインストーラーを実行する前に、データベースサーバが動作していることを確認します。

NA Service Packインストーラーは、Java仮想マシン(JVM)ヒープサイズをシステムRAM容量およびプロセッサ数に応じて設定します。一般的に、JVMヒープサイズはRAMの半分に設定されます(NAインストーラーはYoung世代のサイズを明示的に設定しないため、この値はデフォルトでJVMヒープサイズの1/3になります)。次の例外事項に注意してください。

- ヒープサイズがNA Service Packインストーラーの設定より大きい値に設定されている場合、NA Service Packインストーラーはその値を変更しません。
- NAコアサーバのRAMが64GBを超えている場合、NAインストーラーはJVMヒープサイズを32GBに設定します。
- HP Network Node Manager i SoftwareがすでにNAコアサーバにインストールされている場合、NAインストーラーはシステムRAMサイズにかかわらずJVMヒープサイズを512MBに設定します。この場合、NAインストーラーはJVMのPermanent世代のガベージコレクション(PermGen)を128MBに設定します。

使用するオペレーティングシステムに関するセクションを参照してください。

WindowsオペレーティングシステムでのService Packインストーラーの実行

Windowsプラットフォームでアップグレードするには、NA Service PackインストーラーのDVDをDVDドライブに挿入し、次の手順を実行します。

1. Windowsタスクバーで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. 次のように入力します。[drive]:\windows_[nnnn]-[mmddyy]_spi_setup.exe([drive]はDVDドライブの文字、[nnnn]はビルド番号、[mmddyy]はビルド日)
3. [OK]をクリックします。
4. 画面の指示に従います。

注意: (Oracleのみ) マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。

LinuxオペレーティングシステムでのService Packインストーラーの実行

NA Service PackインストーラーをNA Linuxサーバにインストールする場合、DVDドライブにDVDを挿入してマウントします。NA Service Packインストーラーを実行するには、rootアクセスが必要です。

1. `cd /[DVD_MOUNT_POINT]`([DVD_MOUNT_POINT]はDVDドライブの場所)
2. `cd linux`
3. 次のコマンドを使用して、環境変数を設定します。TZ=UTCおよび`export TZ`
4. このセッションで開くファイル数の制限を設定します。
 - a. 次のコマンドを実行し、開くファイル数の制限を確認します。

```
ulimit -Sn  
ulimit -Hn
```

ソフトウェア制限は少なくとも32768である必要があります。

ハードファイル制限は少なくとも32768である必要があります。

- b. 必要な場合、次のコマンドを実行してソフトウェア制限を更新します。

```
ulimit -n 32768
```

5. `sh linux_[nnnn]-[mmddyy]_spi_setup_64.bin`([nnnn]はビルド番号、[mmddyy]はビルド日)
6. 画面の指示に従います。

注意: (Oracleのみ) マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。

ログファイルに次のエラーが表示された場合、TZ環境変数の値を確認し、NA Service Packインストーラーを再起動します。

```
SQLException while trying to connect to the database. (データベースへの接続中にSQLExceptionが発生しました。)  
java.sql.SQLException:ORA-00604:error occurred at recursive SQL level 1  
(java.sql.SQLException: ORA-00604: 再帰SQLレベル1でエラーが発生しました)  
RA-01882: timezone region not found (RA-01882: タイムゾーン地域が見つかりませんでした)
```

MySQLの構成の確認

次のMySQLの構成オプションは、NAのパフォーマンスに影響します。

- 大規模なデバイス構成ではMySQL用に構成されたデフォルトのパケットサイズを超えることがあり、その結果、次のようなエラーが発生します。

```
DeviceDataManagementEJB:Exception in addDeviceData -  
com.mysql.jdbc.PacketTooBigException:Packet for query is too large.
```

この問題を回避するには、MySQLが受け入れる最大パケットサイズを少なくとも16MBに増やします。この値を調整してもエラーが発生する場合、さらに最大1GBまで増やします。

- MySQLの同時スレッド数を少数に制限すると、NAのパフォーマンスが低下することがあります(前のバージョンのNAでは、デフォルトの数は10でした)。この問題を回避するには、MySQL構成ファイルで、同時スレッド数を20に設定します。NAにインストールされているバージョンのMySQLはこれを「無限」と解釈します。

ここで説明したようにMySQL構成を設定するには、次の手順を実行します。

1. 変更するファイルを特定します。

一般的に、グローバル構成ファイルは次の場所にあります。

- Windows: <ドライブ>:\MySQL\my.ini
- Linux: /etc/my.cnf

2. 手順1で特定したファイルをバックアップします。
3. 構成ファイルをWordPadやviなどのテキストエディタで開きます。
4. MySQLの許容パケットサイズを16MBに設定するには、構成ファイルを次のように編集します。

- a. `string max_allowed_packet=`を含む行を見つけます。

この行が存在しない場合は、次の手順で作成します。

- b. この行を次のように更新し、割り当てを増やします。

```
max_allowed_packet=16776192
```

5. 同時スレッド数を無限に設定するには、構成ファイルを次のように編集します。

- a. `innodb_thread_concurrency=`という文字列を含む行を見つけます。
- b. この行を次のように更新し、同時スレッド数を無限に設定します。

```
innodb_thread_concurrency=20
```

6. 構成ファイルを保存します。

7. すべてのNAサービスを停止します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

8. MySQLを再起動します。

- Windows: [サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧でMySQLサービスを右クリックし、[再開]をクリックします。
- Linux: 次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/mysql restart
```

9. すべてのNAサービスを開始します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

NAの実行のためのulimit値の設定 (Linuxのみ)

NAコアサーバで、開くファイル数の制限が各NAセッションで適切に設定されていることを確認します。

1. 次のディレクトリに変更します。

```
/etc/init.d
```

2. `truecontrol`ファイルを、`/etc`ディレクトリの外部にバックアップします。

3. `truecontrol`ファイルで、次の行をコメント以外の最初の行として追加します。

```
ulimit -n 32768
```

4. NA水平スケーラビリティ環境では、NAコアサーバごとに前のすべての手順を繰り返します。

5. NAサーバごとに、すべてのNAサービスを再起動します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

ヒント: NAサービスの再起動は、JCSディスクキャッシュの無効化(次)の後まで待つことができます。

JCSディスクキャッシュの無効化

JCSディスクキャッシュを無効にするには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに変更します。
 - Windows: <NA_HOME>\jre
 - Linux: <NA_HOME>/jre
2. cache.ccf ファイルを、<NA_HOME> ディレクトリの外部にバックアップします。
3. cache.ccf ファイルをWordPadやviなどのテキストエディタで開きます。
4. jcs.default= 行に設定がないことを確認します。次のとおりである必要があります。

```
jcs.default=
```

5. AVAILABLE AUXILIARY CACHESという文字列を探し、次の各行を特定します。

```
# AVAILABLE AUXILIARY CACHES
jcs.auxiliary.DC=org.apache.jcs.auxiliary.disk.indexed.IndexedDiskCacheFactory
jcs.auxiliary.DC.attributes=org.apache.jcs.auxiliary.disk.indexed.IndexedDiskCacheAttributes
jcs.auxiliary.DC.attributes.DiskPath=/tmp/cache
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxPurgatorySize=10000000
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxKeySize=1000000
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxRecycleBinSize=5000
jcs.auxiliary.DC.attributes.OptimizeAtRemoveCount=300000
jcs.auxiliary.DC.attributes.ShutdownSpoolTimeLimit=60
```

6. 前の手順で特定した各行の行頭に番号記号 (#) を挿入してコメントアウトします。
7. cache.ccf ファイルを保存します。
8. NA 水平スケーラビリティ環境では、NA コアサーバごとに前のすべての手順を繰り返します。
9. NA サーバごとに、すべての NA サービスを再起動します。[「すべてのNAサービスの開始、停止、再開」\(50ページ\)](#)を参照してください。

データの整理

NA 9.20以降では、データの整理タスクが前のバージョンのNAから最適化されています。この最適化を利用するために、データの整理タスクが少なくとも週に1回実行するようにスケジュールされていることを確認します。

注: 分散システムまたは水平スケーラビリティ環境では、警告メッセージが表示されなくなるまで、データの整理タスクを1台のNAコアサーバで手動で実行することをお勧めします。その際、データの整理タスクが各コアで少なくとも週に1回実行するようにスケジュールされていることを確認します。

NAをアップグレードした後、データの整理タスクの最初の数回の実行で構成された最大タスク時間を超えることがあります。この場合、次の警告メッセージが表示されます。

```
com.rendition.pruner.ConfigPruner: タスクスレッドが割り込まれました。整理が部分的に完了しました。
```

このメッセージはさらにレコードの整理が可能であることを示しています。アクションは不要です。その後、データの整理を実行すると、残りのレコードがクリアされます。

ヒント: データベース構成にredoログが含まれている場合、特に警告メッセージが表示される場合は、それらのログ用に十分なディスク領域があることを確認します。必要なサイズはデータベース構成やNAデータベースのサイズによって異なります。

データベースのクリーンアップを高速化するには、次の手順のいずれかまたは両方を実行します。

- 最長タスク時間の値を一時的に18000(5時間)のような値まで大きくします。この設定は、NAコンソールの[管理] > [システム管理設定] > [サーボ]ページの[タスク]で行います。

ヒント: 警告メッセージが表示されなくなった後、最長タスク時間を元の値(デフォルトで3600)にリセットします。

- 警告メッセージが表示されなくなるまで、データの整理タスクを手動で実行します。

NAのユーザインターフェイス設定の確認

NA 9.20以降へのアップグレードにより、HTMLおよびアプリケーション処理のためのコード修正がインストールされます。これらの修正を有効にするには、次の手順を実行します。

1. NA管理者としてNAコンソールにログインします。
2. [ユーザインターフェイス] ページ([管理] > [システム管理設定] > [ユーザインターフェイス])を開きます。
3. [セキュリティ] で次の変更を行います。
 - [クロスサイトスクリプティングの確認] チェックボックスをオンにします。
 - [スタックトレースの表示] チェックボックスをオフにします。
4. [その他] で次の変更を行います。
 - [隠し文字のスタックトレース出力を無効にする] チェックボックスをオンにします。
 - [詳細例外メッセージ出力の無効化] チェックボックスをオンにします。

最新のNAドライバパックのインストール

NA Upgradeインストーラーにより、NA サーバの既存のドライバパックがインストーラーに内蔵されているドライバパックで書き換えられます。機能に問題が発生しないように、NAのアップグレードまたはインストールを行った後、最新のNAドライバパックをインストールします。次の手順を実行します。

1. 次のHP Live NetworkのWebサイトにアクセスします。

<https://hpln.hp.com//node/19/contentfiles?dir=2257>

([Driver Packs] > [Network Automation Version 10.xx Driver Packs])

このページにアクセスするには、HP Live Networkユーザアカウントが必要です。

2. 最新のNAドライバパックをダウンロードします。
3. ダウンロードしたドライバパックをインストールします。

第3章: 同一システムでのNA 10.00へのアップグレード

NA 10.00は、64ビットオペレーティングシステムで実行する必要があります。

この章では、スタンドアロンNAコアサーバで、64ビットオペレーティングシステムまたは同じハードウェアで64ビットオペレーティングシステムへのアップグレードが可能な32ビットオペレーティングシステムで動作しているNA 9.1xまたは9.2xからNA 10.00へアップグレードする手順を説明します。

他のNA環境のアップグレードの詳細については、該当するマニュアルを参照してください。

- NA マルチマスタ分散システム

分散システム環境でのNAのアップグレードの詳細については、『NA Multimaster Distributed System on Oracle Guide』または『NA Multimaster Distributed System on SQL Server Guide』の「Upgrade the NA Mesh」を参照してください。アップグレード手順での指示に従ってから、この章に戻ります。

- NA 水平スケーラビリティ

水平スケーラビリティ環境でのNAのアップグレードの詳細については、『NA Horizontal Scalability Guide』の「Upgrading Horizontal Scalability」を参照してください。アップグレード手順での指示に従ってから、この章に戻ります。

- NA Satellites

NA Satellitesを使用している場合、NAの現在のバージョンをインストールした後、「リモートエージェントを配布」タスクを実行して、すべてのリモートゲートウェイでアップグレード後のサテライトエージェントを再インストールする必要があります。詳細については、『NA Satellite Guide』の「Upgrading the Satellite」セクションを参照してください。

アップグレードプロセスの実行中は、NAサービスを使用することはできません。また、NA Service Packインストーラーを実行した後、前のバージョンのNAにロールバックすることはできません。

アップグレードおよびインストールに関する注意事項

NAをインストールまたはアップグレードする場合、次の点に注意してください。

- このマニュアルでは、同じ種類のオペレーティングシステム(WindowsからWindows、Solaris/LinuxからLinux)でのNAのアップグレードプロセスについてのみ説明しています。オペレーティングシステムのパスにかかわらず、アップグレードに関する問題が発生した場合はサポートに問い合わせてください。NAを別のオペレーティングシステムに移行する場合は、HPプロフェッショナルサービスに問い合わせてください。
- NAインストーラーでは、バージョンチェックは実行されません。したがって、サポート対象外のプラットフォームでインストールやアップグレードを行ってしまう可能性があります。
- 64ビットNAの完全インストールまたはService Packインストールを32ビットプラットフォームで実行すると、NAインストーラーが起動した後、エラーメッセージが表示されて終了します。

- NAインストーラーのWindowsバージョンには、バックグラウンドで実行される黒いCLIウィンドウがあります。このウィンドウを閉じないでください。閉じてしまうと、通知なしでインストールが終了します。また、NAのインストールをネットワーク上で行う場合(例: リモート共有からhpna_win.exeインストーラーを実行)、黒いCLIウィンドウが数分間表示されます。

以前に行ったカスタマイズの復元

NAのアップグレードでは、NAセットアッププログラムによって重要なNAファイルが自動的にバックアップされます。

NAをアップグレードした後、インストーラーによって次のファイルが自動的に復元されます。

- バックアップディレクトリからデバイスソフトウェアイメージが<NA_HOME>/server/imagesにコピーされます。
- バックアップディレクトリからサマリレポートが<NA_HOME>/addinsにコピーされます。
- NA LiveNetworkコンテンツファイルが<NA_HOME>/contentにコピーされます。
- バックアップディレクトリからsite_options.rcxおよびadjustable_options.rcxファイルが<NA_HOME>/jreにコピーされます(インストール時に[use the previous administrative settings]オプションを選択した場合)。
- SecurIDトークンファイルが復元されます。
- ゲートウェイ暗号化キーが復元されます。
- SSL公開鍵証明書が復元されます。
- license.datファイルが復元されます(新しいライセンスファイルがない場合)。

次のファイルはバックアップされます。ただし、NAアップグレードでは復元されません。

- <NA_HOME>/jreフォルダのほとんどの.rcxファイル
 - site_options.rcxおよびadjustable_options.rcxファイル以外の.rcxファイルの変更は保存されません。
 - NAサマリレポートのテンプレートまたは仕様をカスタマイズした場合(レポートのタブの追加など)、バックアップしたバージョンのreporting.rcxファイルのカスタマイズ設定を新しいバージョンのreporting.rcxファイルに手動で更新します。
 - 以前にインストールしたその他の.rcxファイルを変更し、アップグレード後も変更内容を維持するには、その変更内容を新しいadjustable_options.rcxファイルに追加してください。以前の.rcxファイルを使用して新しいバージョンを上書きすることはできません。以前のファイルで上書きすると、アプリケーションにエラーが発生します。
- <NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/conf/log4j.xmlファイル
 - NA 9.20では、log4j.xmlファイルを使用しなくなりました。これに相当するファイルは<NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/deploy/jboss-logging.xmlです。

- 以前の設定を復元するには、log4j.xmlファイルのカスタマイズ内容で、jboss-logging.xmlファイルを手動で編集します。2つのファイル間では構成形式が異なります。
- <NA_HOME>/server/ext/wrapper/confのラッパー構成ファイル
 - Upgradeインストーラーにより、バックアップしたバージョンのjboss.confファイルから新しいjboss.confファイルへの設定のマージが試みられます(インストール時に[use the previous administrative settings]オプションを選択した場合)。新しいファイルの構成を確認してください。
 - 他の.confファイルの以前の設定を復元するには、アップグレード後に対応するファイルを手動で編集する必要があります。以前のファイルを使用して新しいバージョンを上書きすることはできません。以前のファイルで上書きすると、アプリケーションにエラーが発生します。

アップグレード手順

次の手順では、スタンドアロンNAコアサーバのNAのアップグレードの概要を説明します。

1. 現在のNAのバージョンを確認します。
 - NAのコアバージョンがNA 7.xxまたは9.0xである場合、この手順を実行する前に、『NAインストールおよびアップグレードガイド』のバージョン9.20の該当するアップグレード手順を実行してください。
 - NAのコアバージョンが現在NA9.1xまたは9.2xである場合、この手順を続行してください。
2. NA 10.00の新しいライセンスキーを取得します。「[NAライセンスの取得](#)」(30ページ)を参照してください。
3. すべてのNAサービスを停止します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。
4. コアゲートウェイがNAコアサーバにインストールされている場合、ゲートウェイを停止します。

```
/etc/init.d/opswgw-<ゲートウェイ名> stop
```

5. NAのインストールディレクトリを安全な場所にバックアップします。たとえば、NAをC:\NAまたは/opt/NAにインストールした場合、このディレクトリ全体を安全な場所にバックアップします。
6. データベース内のすべてのデータをバックアップします。方法については、データベースのマニュアルを参照するか、データベース管理者(DBA)に問い合わせてください。

ヒント: データベース名をバックアップおよび復元するときには、データベースアプリケーション内のデータベース名と大文字小文字を合わせてNAデータベース名を入力します。たとえば、NAデータベースをNadbとして作成した場合、正確に「Nadb」と入力します。

7. 既存の*.backupファイルを<NA_HOME>/server/lib/scripts/Database/TruecontrolディレクトリからNAディレクトリ構造の外部に移動します。
8. この手順の実行中にNAコアサーバを再起動する必要が生じる場合(オペレーティングシステムやデータベースのアップグレードなど)、NAサービスの自動起動を無効にします。「[すべてのNAサービスを無効にします](#)」(51ページ)を参照してください。

9. NA 10.00が現在のNAコアサーバのオペレーティングシステムでサポートされていない場合、次の手順を実行します。
 - a. オペレーティングシステムをNA 10.00でサポートされているバージョンにアップグレードします。

各オペレーティングシステムのアップグレードの詳細については、ベンダーのマニュアルを参照し、システムサポート担当者に問い合わせてください。
 - b. NAを再起動し、NAが正常に動作していることを確認します。
 - c. この手順を続行する前に、すべてのNAサービスを停止します。
10. NA 10.00が現在のNAデータベースサーバのデータベースバージョンでサポートされていない場合、次の手順を実行します。
 - a. データベースをNA 10.00でサポートされているバージョンにアップグレードします。
 - 各データベースのアップグレードの詳細については、該当するベンダーおよび社内のデータベース管理者(DBA)から提供されているマニュアルを参照してください。
 - NAへのアップグレード後にパフォーマンスに関する問題が発生した場合(NAホームページの読み込みに時間がかかるなど)、Oracle DBAがNAデータベースインスタンスのテーブルのインデックスを再作成することが推奨されます。この作業は、通常のOracleメンテナンスタスクの一部です。
 - b. NAを再起動し、NAが正常に動作していることを確認します。
 - c. この手順を続行する前に、すべてのNAサービスを停止します。
11. データベースサーバが動作していることを確認します。
12. (オプション)「(オプション)NAインストーラーの署名の確認」(31ページ)に従ってNA 10.00 Service Packインストーラーが正当なものであることを確認します。
13. 「NA 10.00 Service Packインストーラーの実行」(31ページ)に従ってNA 10.00 Service Packインストーラーを実行します。

注: アップグレードに失敗した場合、すべてのログファイルをNAディレクトリ構造の外部に保存してから、アップグレードを再実行します。

ヒント: Service Packインストーラーは、NAサービスの自動起動を再度有効化します。

14. NAがMySQLデータベースを使用している場合、「MySQLの構成の確認」(33ページ)に従ってMySQLの構成を確認します。
15. LinuxオペレーティングシステムでNAがMySQLデータベースを使用している場合、`/etc/hosts`ファイルに次の行があることを確認します。

```
127.0.0.1 localhost
```

NAにインストールされているMySQLでは、localhost行がここに記載されているとおりである必要があります。ホストファイルの情報を拡張するには、追加の定義を含む行を新しく追加します。

16. (Linuxのみ) NAセッションで開くファイル数の制限を、「[NAの実行のためのulimit値の設定 \(Linuxのみ\)](#)」(34ページ)の説明に従って設定します。
17. 「[JCSディスクキャッシュの無効化](#)」(35ページ)に従って、JCSディスクキャッシュを無効にします。
18. (オプション)「[データの整理](#)」(35ページ)に従って、最適化されたデータの整理タスクを使用します。
19. 「[NAのユーザインターフェイス設定の確認](#)」(36ページ)に従って、NAの構成を更新します。
20. 「[最新のNAドライバパックのインストール](#)」(37ページ)に従って最新のNAドライバパックをインストールします。
21. ゲートウェイがNAコアサーバにインストールされている場合、ゲートウェイを起動します。

```
/etc/init.d/opswgw-<ゲートウェイ名> start
```

NAライセンスの取得

アップグレードする前に、NA 10.00の新しい恒久ライセンスキーを取得する必要があります。

ヒント: 複数のNAコア環境では、すべてのNAコアに同じライセンスキーを使用します。

NAでは次のライセンスタイプがサポートされています。

- **インスタントオン:** インスタントオンライセンスは製品に付属しています。各インスタントオンライセンスには、デバイス250台、製品インストール後の試用期間60日間という制限があります。
- **恒久:** 恒久ライセンスは、HP License Key Delivery Serviceから取得する必要があります。恒久ライセンスには有効期限がありません。
- **評価:** 評価ライセンスはキャパシティと期間がカスタマイズされた一時ライセンスです。詳細については、NAの営業担当に問い合わせてください。

NA 10.00恒久ライセンスキーを取得するには、次の手順を実行します。

1. <http://support.openview.hp.com/support.jsp>にアクセスします。
2. [Sign-in with HP Passport]または[Login]ボタンをクリックし、資格情報を入力して、[Sign-in]ボタンをクリックします。
3. [ダウンロード]タブをクリックします。
4. [ソフトウェアアップデート]ボックスをクリックします。
5. [My Updates]リンクをクリックします。

6. プルダウンメニューからサービス契約ID(SAID)を選択するかSAIDを入力し、使用条件に同意して、[Submit]をクリックします。
7. [Network Management Center]ノードを展開します。
8. HP NAバージョン10.00の行を選択します。
9. [Get Software Updates]ボタンをクリックします。
10. [Get Licensing]タブをクリックします。
11. 選択した製品名を確認します。
12. [Get License]リンクをクリックします。
13. [Search Entitlements to Activate]ページで選択した資格を確認し、[Activate]をクリックします。
14. NAライセンスファイルを保存し、NAコアサーバからアクセスできる場所に転送します。

(オプション) NAインストーラーの署名の確認

NAインストールメディアのすべてのNAインストーラーには、Gnu Privacy Guard(GPG)署名ファイル(.sig)が含まれています。NAをインストールする前に、NAインストーラーが正当なものであることを確認することをお勧めします。ファイルの有効性を確認するには、次の場所にある「Verification using GPG」の手順に従ってください。

<https://h20392.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=HPLinuxCodeSigning>

このプロセスは、NAでサポートされているすべてのオペレーティングシステムプラットフォームに対して有効です。ファイルの確認はgpgの実行をサポートしているすべてのシステムで行うことができます。確認プロセスはgpgのバージョンやオペレーティングシステムによって異なることがあるため、使用するgpgバージョンのドキュメントを参照してください。

NA 10.00 Service Packインストーラーの実行

NA Service Packインストーラーを実行する前に、データベースサーバが動作していることを確認します。

NA Service Packインストーラーは、Java仮想マシン(JVM)ヒープサイズをシステムRAM容量およびプロセッサ数に応じて設定します。一般的に、JVMヒープサイズはRAMの半分に設定されます(NAインストーラーはYoung世代のサイズを明示的に設定しないため、この値はデフォルトでJVMヒープサイズの1/3になります)。次の例外事項に注意してください。

- ヒープサイズがNA Service Packインストーラーの設定より大きい値に設定されている場合、NA Service Packインストーラーはその値を変更しません。
- NAコアサーバのRAMが64GBを超えている場合、NAインストーラーはJVMヒープサイズを32GBに設定します。
- HP Network Node Manager i SoftwareがすでにNAコアサーバにインストールされている場合、NAインストーラーはシステムRAMサイズにかかわらずJVMヒープサイズを512MBに設定します。この場合、NAインストーラーはJVMのPermanent世代のガベージコレクション(PermGen)を128MBに設定します。

使用するオペレーティングシステムに関するセクションを参照してください。

WindowsオペレーティングシステムでのService Packインストーラーの実行

Windowsプラットフォームでアップグレードするには、NA Service PackインストーラーのDVDをDVDドライブに挿入し、次の手順を実行します。

1. Windowsタスクバーで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. 次のように入力します。[drive]:\windows_[nnnn]-[mmddyy]_spi_setup.exe([drive]はDVDドライブの文字、[nnnn]はビルド番号、[mmddyy]はビルド日)
3. [OK]をクリックします。
4. 画面の指示に従います。

注意: (Oracleのみ) マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。

LinuxオペレーティングシステムでのService Packインストーラーの実行

NA Service PackインストーラーをNA Linuxサーバにインストールする場合、DVDドライブにDVDを挿入してマウントします。NA Service Packインストーラーを実行するには、rootアクセスが必要です。

1. `cd /[DVD_MOUNT_POINT]`([DVD_MOUNT_POINT]はDVDドライブの場所)
2. `cd linux`
3. 次のコマンドを使用して、環境変数を設定します。TZ=UTCおよび`export TZ`
4. このセッションで開くファイル数の制限を設定します。
 - a. 次のコマンドを実行し、開くファイル数の制限を確認します。

```
ulimit -Sn
ulimit -Hn
```

ソフトウェア制限は少なくとも32768である必要があります。

ハードファイル制限は少なくとも32768である必要があります。

- b. 必要な場合、次のコマンドを実行してソフトウェア制限を更新します。

```
ulimit -n 32768
```

5. `sh linux_[nnnn]-[mmddyy]_spi_setup_64.bin`([nnnn]はビルド番号、[mmddyy]はビルド日)
6. 画面の指示に従います。

注意: (Oracleのみ) マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。

ログファイルに次のエラーが表示された場合、TZ環境変数の値を確認し、NA Service Packインストーラーを再起動します。

```
SQLException while trying to connect to the database. (データベースへの接続中にSQLExceptionが発生しました。)  
java.sql.SQLException:ORA-00604:error occurred at recursive SQL level 1  
(java.sql.SQLException: ORA-00604: 再帰SQLレベル1でエラーが発生しました)  
RA-01882: timezone region not found (RA-01882: タイムゾーン地域が見つかりませんでした)
```

MySQLの構成の確認

次のMySQLの構成オプションは、NAのパフォーマンスに影響します。

- 大規模なデバイス構成ではMySQL用に構成されたデフォルトのパケットサイズを超えることがあり、その結果、次のようなエラーが発生します。

```
DeviceDataManagementEJB:Exception in addDeviceData -  
com.mysql.jdbc.PacketTooBigException:Packet for query is too large.
```

この問題を回避するには、MySQLが受け入れる最大パケットサイズを少なくとも16MBに増やします。この値を調整してもエラーが発生する場合、さらに最大1GBまで増やします。

- MySQLの同時スレッド数を少数に制限すると、NAのパフォーマンスが低下することがあります(前のバージョンのNAでは、デフォルトの数は10でした)。この問題を回避するには、MySQL構成ファイルで、同時スレッド数を20に設定します。NAにインストールされているバージョンのMySQLはこれを「無限」と解釈します。

ここで説明したようにMySQL構成を設定するには、次の手順を実行します。

1. 変更するファイルを特定します。

一般的に、グローバル構成ファイルは次の場所にあります。

- Windows: <ドライブ>:\MySQL\my.ini
- Linux: /etc/my.cnf

2. 手順1で特定したファイルをバックアップします。
3. 構成ファイルをWordPadやviなどのテキストエディタで開きます。
4. MySQLの許容パケットサイズを16MBに設定するには、構成ファイルを次のように編集します。

- a. `string max_allowed_packet=`を含む行を見つけます。

この行が存在しない場合は、次の手順で作成します。

- b. この行を次のように更新し、割り当てを増やします。

```
max_allowed_packet=16776192
```

5. 同時スレッド数を無限に設定するには、構成ファイルを次のように編集します。

- a. `innodb_thread_concurrency=`という文字列を含む行を見つけます。
- b. この行を次のように更新し、同時スレッド数を無限に設定します。

```
innodb_thread_concurrency=20
```

6. 構成ファイルを保存します。

7. すべてのNAサービスを停止します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

8. MySQLを再起動します。

- Windows: [サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧でMySQLサービスを右クリックし、[再開]をクリックします。
- Linux: 次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/mysql restart
```

9. すべてのNAサービスを開始します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

NAの実行のためのulimit値の設定 (Linuxのみ)

NAコアサーバで、開くファイル数の制限が各NAセッションで適切に設定されていることを確認します。

1. 次のディレクトリに変更します。

```
/etc/init.d
```

2. `truecontrol`ファイルを、`/etc`ディレクトリの外部にバックアップします。

3. `truecontrol`ファイルで、次の行をコメント以外の最初の行として追加します。

```
ulimit -n 32768
```

4. NA水平スケーラビリティ環境では、NAコアサーバごとに前のすべての手順を繰り返します。

5. NAサーバごとに、すべてのNAサービスを再起動します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

ヒント: NAサービスの再起動は、JCSディスクキャッシュの無効化(次)の後まで待つことができます。

JCSディスクキャッシュの無効化

JCSディスクキャッシュを無効にするには、次の手順を実行します。

1. 次のディレクトリに変更します。
 - Windows: <NA_HOME>\jre
 - Linux: <NA_HOME>/jre
2. cache.ccf ファイルを、<NA_HOME> ディレクトリの外部にバックアップします。
3. cache.ccf ファイルをWordPadやviなどのテキストエディタで開きます。
4. jcs.default= 行に設定がないことを確認します。次のとおりである必要があります。

```
jcs.default=
```

5. AVAILABLE AUXILIARY CACHESという文字列を探し、次の各行を特定します。

```
# AVAILABLE AUXILIARY CACHES
jcs.auxiliary.DC=org.apache.jcs.auxiliary.disk.indexed.IndexedDiskCacheFactory
jcs.auxiliary.DC.attributes=org.apache.jcs.auxiliary.disk.indexed.IndexedDiskCacheAttributes
jcs.auxiliary.DC.attributes.DiskPath=/tmp/cache
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxPurgatorySize=10000000
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxKeySize=1000000
jcs.auxiliary.DC.attributes.MaxRecycleBinSize=5000
jcs.auxiliary.DC.attributes.OptimizeAtRemoveCount=300000
jcs.auxiliary.DC.attributes.ShutdownSpoolTimeLimit=60
```

6. 前の手順で特定した各行の行頭に番号記号 (#) を挿入してコメントアウトします。
7. cache.ccf ファイルを保存します。
8. NA 水平スケーラビリティ環境では、NA コアサーバごとに前のすべての手順を繰り返します。
9. NA サーバごとに、すべての NA サービスを再起動します。[「すべてのNAサービスの開始、停止、再開」\(50ページ\)](#)を参照してください。

データの整理

NA 9.20以降では、データの整理タスクが前のバージョンのNAから最適化されています。この最適化を利用するために、データの整理タスクが少なくとも週に1回実行するようにスケジュールされていることを確認します。

注: 分散システムまたは水平スケーラビリティ環境では、警告メッセージが表示されなくなるまで、データの整理タスクを1台のNAコアサーバで手動で実行することをお勧めします。その際、データの整理タスクが各コアで少なくとも週に1回実行するようにスケジュールされていることを確認します。

NAをアップグレードした後、データの整理タスクの最初の数回の実行で構成された最大タスク時間を超えることがあります。この場合、次の警告メッセージが表示されます。

```
com.rendition.pruner.ConfigPruner: タスクスレッドが割り込まれました。整理が部分的に完了しました。
```

このメッセージはさらにレコードの整理が可能であることを示しています。アクションは不要です。その後、データの整理を実行すると、残りのレコードがクリアされます。

ヒント: データベース構成にredoログが含まれている場合、特に警告メッセージが表示される場合は、それらのログ用に十分なディスク領域があることを確認します。必要なサイズはデータベース構成やNAデータベースのサイズによって異なります。

データベースのクリーンアップを高速化するには、次の手順のいずれかまたは両方を実行します。

- 最長タスク時間の値を一時的に18000(5時間)のような値まで大きくします。この設定は、NAコンソールの[管理] > [システム管理設定] > [サーボ]ページの[タスク]で行います。

ヒント: 警告メッセージが表示されなくなった後、最長タスク時間を元の値(デフォルトで3600)にリセットします。

- 警告メッセージが表示されなくなるまで、データの整理タスクを手動で実行します。

NAのユーザインターフェイス設定の確認

NA 9.20以降へのアップグレードにより、HTMLおよびアプリケーション処理のためのコード修正がインストールされます。これらの修正を有効にするには、次の手順を実行します。

1. NA管理者としてNAコンソールにログインします。
2. [ユーザインターフェイス] ページ([管理] > [システム管理設定] > [ユーザインターフェイス])を開きます。
3. [セキュリティ] で次の変更を行います。
 - [クロスサイトスクリプティングの確認] チェックボックスをオンにします。
 - [スタックレースの表示] チェックボックスをオフにします。
4. [その他] で次の変更を行います。
 - [隠し文字のスタックレース出力を無効にする] チェックボックスをオンにします。
 - [詳細例外メッセージ出力の無効化] チェックボックスをオンにします。

最新のNAドライバパックのインストール

NA Upgradeインストーラーにより、NA サーバの既存のドライバパックがインストーラーに内蔵されているドライバパックで書き換えられます。機能に問題が発生しないように、NAのアップグレードまたはインストールを行った後、最新のNAドライバパックをインストールします。次の手順を実行します。

1. 次のHP Live NetworkのWebサイトにアクセスします。

<https://hpln.hp.com//node/19/contentfiles?dir=2257>

([Driver Packs] > [Network Automation Version 10.xx Driver Packs])

このページにアクセスするには、HP Live Networkユーザアカウントが必要です。

2. 最新のNAドライバパックをダウンロードします。
3. ダウンロードしたドライバパックをインストールします。

第4章: NA 10.00 のインストール

この章では、新しいスタンドアロンNAコアサーバへのNA 10.00のインストールについて説明します。

他のNA環境でのインストールの詳細については、該当するマニュアルを参照してください。

- NA マルチマスタ分散システム

分散システム環境でのNAのインストールの詳細については、『NA Multimaster Distributed System on Oracle Guide』または『NA Multimaster Distributed System on SQL Server Guide』を参照してください。

- NA 水平スケーラビリティ

水平スケーラビリティ環境でのNAのインストールの詳細については、『NA Horizontal Scalability Guide』を参照してください。

- NA Satellites

『NA Satellite Guide』の「Installation」セクションを参照してください。

次の手順では、NAコア1個のインストールの概要を説明します。

1. 「データベースの準備」(38ページ)
2. 「Nmapのインストール」(42ページ)
3. 「NAライセンスの取得」(42ページ)
4. 「(オプション)NAインストーラーの署名の確認」(43ページ)
5. 「NAインストーラーの実行」(44ページ)
6. 「NAの実行のためのulimit値の設定(Linuxのみ)」(46ページ)
7. 「最新のNAドライバパックのインストール」(46ページ)

データベースの準備

OracleまたはSQL Serverの場合、NAでNAデータベースユーザアカウントの一般操作に対する権限縮小がサポートされています。詳細については、『NA Administration Guide』の「Running NA with Minimal Database User Privileges」を参照してください。

データベースオプションの詳細については、使用するデータベースタイプに関するセクションを参照してください。

- 「MySQLデータベースのオプション」(39ページ)
- 「Oracleデータベースのオプション」(39ページ)
- 「Microsoft SQL Serverデータベースのオプション」(41ページ)

MySQLデータベースのオプション

Linuxオペレーティングシステムで、`/etc/hosts`ファイルに次の行があることを確認します。

```
127.0.0.1    localhost
```

NAにインストールされているMySQLでは、`localhost`行がここに記載されているとおりである必要があります。ホストファイルの情報を拡張するには、追加の定義を含む行を新しく追加します。

インストールの際、次のMySQLデータベースのオプションをメモします。

1. NAでMySQL Enterprise Server 5.0.58をインストールする場合、MySQLのインストール先フォルダが尋ねられても、NAインストールフォルダまたはそのサブフォルダは選択しないでください。
2. 新しいデータベースを作成するか既存のデータベースを使用するかを尋ねられたら、[Create New Database]オプションを選択します。データベースの作成後は、前の手順に戻らないでください。

注: 以前にインストールしたNAで作成した既存のNAデータベースを使用する場合、「using existing database」オプションを選択します。該当する場合、データベースは最新バージョンにアップグレードされます。

Oracleデータベースのオプション

Oracleデータベース構成では、次の作業が必要です。

- NA専用の新規テーブルスペースを作成します。次に例を示します。

```
CREATE TABLESPACE NADB DATAFILE '/u01/app/oracle/oradata/SIDxx/NADB01.DBF'  
SIZE 30G REUSE;
```

ヒント: NAのテーブルスペースのデフラグを後で有効にできるようにするには、自動セグメントスペース管理 (ASSM) を使用してテーブルスペースを作成します。このコマンド例では、ASSMでテーブルスペースが作成されます。

- 新規テーブルスペースを使用するNAデータベースユーザを作成します。例 (Oracleユーザ名が `nauser` である場合) :

```
CREATE USER nauser IDENTIFIED BY napass DEFAULT TABLESPACE NADB QUOTA 100M ON  
NADB;
```

- 少なくとも次の権限をNAデータベースユーザに付与します。

- CREATE SEQUENCE
- CREATE SESSION
- CREATE TABLE
- CREATE PROCEDURE
- SELECT ANY DICTIONARY

- CONNECT
- EXECUTE on CTXSYS.ctx_ddl

例 (Oracle ユーザ名が `nauser` である場合):

```
GRANT CREATE SEQUENCE, CREATE SESSION, CREATE TABLE to nauser;  
GRANT CREATE PROCEDURE, SELECT ANY DICTIONARY, CONNECT to nauser;  
GRANT EXECUTE on CTXSYS.ctx_ddl to nauser;
```

- 「含む(全文)」検索機能を後で構成できるようにするには、データベースで Oracle Text を有効化します。

NA のインストール中の非クラスタ Oracle の指定

非クラスタ Oracle 環境では、インストールの際に次のデータベースオプションに注意してください。

1. データベース管理者ログイン情報が求められたら、NA テーブルスペースへのアクセス権を持っているデータベースユーザを入力します。
2. データベースの構成が求められたら、「Clean database for use by NA」オプションを選択します。データベースの作成後は、前の手順に戻らないでください。

注: 以前にインストールした NA で作成した既存の NA データベースを使用する場合、「using existing database」オプションを選択します。該当する場合、データベースは最新バージョンにアップグレードされます。

NA のインストール中の Oracle RAC の指定

Oracle RAC 環境では、インストールの際に次のデータベースオプションに注意してください。

1. データベース管理者ログイン情報が求められたら、NA テーブルスペースへのアクセス権を持っているデータベースユーザを入力します。
2. データベースの構成が求められたら、「Clean database for use by NA」オプションを選択します。データベースの作成後は、前の手順に戻らないでください。

注: 以前にインストールした NA で作成した既存の NA データベースを使用する場合、「using existing database」オプションを選択します。該当する場合、データベースは最新バージョンにアップグレードされます。

3. データベース資格情報が求められたら、次の操作を実行します。
 - a. テキストエディタで `<NA_HOME>/server/conf/JDBCDrivers.properties` ファイルを開きます。
 - b. 次の書式で `oracle.url` 変数を設定します。

```
oracle.url=jdbc:oracle:thin:@//<server>:<port>/<service_name>
```

変数は次のように指定します。

- `<server>`は、Oracle RACクラスタのIPアドレスまたは完全修飾ホスト名です。
 - `<port>`には、Oracle RACクラスタのポートを指定します。
 - `<service_name>`には、Oracle RACクラスタのサービス名を指定します。
- c. ファイルを保存します。
- d. NAインストーラプロンプトで、次の情報を入力します。
- データベースのIPアドレスまたはホスト名には、`oracle.url`変数の`<server>`の値を入力します。
 - データベースのポートには、`oracle.url`変数の`<port>`の値を入力します。
 - データベースSID/サービス名には、`oracle.url`変数の`<service_name>`の値を入力します。
4. NAのインストールが完了した後、`<NA_HOME>/server/ext/jboss/server/default/deploy/db_ds.xml`ファイルのOracle RACクラスタ情報が最新であることを確認します。

Microsoft SQL Serverデータベースのオプション

SQL Serverデータベース構成では、次の作業が必要です。

- 「含む(全文)」検索機能を後で構成できるようにするには、SQL Serverフルテキスト検索をインストールしてデータベースで有効化します。

NA インストールの際、次のMicrosoft SQL Serverデータベースのオプションをメモします。

1. データベース管理者ログインが求められたときに、「Use Windows Authentication」オプションを選択しない場合、グローバルレベルですべての権限を持っていることを確認します。
2. 管理者の資格情報を求められた場合、`sysadmin`ロールを持つSQL Serverユーザアカウントを入力します。SQL Server SAユーザアカウントまたはカスタムユーザアカウントを使用できます。
3. 新しいデータベースを作成するか既存のデータベースを使用するかを尋ねられたら、[Create New Database]オプションを選択します。

注: 以前にインストールしたNAで作成した既存のNAデータベースを使用する場合、「using existing database」オプションを選択します。該当する場合、データベースは最新バージョンにアップグレードされます。

4. 新規データベースユーザの資格情報を求められた場合、SQL Serverにまだ存在しないユーザ名を入力します。

SQL Server管理者ユーザとして、NAインストーラによって次のデータベースアクションが実行されます。

1. NAデータベースにNAテーブルを作成します。
2. 入力された資格情報を使用して、新規SQL Serverユーザを作成します。NAコアはこの新規アカウントを使用してNAデータベースに接続します。

Nmapのインストール

Nmapを使用すると、ネットワークをスキャンして、稼動中のホストと、それらのホストが提供するサービスを把握できます。

NAコアサーバのオペレーティングシステムに関するセクションを参照し、Nmapをインストールします。

- 「WindowsオペレーティングシステムでのNmapのインストール」(42ページ)
- 「LinuxオペレーティングシステムでのNmapのインストール」(42ページ)

Nmapの詳細については、『NAユーザガイド』の「スキャン方法」を参照してください。

WindowsオペレーティングシステムでのNmapのインストール

NAに付属しているNmap実行ファイルは、必ずしもWindowsのすべてのバージョンに対応しているとは限りません。使用中のWindowsのバージョンに適したNmapインストールパッケージをダウンロードしてください。

LinuxオペレーティングシステムでのNmapのインストール

LinuxオペレーティングシステムにNmapをインストールするには、次の手順を実行します。

1. `cd <NA_HOME>/server/ext/nmap`
2. 次のコマンドを使用して、RPMパッケージをインストールします。

```
rpm -i <rpmファイル>
```

例:

```
cd <NA_HOME>/server/ext/nmap  
rpm -i nmap-3.81-1.i386.rpm
```

3. <NA_HOME>/server/ext/nmapディレクトリに、Nmap実行可能ファイルへのリンクを作成します。

```
cd <NA_HOME>/server/ext/nmap  
ln -s /usr/bin/nmap nmap
```

NAライセンスの取得

アップグレードする前に、NA 10.00の新しい恒久ライセンスキーを取得する必要があります。

ヒント: 複数のNAコア環境では、すべてのNAコアに同じライセンスキーを使用します。

NAでは次のライセンスタイプがサポートされています。

- **インスタントオン**: インスタントオンライセンスは製品に付属しています。各インスタントオンライセンスには、デバイス250台、製品インストール後の試用期間60日間という制限があります。
- **恒久**: 恒久ライセンスは、HP License Key Delivery Serviceから取得する必要があります。恒久ライセンスには有効期限がありません。
- **評価**: 評価ライセンスはキャパシティと期間がカスタマイズされた一時ライセンスです。詳細については、NAの営業担当に問い合わせてください。

NA 10.00恒久ライセンスキーを取得するには、次の手順を実行します。

1. <http://support.openview.hp.com/support.jsp>にアクセスします。
2. **[Sign-in with HP Passport]**または**[Login]**ボタンをクリックし、資格情報を入力して、**[Sign-in]**ボタンをクリックします。
3. **[ダウンロード]**タブをクリックします。
4. **[ソフトウェアアップデート]**ボックスをクリックします。
5. **[My Updates]**リンクをクリックします。
6. プルダウンメニューからサービス契約ID(SAID)を選択するかSAIDを入力し、使用条件に同意して、**[Submit]**をクリックします。
7. **[Network Management Center]**ノードを展開します。
8. HP NAバージョン10.00の行を選択します。
9. **[Get Software Updates]**ボタンをクリックします。
10. **[Get Licensing]**タブをクリックします。
11. 選択した製品名を確認します。
12. **[Get License]**リンクをクリックします。
13. **[Search Entitlements to Activate]**ページで選択した資格を確認し、**[Activate]**をクリックします。
14. NAライセンスファイルを保存し、NAコアサーバからアクセスできる場所に転送します。

(オプション) NAインストーラーの署名の確認

NAインストールメディアのすべてのNAインストーラーには、Gnu Privacy Guard(GPG)署名ファイル(.sig)が含まれています。NAをインストールする前に、NAインストーラーが正当なものであることを確認することをお勧めします。ファイルの有効性を確認するには、次の場所にある「Verification using GPG」の手順に従ってください。

<https://h20392.www2.hp.com/portal/swdepot/displayProductInfo.do?productNumber=HPLinuxCodeSigning>

このプロセスは、NAでサポートされているすべてのオペレーティングシステムプラットフォームに対して有効です。ファイルの確認はgpgの実行をサポートしているすべてのシステムで行うことができます。確認プロセスはgpgのバージョンやオペレーティングシステムによって異なることがあるため、使用するgpgバージョンのドキュメントを参照してください。

NAインストーラーの実行

NAをWindowsプラットフォームにインストールする場合、インストールウィザードを実行します。NAをLinuxプラットフォームにインストールする場合、CLIインストーラーを実行します。

NAインストーラーは、Java仮想マシン(JVM)ヒープサイズをシステムRAM容量およびプロセッサ数に応じて設定します。一般的に、JVMヒープサイズはRAMの半分に設定されます(NAインストーラーはYoung世代のサイズを明示的に設定しないため、この値はデフォルトでJVMヒープサイズの1/3になります)。次の例外事項に注意してください。

- NAコアサーバのRAMが64GBを超えている場合、NAインストーラーはJVMヒープサイズを32GBに設定します。
- HP Network Node Manager i Software(NNMI)がすでにNAコアサーバにインストールされている場合、NAインストーラーはシステムRAMサイズにかかわらずJVMヒープサイズを512MBに設定します。この場合、NAインストーラーはJVMのPermanent世代のガベージコレクション(PermGen)を128MBに設定します。

注: NAをインストールする前に、サポート対象バージョンのActivePerl(Windowsの場合)またはPerl(Linuxの場合)がインストールされていることを確認します。サポート対象バージョンについては、『NAサポートマトリックス』を参照してください。

注: インストールに失敗した場合、すべてのログファイルをNAディレクトリ構造の外部に保存してから、インストールを再実行します。

使用するオペレーティングシステムに関するセクションを参照してください。

Windowsオペレーティングシステムでのインストーラーの実行

NAをインストールするには、管理者権限で次の手順を実行します。

1. Windowsタスクバーで、[スタート]>[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
2. 次のように入力します。<drive>:\windows\windows_[nnn]-[mmddyy]_setup_64.exeと入力します (<drive>はCD-ROMドライブの文字、[nnn]-[mmddyy]はビルド番号です)。
3. [OK]をクリックします。

画面の指示に従います。

注: セットアップはPC Anywhereでは使用できません。PC Anywhereを通じてセットアップを実行する場合、インストール手順のウィンドウは表示できません。これはNAのアンインストールにも影響します。

Linuxオペレーティングシステムでのインストーラーの実行

LinuxサーバにNAをインストールするには、次の手順を実行します。

1. rootユーザとしてLinuxサーバにログインします。
2. インストーラーが物理メディアにある場合、そのドライブをマウントします。

a. `mount /mnt/cdrom`

b. `cd /mnt/cdrom`

3. CLIインストーラーを含むディレクトリに移動します。

物理メディアでlinuxディレクトリに移動します。

4. 次のコマンドを使用して、タイムゾーン環境変数を設定します。

```
TZ=UTC
export TZ
```

5. このセッションで開くファイル数の制限を設定します。

- a. 次のコマンドを実行し、開くファイル数の制限を確認します。

```
ulimit -Sn
ulimit -Hn
```

ソフトファイル制限は少なくとも32768である必要があります。

ハードファイル制限は少なくとも32768である必要があります。

- b. 必要な場合、次のコマンドを実行してソフトファイル制限を更新します。

```
ulimit -n 32768
```

6. インストーラーを実行します。

```
./linux_[nnn]-[mmddyy]_setup_64.bin
```

画面の指示に従います。

ログファイルに次のエラーが表示された場合、TZ環境変数の値を確認し、NA Service Packインストーラーを再起動します。

```
SQLException while trying to connect to the database. (データベースへの接続中にSQLExceptionが発生しました。)
java.sql.SQLException:ORA-00604:error occurred at recursive SQL level 1
(java.sql.SQLException: ORA-00604: 再帰SQLレベル1でエラーが発生しました)
RA-01882: timezone region not found(RA-01882: タイムゾーン地域が見つかりませんでした)
```

NAの実行のためのulimit値の設定 (Linuxのみ)

NAコアサーバで、開くファイル数の制限が各NAセッションで適切に設定されていることを確認します。

1. 次のディレクトリに変更します。

```
/etc/init.d
```

2. truecontrolファイルを、/etcディレクトリの外部にバックアップします。
3. truecontrolファイルで、次の行をコメント以外の最初の行として追加します。

```
ulimit -n 32768
```

4. NA水平スケーラビリティ環境では、NAコアサーバごとに前のすべての手順を繰り返します。
5. NAサーバごとに、すべてのNAサービスを再起動します。「すべてのNAサービスの開始、停止、再開」(50ページ)を参照してください。

最新のNAドライバパックのインストール

NA Upgradeインストーラーにより、NAサーバの既存のドライバパックがインストーラーに内蔵されているドライバパックで上書きされます。機能に問題が発生しないように、NAのアップグレードまたはインストールを行った後、最新のNAドライバパックをインストールします。次の手順を実行します。

1. 次のHP Live NetworkのWebサイトにアクセスします。

<https://hpln.hp.com//node/19/contentfiles?dir=2257>

([Driver Packs] > [Network Automation Version 10.xx Driver Packs])

このページにアクセスするには、HP Live Networkユーザアカウントが必要です。

2. 最新のNAドライバパックをダウンロードします。
3. ダウンロードしたドライバパックをインストールします。

第5章: NAおよびMySQLのアンインストール

NAのアンインストールでは、いくつかの手順を実行する必要があります。最も重要な手順は、WindowsまたはLinuxからのNA自体のアンインストールおよび関連コンポーネントの削除です。NAでMySQLデータベースをインストールした場合、同時にデータベースをアンインストールすることもできますが、データベースを削除すると履歴データも完全に失われます。

注: MySQLのアンインストールは別途行う必要があります。

NAをアンインストールする場合、アンインストールしてもデータベースは削除されないことに注意してください。データベースを手動で削除する場合は、NAを再インストールする前に、これらのファイルが削除されていることを確認する必要があります。

注: アンインストールに失敗した場合、すべてのログファイルをNAディレクトリ構造の外部に保存してから、アンインストールを再実行します。

この章のトピックは、次のとおりです。

- [「WindowsからのNAのアンインストール」\(47ページ\)](#)
- [「NAの手動アンインストール\(Windows\)」\(48ページ\)](#)
- [「MySQL 5.0.58のアンインストール\(NAインストーラー\)」\(48ページ\)](#)

WindowsからのNAのアンインストール

次の手順では、NAをデフォルトのディレクトリと名前インストールした場合を想定しています。NAを別のディレクトリや別の名前でインストールした場合は、状況に合わせて調整してください。

WindowsからNAをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. [スタート]>[プログラム]>[HP Network Automation]>[Uninstall HP Network Automation]をクリックします。
2. [アンインストール]をクリックします。
3. プログラムのアンインストールが完了したら、[終了]をクリックします。
4. 再起動を求めるメッセージが表示されます。コンピュータを再起動すると、c:\NAフォルダ(インストールフォルダ)が削除されます。

注: WindowsプラットフォームでNAの新しいバージョンにアップグレードした場合、NAアンインストーラーではFTPサービスは削除されません。そのため、NAのアンインストール後、コマンドラインプロンプトから`sc delete TrueControlFTP`コマンドを入力してFTPサービスを削除します。

LinuxからのNAのアンインストール

LinuxからNAをアンインストールするには、rootユーザとして次の手順を実行します。

1. <NA_HOME>/UninstallerDataディレクトリ(例:/opt/NA/UninstallerData)に移動します。
2. 次のように入力します。./Uninstall_HP_Network_Automation
3. アンインストーラーが完了した後、<NA_HOME>ディレクトリを削除します(存在する場合)。

NAの手動アンインストール(Windows)

NAアンインストーラーの進行が10分以上停止した場合、NAアンインストーラープロセスを停止し、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行し、すべてのNAサービスを停止します。

```
{<NA_HOME>} \server\ext\wrapper\bin\UninstallAAAWrapper-NT.bat  
{<NA_HOME>} \server\ext\wrapper\bin\UninstallJBossWrapper-NT.bat  
{<NA_HOME>} \server\ext\wrapper\bin\UninstallSWIMWrapper-NT.bat  
{<NA_HOME>} \server\ext\wrapper\bin\UninstallSyslogWrapper-NT.bat  
{<NA_HOME>} \server\ext\wrapper\bin\UninstallTFTPWrapper-NT.bat
```

2. NAフォルダを削除します。
3. Windowsレジストリキーが存在する場合は削除します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Rendition Networks\TrueControl  
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TrueControlJBoss  
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TrueControlAAA  
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TrueControlJBossSWIM  
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TrueControlJBossSyslog  
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TrueControlJBossTFTP
```

4. %WINDIR%\temp\Renditionフォルダを手動で削除します(注意:%WINDIR%は通常、C:\WINDOWSまたはC:\WINNTにあります。ただし、別のドライブにある場合もあります)。

MySQL 5.0.58のアンインストール(NAインストーラー)

このセクションでは、NAインストーラーを使用してMySQL 5.0.58をインストールした場合に、MySQL 5.0.58をアンインストールする方法について説明します。

WindowsプラットフォームでMySQL 5.0.58をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. [%MYSQL_HOME]\bin\remove-service.batをダブルクリックします。
2. 必要に応じてMySQLデータフォルダをバックアップします。

3. `[$MYSQL_HOME]`を手動で削除します。`[$MYSQL_HOME]`はMySQLがインストールされている場所です。

LinuxプラットフォームでMySQL 5.0.58をアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. `/etc/init.d/mysql stop`を実行します。
2. 必要ならMySQLデータフォルダをバックアップします。
3. `rm -rf /etc/init.d/mysql /etc/my.cnf [$MYSQL_HOME]`を実行します。`[$MYSQL_HOME]`はMySQLがインストールされている場所です(デフォルトでは`/opt/mysql`)。

付録A: 共通の手順

このセクションでは、HP Network Automationソフトウェア(NA)の多くの構成およびメンテナンスタスクに共通する手順について説明します。トピックは次のとおりです。

- 「すべてのNAサービスの開始、停止、再開」(50ページ)
- 「すべてのNAサービスを無効にします。」(51ページ)
- 「.rcxファイルの扱い方」(51ページ)

すべてのNAサービスの開始、停止、再開

NAの構成を変更する前にNAサービスを停止することで、競合しているデータがNAデータベースに格納されるのを防止できます。手順によっては、更新された構成を読み取るためにNAサービスの再開が必要です。

すべてのNAサービスを開始するには

- Windows:[サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧で次の各サービスを右クリックし、[開始]をクリックします。
 - TrueControl ManagementEngine
 - TrueControl FTP Server
 - TrueControl SWIM Server
 - TrueControl Syslog Server
 - TrueControl TFTP Server

- Linux: 次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/truecontrol start
```

すべてのNAサービスを停止するには

- Windows:[サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧で次の各サービスを右クリックし、[停止]をクリックします。
 - TrueControl ManagementEngine
 - TrueControl FTP Server
 - TrueControl SWIM Server
 - TrueControl Syslog Server
 - TrueControl TFTP Server

- Linux: 次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/truecontrol stop
```

すべてのNAサービスを再開するには

- Windows:[サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧で次の各サービスを右クリックし、[再開]をクリックします。

- TrueControl ManagementEngine
 - TrueControl FTP Server
 - TrueControl SWIM Server
 - TrueControl Syslog Server
 - TrueControl TFTP Server
- Linux: 次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/truecontrol restart
```

すべてのNAサービスを無効にします。

手順によっては、システムのブート時のNAサービスの自動スタートアップを無効にする必要があります。

すべてのNAサービスを無効にするには

- Windows: [サービス]コントロールパネルを開きます。サービス一覧で次の各サービスを右クリックし、[プロパティ]をクリックして[スタートアップの種類]を[無効]に設定します。
 - TrueControl ManagementEngine
 - TrueControl FTP Server
 - TrueControl SWIM Server
 - TrueControl Syslog Server
 - TrueControl TFTP Server
- Linux:

```
mv /etc/rc.d/rc5.d/S99truecontrol /etc/S99truecontrol
```

.rcxファイルの扱い方

HP Network Automationソフトウェア(NA)のプロパティファイルでは、.rcxという拡張子を使用します。NAはアルファベットの逆の順序で.rcxファイルを読み取ります。指定された設定が複数の.rcxファイルにわたっている場合、NAは最後に読み取った値を使用します。そのため、adjustable_options.rcxファイルの設定は、NAでインストールされている他の.rcxファイルの設定よりも優先されます。

注: スタートアップ時、NAはjreディレクトリのすべてのファイルを読み取り、NAの構成オプションに対応するコンテンツを解釈します。このため、.rcxファイルのすべてのバックアップコピーをNAのルートディレクトリの外に保存してください。

水平スケーラビリティ環境では、NAは.rcxファイル以外のほとんどの設定の実際の値をNAコア全体で共有します。1つのNAコアで設定を変更すると、その設定が他のNAコアに複製されます。変更の複製中にNAコアが動作していない場合、そのNAコアには変更が反映されません。その場合、後で[管理]>[分散]>[構成オプションを更新]ページを使用して、他のNAコアに変更をプッシュします。

ヒント: appserver.rcxファイルの分散システムオプションのセクションに、1つのNAコアに固有で、NAコア全体で共有されていない設定が表示されます。

構成の変更内容によっては、.rcxファイルの変更が必要です。.rcxファイルは次のディレクトリにあります。

- Windows:<NA_HOME>\jre
- Linux:<NA_HOME>/jre

注意: .rcxファイルの編集は常に注意して行ってください。これらのファイルはXML形式を使用しています。.rcxファイルの変更によって無効なXMLになった場合、NAコンソールが正常に起動しない可能性があります。

ヒント: 構成の変更はすべてadjustable_options.rcxファイルで行うことをお勧めします。NAのパッチインストールと製品のアップグレードにより、NAによってインストールされた他の.rcxファイルが上書きされる可能性があります。

.rcxファイルを変更するための一般的な手順は次のとおりです。

1. .rcxファイルを、<NA_HOME>ディレクトリの外部にバックアップします。
(NAはNAディレクトリ構造内のすべての.rcxファイルを読み取ります。)
2. 手順に従って、新規コンテンツを追加するか、既存コンテンツを更新します。
3. .rcxファイルを保存します。
4. 次のいずれかの操作を実行し、.rcx設定を再度読み込みます。
 - NAコンソールの[管理]>[システム管理設定]>[ユーザインターフェイス]ページで、[保存]をクリックします。
 - NAプロキシからreload server optionsコマンドを実行します。
 - NAサービスを再開します。

ヒント: 変更内容によっては、NAサービスを再開するまで反映されません。

付録B: インストールに関するその他のトピック

このセクションでは、HP Network Automationソフトウェア(NA)のインストールのメンテナンスについて説明します。トピックは次のとおりです。

- 「[NAライセンス情報の配布](#)」(53ページ)
- 「[\[システムステータス\]ページ](#)」(54ページ)
- 「[データベースのアップグレード](#)」(54ページ)

NAライセンス情報の配布

NA 10.00ライセンスを配布するには、ベストプラクティスとして、インストールまたはアップグレード時にNAライセンスキーを含むテキストファイルをNAコアサーバに配置します。こうすることで、NAコンソールにすぐにアクセスできます。インストールまたはアップグレード時にNAライセンステキストファイルを配置せず、インスタントオンライセンスがすでに消費されている場合、NA 10.00の有効なライセンス情報を入力するまでNAを使用できません。

製品のインストールまたはアップグレード後にNAライセンスキーを配布するには、状況に応じて適切な手順に従います。

- NAコンソールにログオンできる場合
 - a. 「[NAライセンスの取得](#)」(42ページ)に従って、NAライセンスキーを取得します。
 - b. NA管理者としてNAコンソールにログオンします。
 - c. [HP Network Automationについて]ページ([ヘルプ]>[HP Network Automationについて])で、[\[ライセンス情報を表示\]](#)リンクをクリックします。
 - d. [ライセンス情報]ページで、提供されているライセンスファイルのコンテンツ全体をテキストボックスにコピーし、[\[ライセンスを更新\]](#)をクリックします。
- NAコンソールにログオンできない場合
 - a. 「[NAライセンスの取得](#)」(42ページ)に従って、NAライセンスキーを取得します。
 - b. 新しいNAライセンスキーをlicense.datファイルにコピーします。このファイルはNAインストールディレクトリ(<NA_HOME>)にあります。
 - このファイルが存在する場合、現在の内容を、提供されているライセンスファイルの内容全体で置き換えます。
 - このファイルが存在しない場合、提供されているライセンスファイルの内容のみ(余分な行を含まない)になるようにファイルを作成します。
 - c. すべてのNAサービスを再起動します。「[すべてのNAサービスの開始、停止、再開](#)」(50ページ)を参照してください。

[システムステータス]ページ

既存のNAデータベースの名前が不明な場合、NAをシャットダウンする前に次の手順を実行します。

1. [管理]メニューバーで[システムステータス]をクリックします。[システムステータス]ページが開きます。
2. [監視名]列で、DatabaseMonitorを見つけます。
3. [アクション]列で[詳細を表示]オプションをクリックします。データベース情報が表示されます。

データベースのアップグレード

このトピックでは、NAのコアソフトウェアのアップグレードとは別に、NAデータベースをアップグレードする方法について説明します。NAのコアソフトウェアもアップグレードする必要がある場合、まず該当する手順を参照してください。

- [「別のシステムからNA 10.00へのアップグレード」](#)(13ページ)
- [「同一システムでのNA 10.00へのアップグレード」](#)(26ページ)

NAが使用しているデータベースサーバのデータベースソフトウェアを、同一システム上でアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. すべてのNAサービスを停止します。
2. NAデータベースをバックアップします。

注: データベース名を入力してNAデータベースを特定するときには、データベースアプリケーション内のデータベース名と大文字小文字が一致する必要があります。たとえば、作成したNAデータベースの名前が「Nadb」である場合、データベースのバックアップと復元でも「Nadb」と入力します。

3. データベースをNA 10.00でサポートされているバージョンにアップグレードします。
4. NAを再開し、NAが正常に動作していることを確認します。

注: 各データベースのアップグレードの詳細については、該当するベンダーおよび社内のデータベース管理者(DBA)から提供されているマニュアルを参照してください。

付録C: インストールに関するチュートリアル

この付録では、HP Network Automationソフトウェア(NA)のインストールについて説明します。この付録のトピックは、次のとおりです。

- 「スタンドアロンでのインストール」(55ページ)
 - 「Windowsオペレーティングシステム」(56ページ)
 - 「Linuxオペレーティングシステム」(92ページ)
- 「Service Packインストーラー」(111ページ)
 - 「Windowsオペレーティングシステム」(112ページ)
 - 「Linuxオペレーティングシステム」(125ページ)

スタンドアロンでのインストール

サポート対象プラットフォームについては、『NAサポートマトリックス』を参照してください。

注: Oracleを使用している場合、インストールの前にNAデータベーステーブルを作成します。

Microsoft SQL Serverを使用している場合、インストールの際にNAデータベースインスタンスが作成されます。

このガイドの「[NA 10.00 のインストール](#)」(38ページ)の手順に従います。NAインストーラーのインターフェイスについては、このセクションを参照してください。

注: NAコアサーバのオペレーティングシステムのロケールを、NAのインストール言語と同じにすることをお勧めします。

Windowsオペレーティングシステム

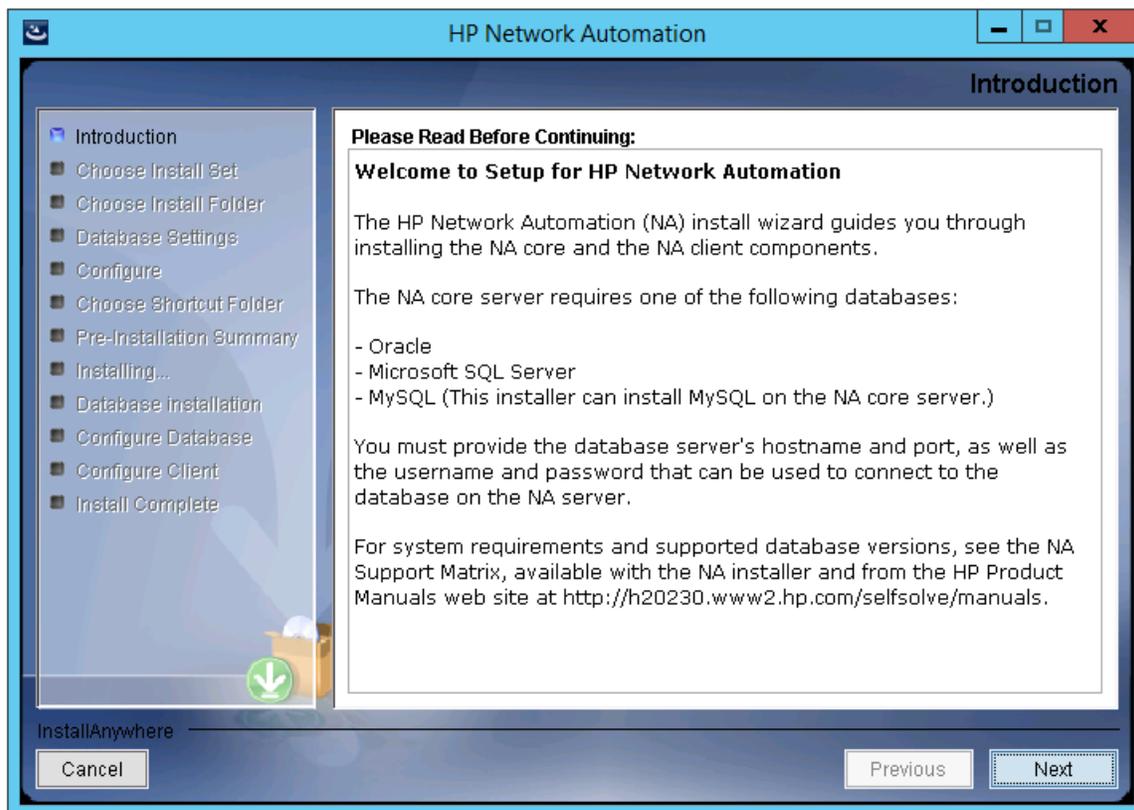
WindowsプラットフォームでNAをインストールするには、次の手順を実行します。

1. リリースパッケージで`setup.exe`ファイルを見つけてダブルクリックします。

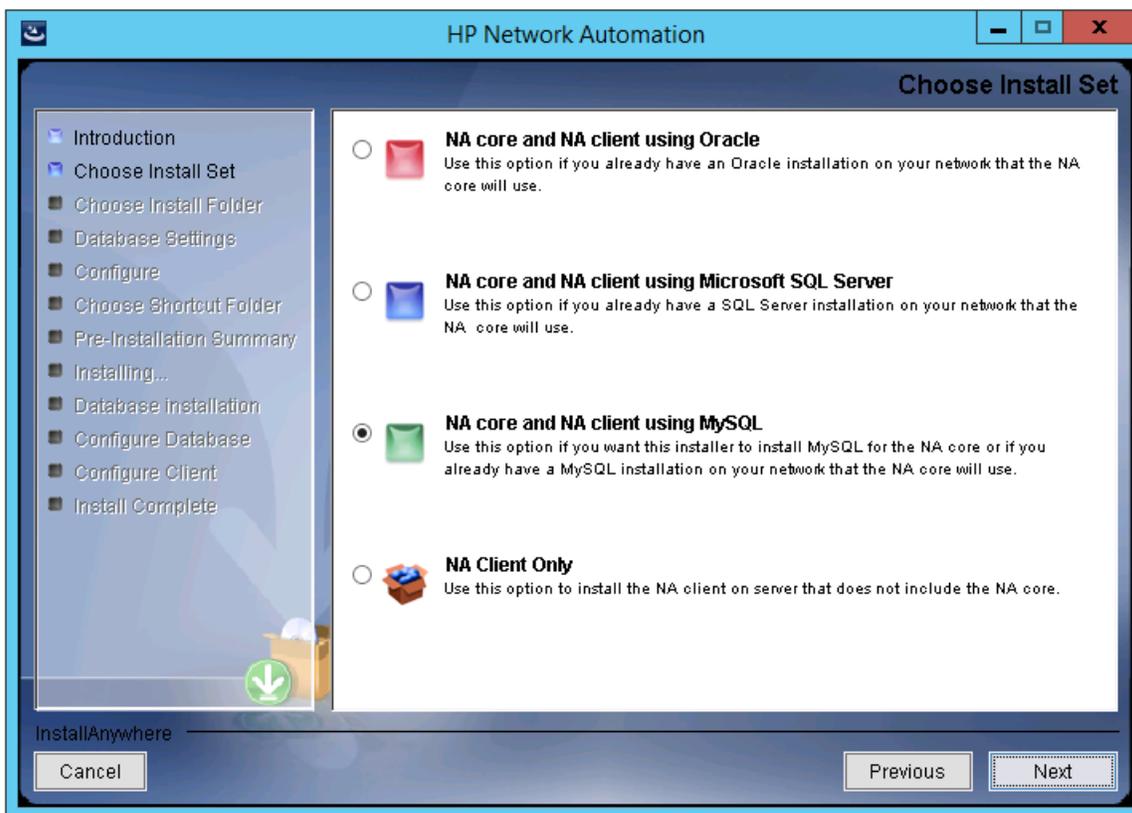
空のコマンドプロンプトウィンドウがただちに開きます。このウィンドウは、インストール中ずっと開いたままにします。



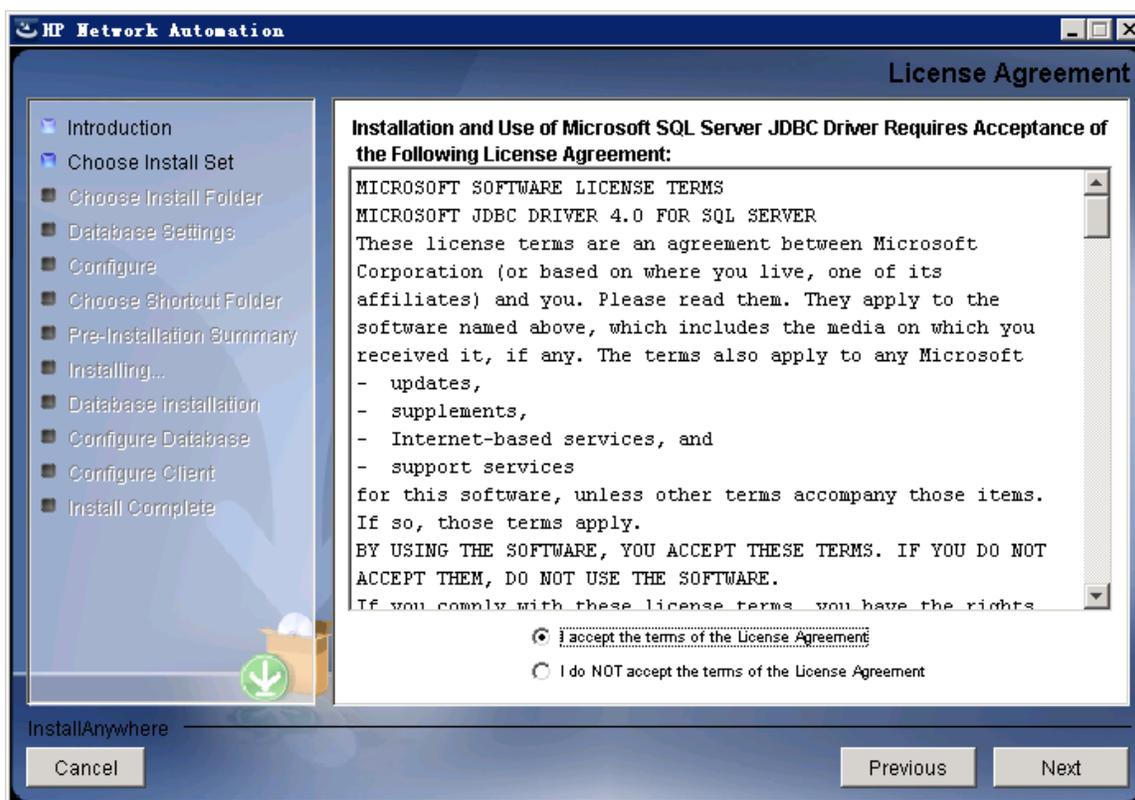
2. [Introduction]ページで概要情報を確認し、[Next]をクリックします。



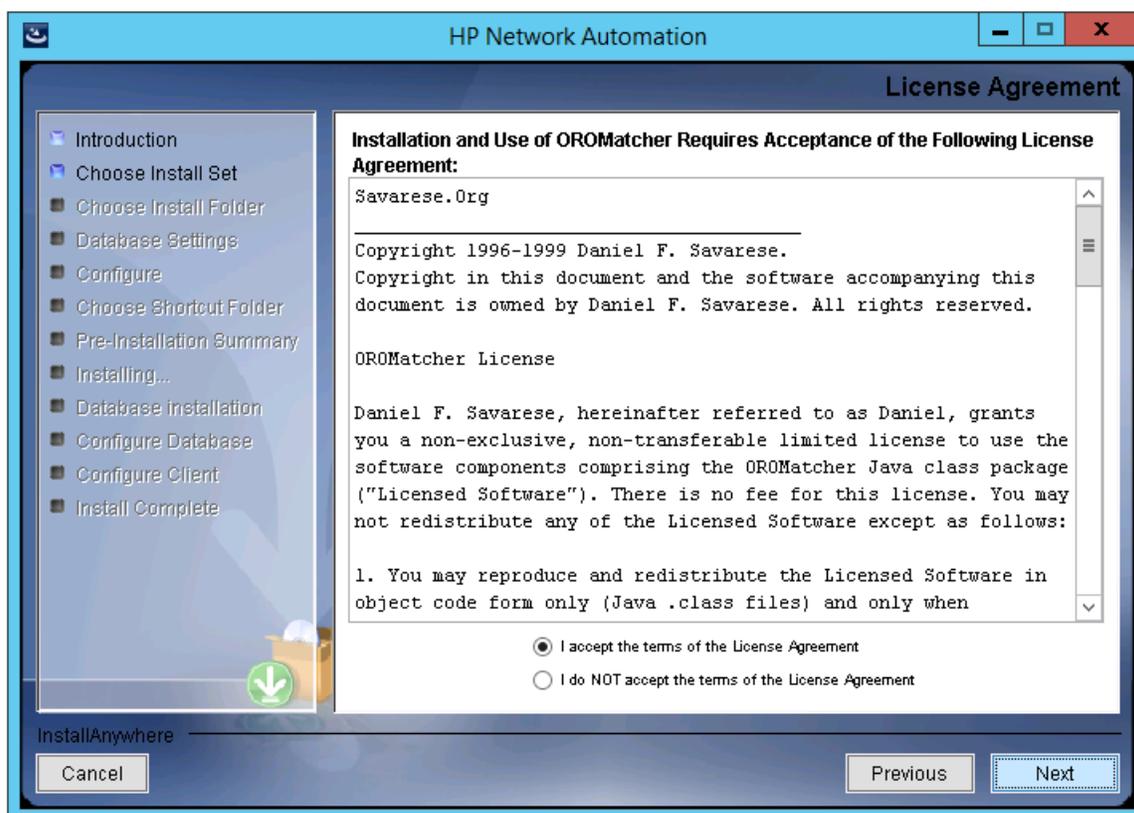
3. **[Choose Install Set]**ページでインストールするものを選択し、**[Next]**をクリックします。次のオプションがあります。
- **[NA core and NA client using Oracle]**: このオプションは、NAデータベースにサポート対象バージョンのOracleを使用する場合に選択します。別のデータベースサーバにOracleがすでにインストールされ、NAデータベーススペースがすでに作成されている必要があります。
 - **[NA core and NA client using Microsoft SQL Server]**: このオプションは、NAデータベースにサポート対象バージョンのMicrosoft SQL Serverを使用する場合に選択します。別のデータベースサーバにSQL Serverがすでにインストールされている必要があります。NAインストーラーによってNAデータベースインスタンスが作成されます。
 - **[NA core and NA client using MySQL]**: このオプションは、NAインストーラーでNAに付属しているデータベースもインストールする場合や、このシステムまたは別のデータベースサーバにすでにインストールされているサポート対象バージョンのMySQLを使用する場合に選択します。NAインストーラーによってNAデータベースインスタンスが作成されます。
 - **[NA Client Only]**: このオプションは、データベースなしでNAを2回目にインストールする場合に使用します。たとえば、Horizontal Scalability環境に2番目のNAコアサーバをインストールする場合などです。



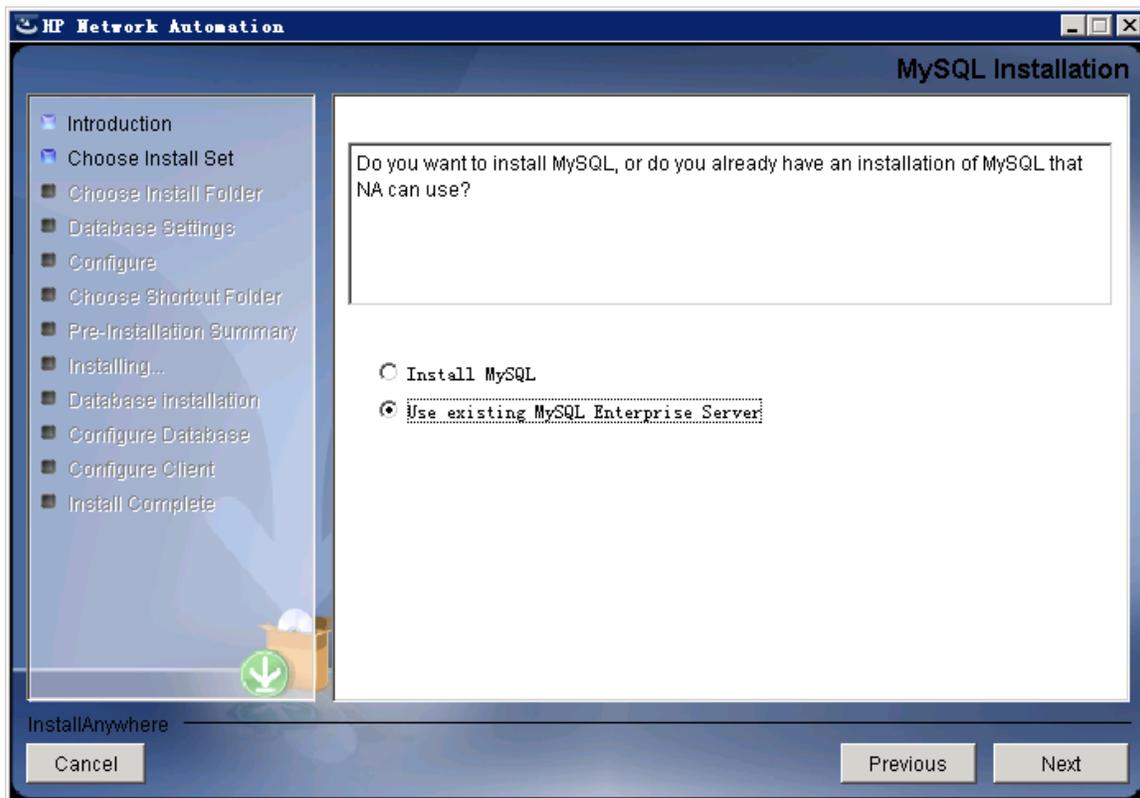
4. (SQL Serverのみ) [License Agreement] ページで、Microsoft SQL Server JDBCドライバのライセンス使用条件に同意する場合、[I accept the terms of the License Agreement]を選択して[Next]をクリックします。



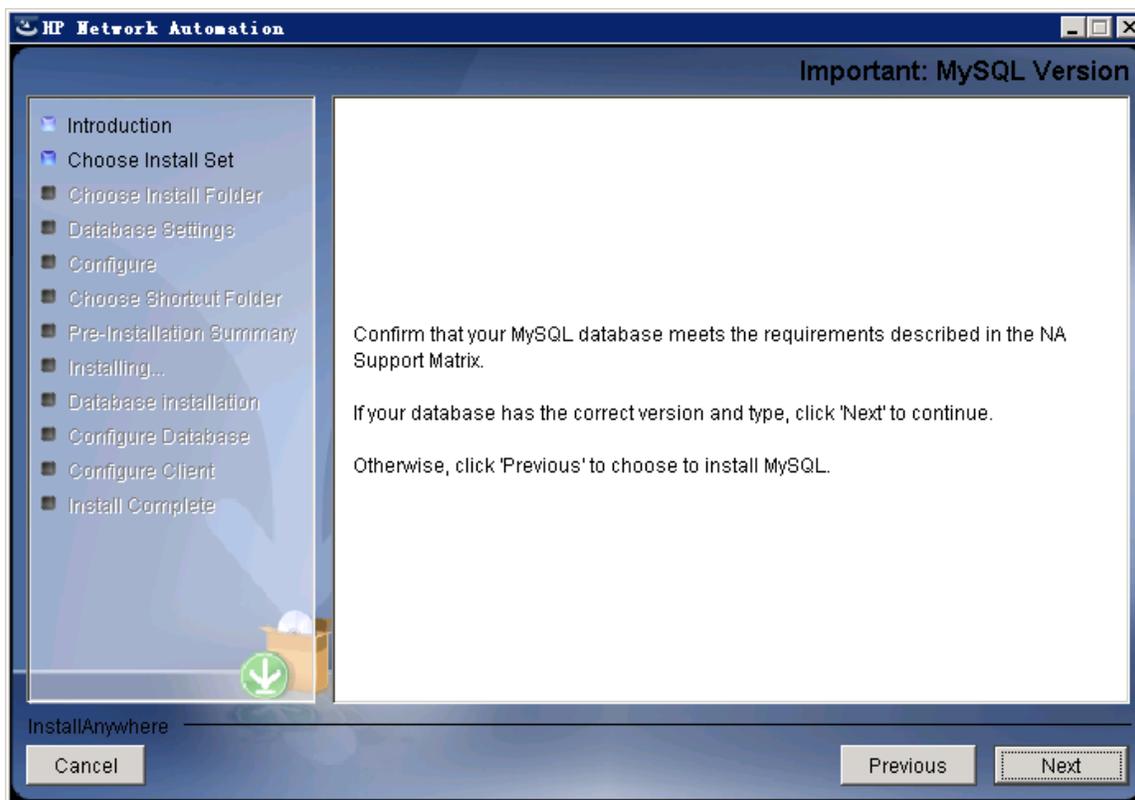
5. [License Agreement]ページで、OROMatcherのライセンス使用条件に同意する場合、[I accept the terms of the License Agreement]を選択して[Next]をクリックします。



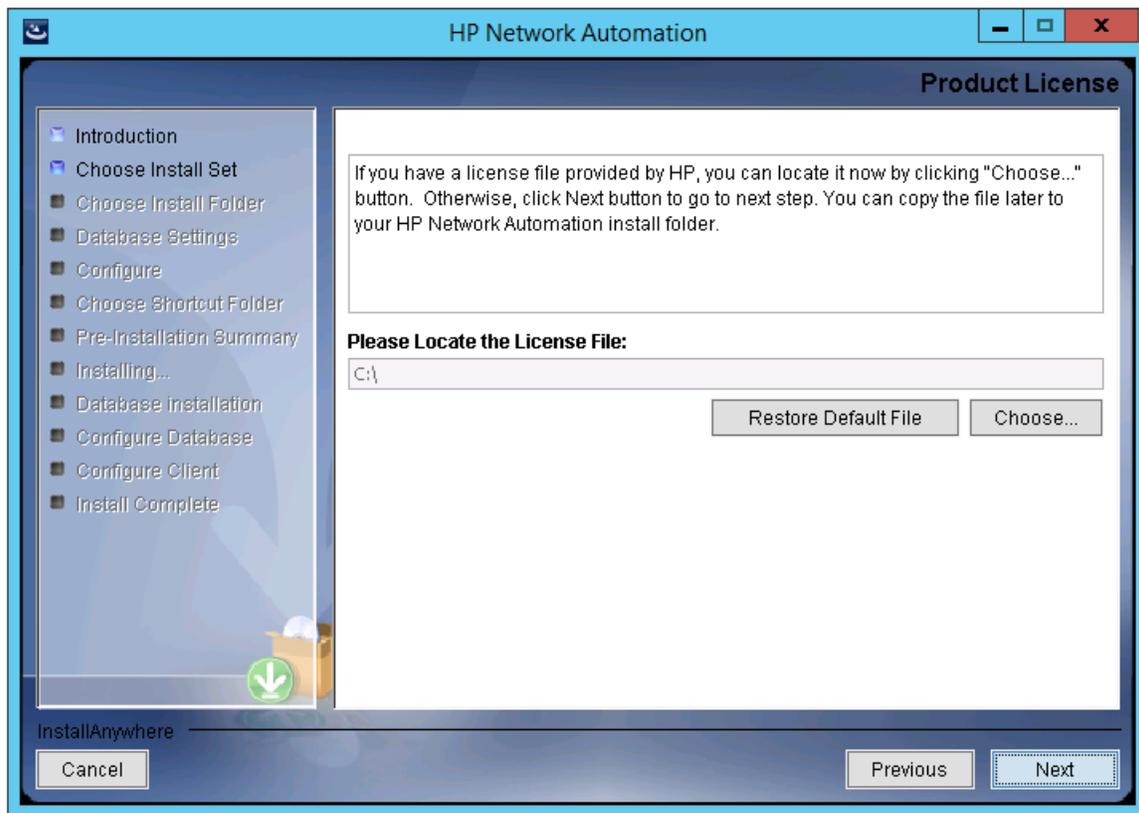
6. (MySQLのみ)[MySQL Installation]ページで、NAインストーラーでMySQLをインストールするか既存のMySQLに接続するかを選択し、[Next]をクリックします。



7. (既存のMySQLのみ) [Important: MySQL Version] ページで、このシステムにすでにインストールされているMySQLまたは別のデータベースサーバがサポートされているバージョンであることを確認します。詳細については、『NAサポートマトリックス』を参照してください。

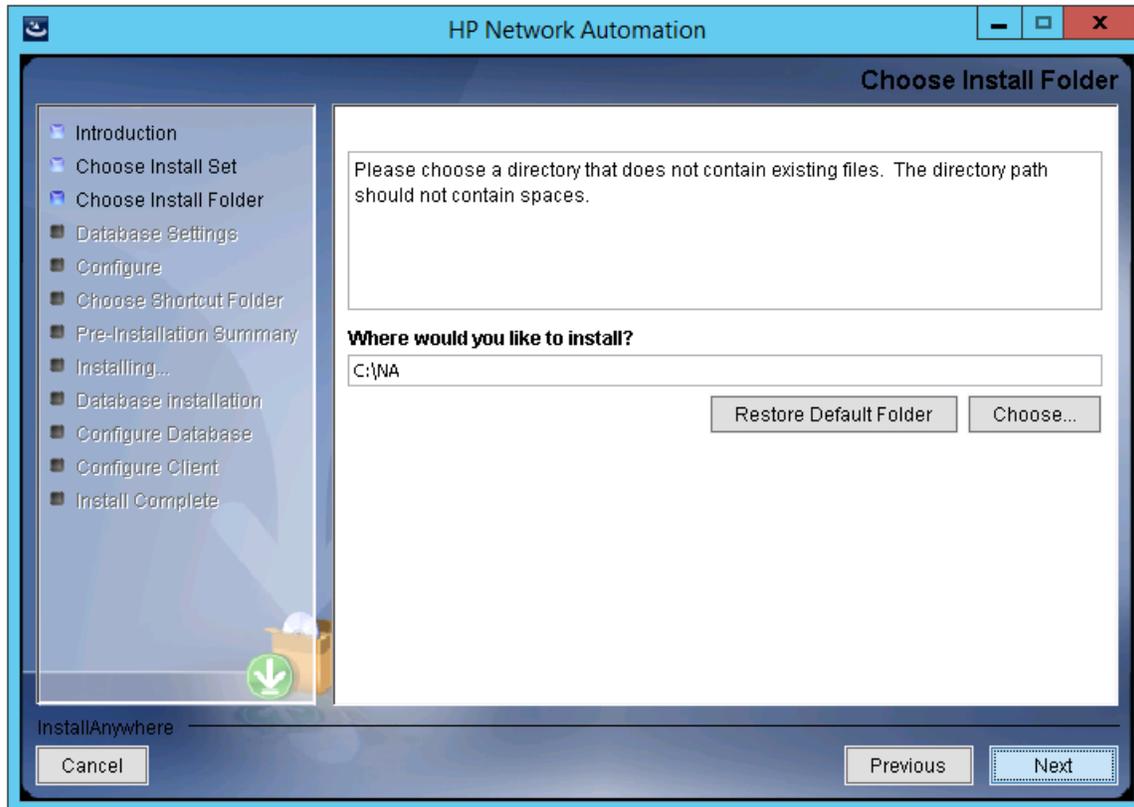


8. [Product License]ページで、ライセンスファイルがある場合はそのファイルのパスを入力し、[Next]をクリックします。

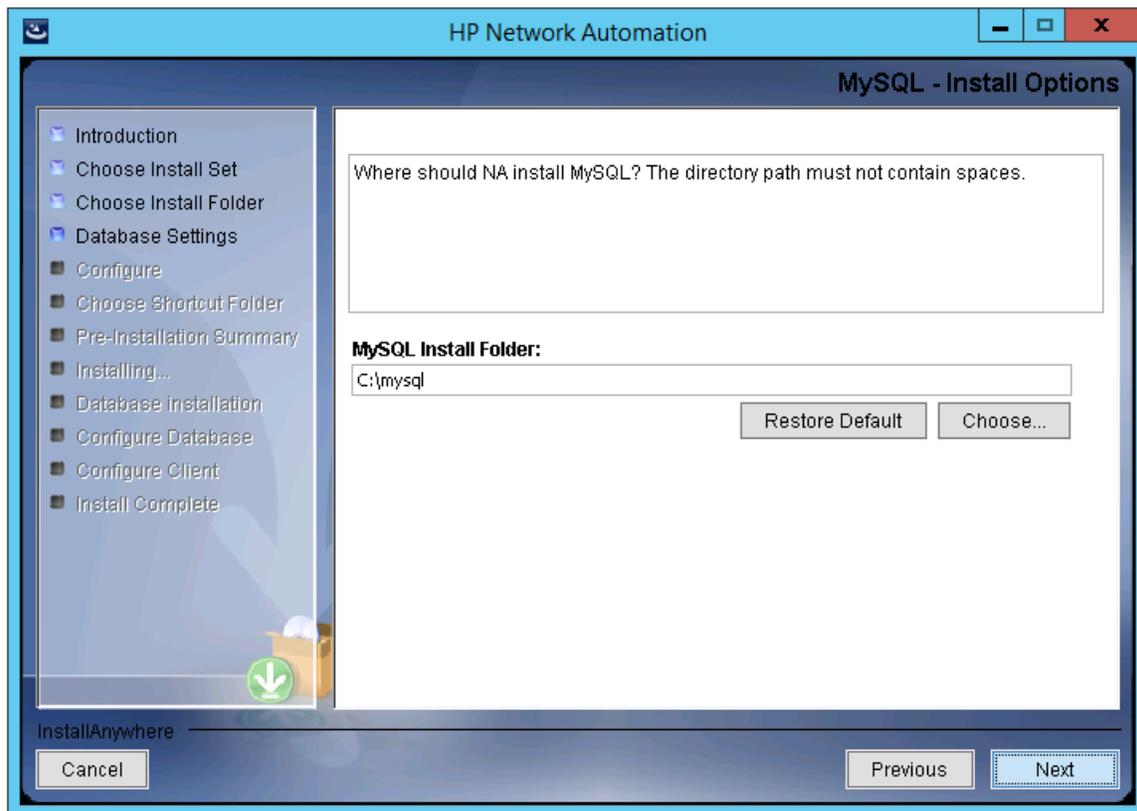


9. [Choose Install Folder]ページでNAのルートディレクトリのパスを入力し、[Next]をクリックします。

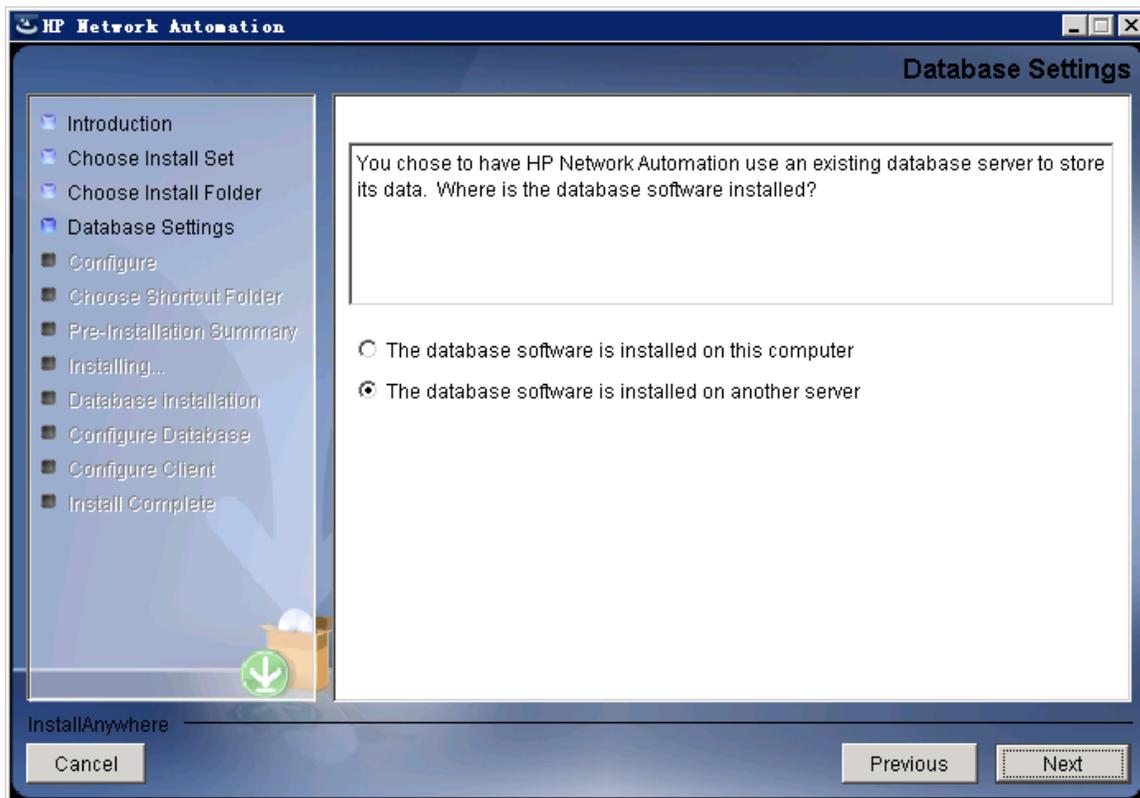
注: パスにはスペースを使用しないでください。



10. (NAにインストールされているMySQLのみ) [MySQL - Install Options] ページでMySQLのルートディレクトリのパスを入力し、[Next]をクリックします。

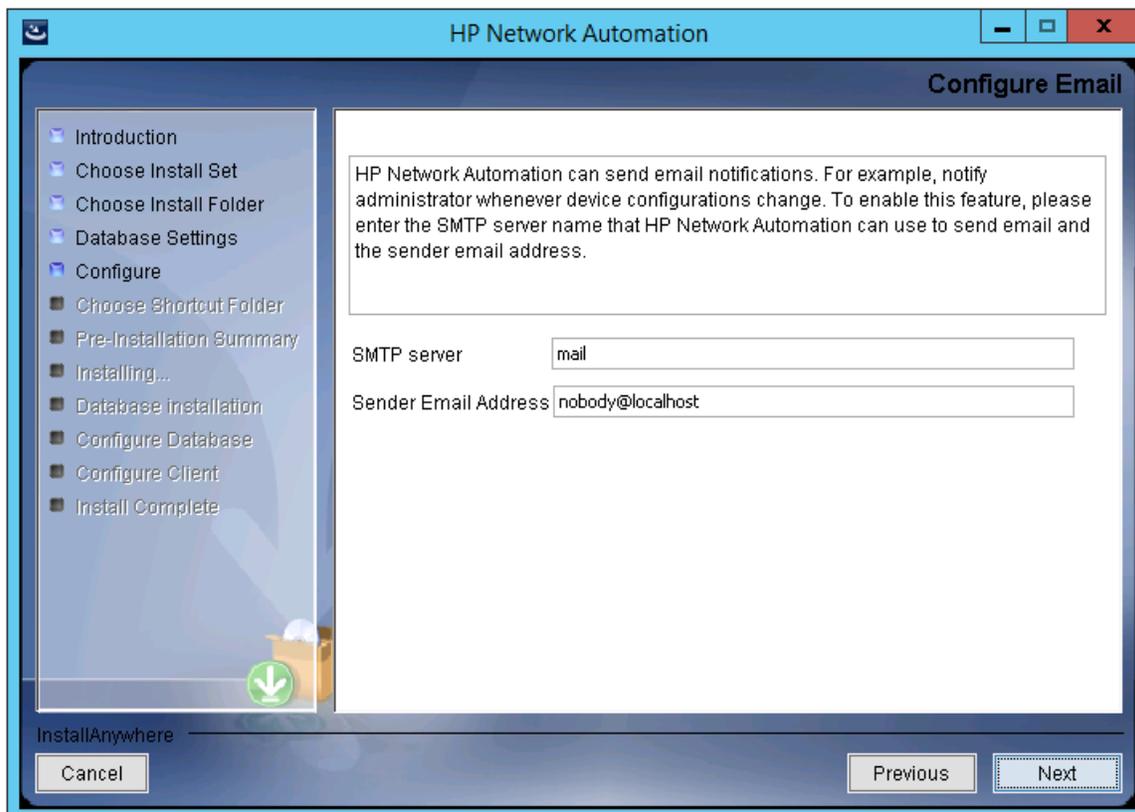


11. (Oracle、SQL Serverまたは既存のMySQLのみ) [Database Settings]ページで、このシステムまたは別のシステムにデータベースがインストールされているかどうかを指定し、[Next]をクリックします。

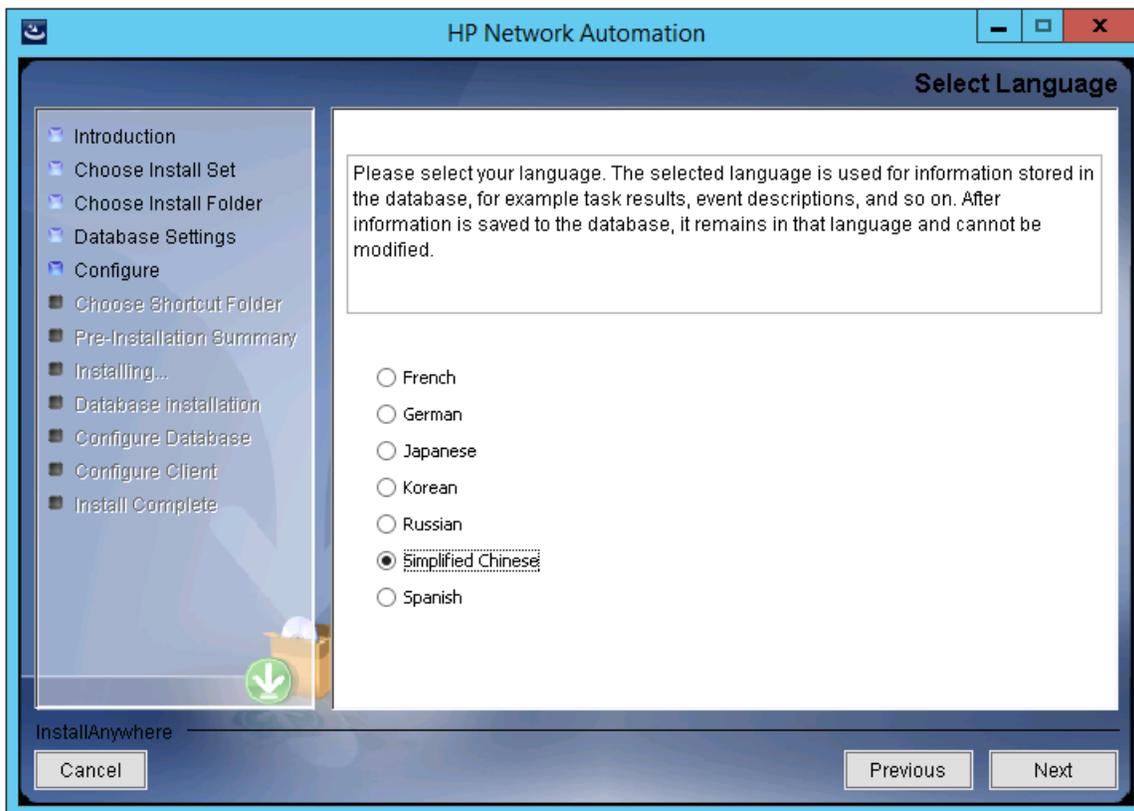


12. [Configure Email]ページでNAメールサーバの構成を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。

- **SMTP Server**: SMTPサーバのホスト名です。
- **[Sender Email Address]**: NAによって送信されるメッセージの電子メールアドレスです。

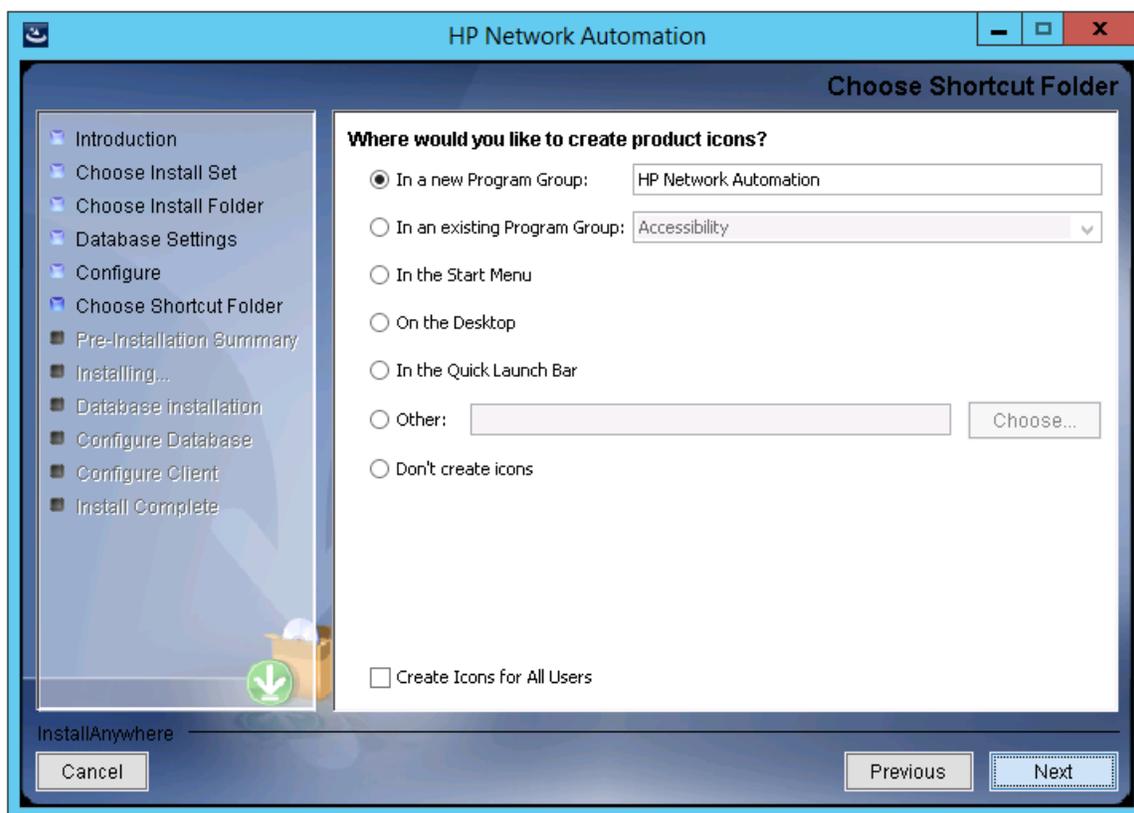


13. [Select Language]ページで、NAがNAコンソール、データベースでの情報の格納、製品ヘルプおよびマニュアルの表示(ローカライズされている場合)に使用する言語を選択し、[Next]をクリックします。次のオプションがあります。
- **French**: フランス語
 - **German**: ドイツ語
 - **Japanese**: 日本語
 - **Korean**: 韓国語
 - **Russian**: ロシア語
 - **Simplified Chinese**: 簡体字中国語
 - **Spanish**: スペイン語

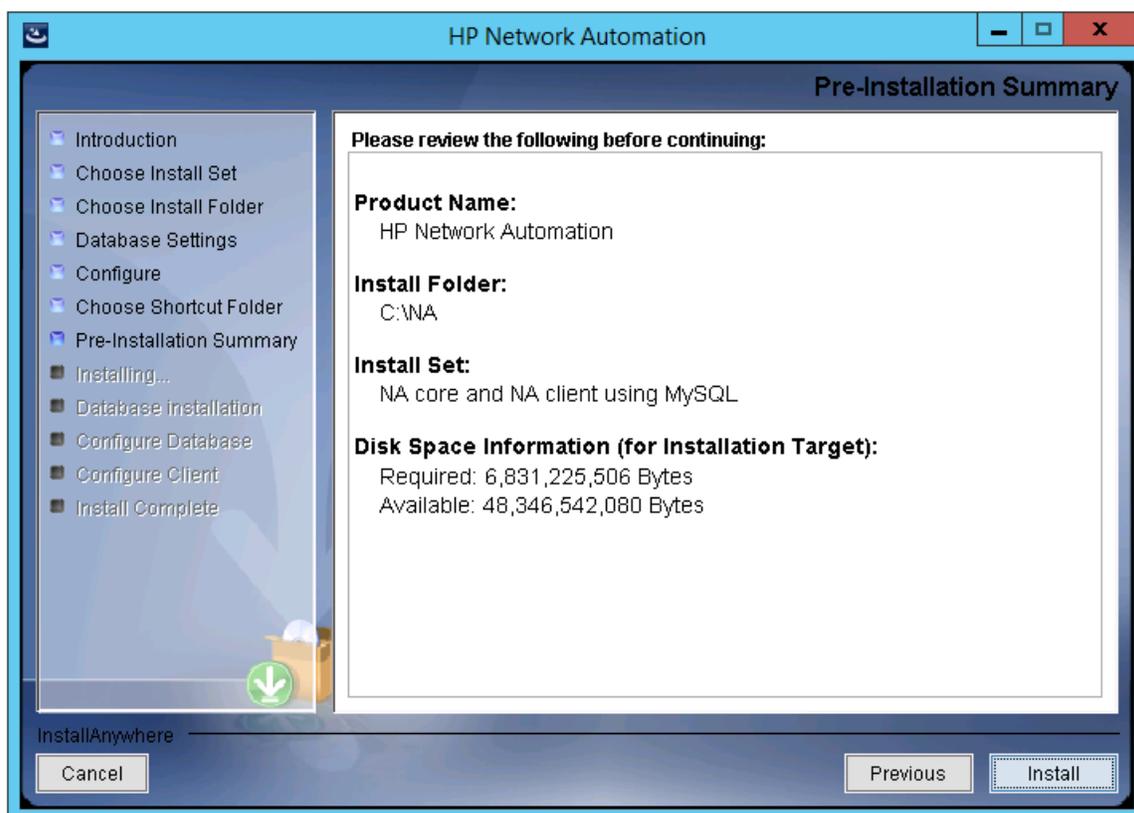


14. [Choose Shortcut Folder]ページでNAのショートカットの場所を入力し、[Next]をクリックします。次のオプションがあります。
- **In a new Program Group**: NAインストーラーがNAのショートカットを保持するために作成するプログラムグループの名前を入力します。

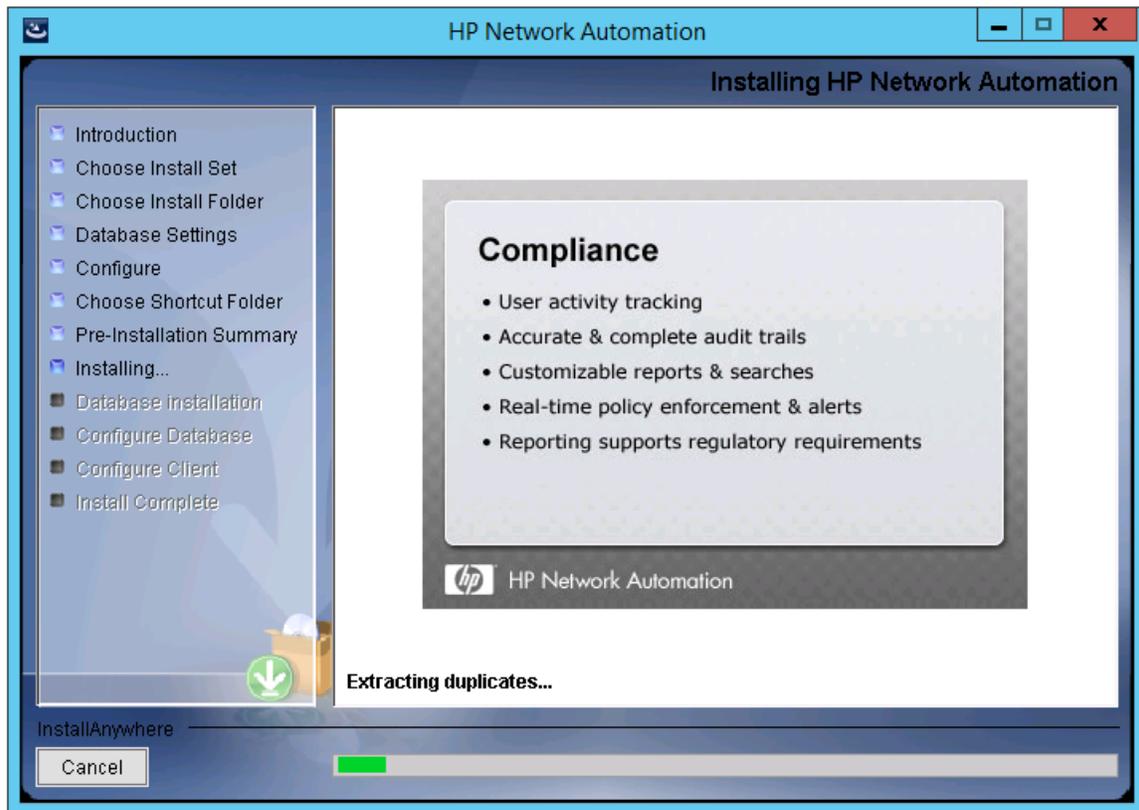
- **In an existing Program Group:** NAのショートカットを受け取る既存のプログラムグループの名前を入力します。
- **In the Start Menu:** NAインストーラーがNAのショートカットを[スタート]メニューに追加します。
- **On the Desktop:** NAインストーラーがNAのショートカットをデスクトップに追加します。
- **In the Quick Launch Bar:** NAインストーラーがNAのショートカットをクイック起動バーに追加します。
- **Other:** NAのショートカットを受け取る既存のフォルダの名前を入力します。
- **Don't create icons:** NAインストーラーでNAのショートカットを作成しない場合、このオプションを選択します。
- **Create Icons for All Users:** NAインストーラーで、このコンピュータのすべてのユーザ向けにNAのショートカットを作成するには、このチェックボックスをオンにします。



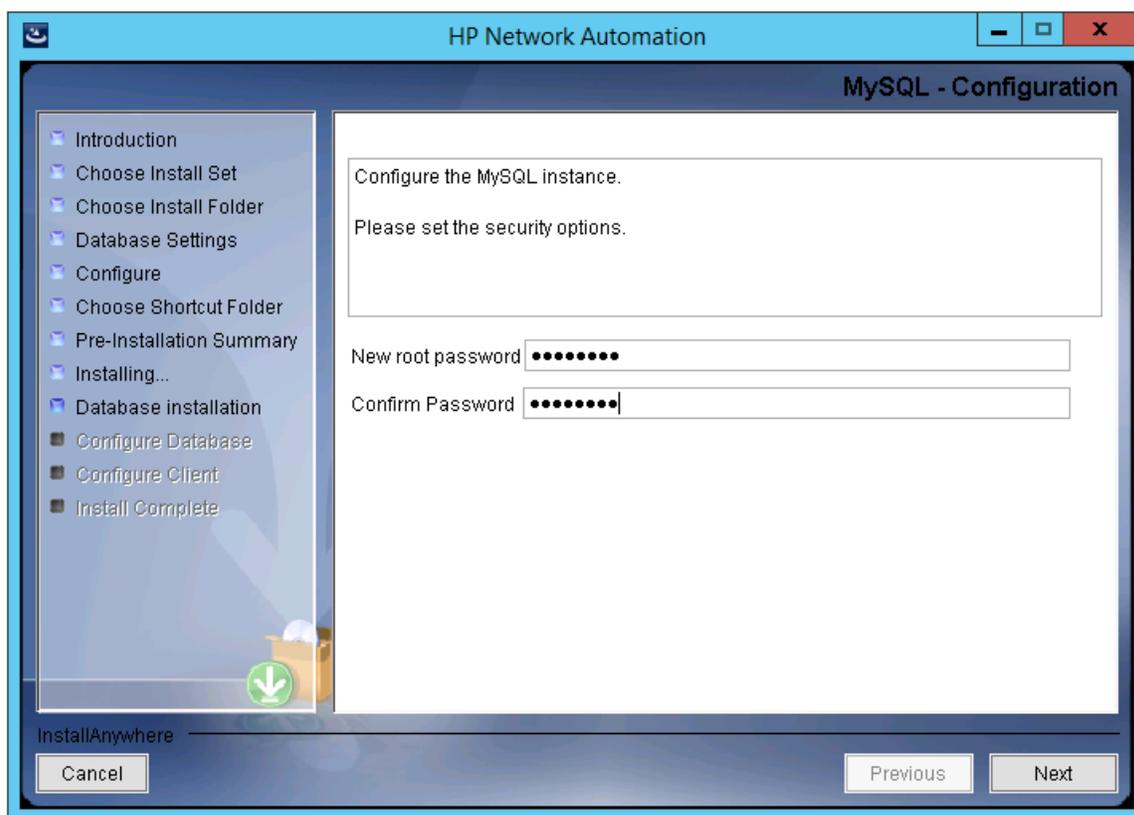
15. [Pre-Installation Summary]ページで情報を確認します。設定を修正するには、[Previous]をクリックします。すべての設定が正しければ、[Install]をクリックします。



16. [Installing HP Network Automation]ページで、インストールが完了するまで待ちます。



17. (NAにインストールされているMySQLのみ) [MySQL - Configuration]ページでNAデータベースインスタンスのルートユーザのパスワードを作成し、[Next]をクリックします。



18. (既存のMySQLのみ) [Database Admin Login] ページでMySQLの接続情報を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。

- **Hostname**: MySQLサーバのホスト名です。
- **Port**: MySQLサーバのポート番号です。
- **Username**: MySQL管理者のユーザ名です。
- **Password**: MySQL管理者のパスワードです。

HP Network Automation Database Admin Login

In order to create the HP Network Automation database on your existing database server, the installer needs to know the hostname and port of the database server, as well as the login information of the database administrator, who has permissions to create new databases and new users.

Hostname

Port

Username

Password

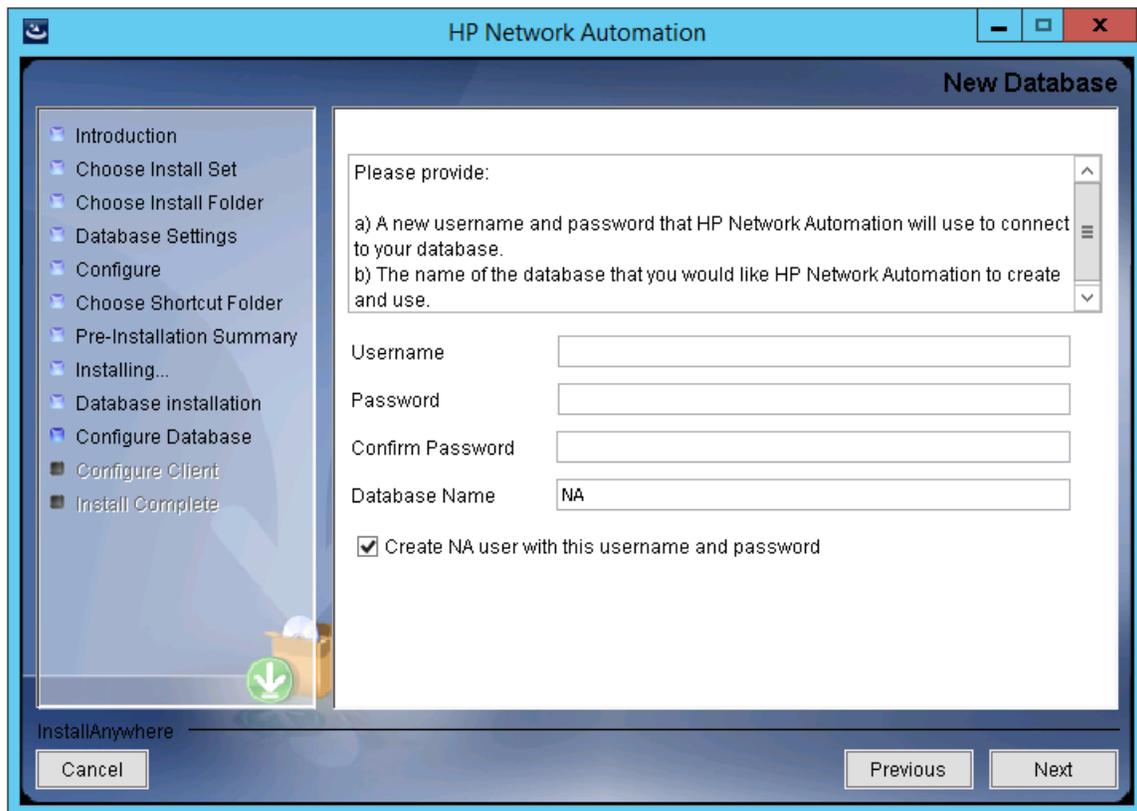
InstallAnywhere

Cancel Previous Next

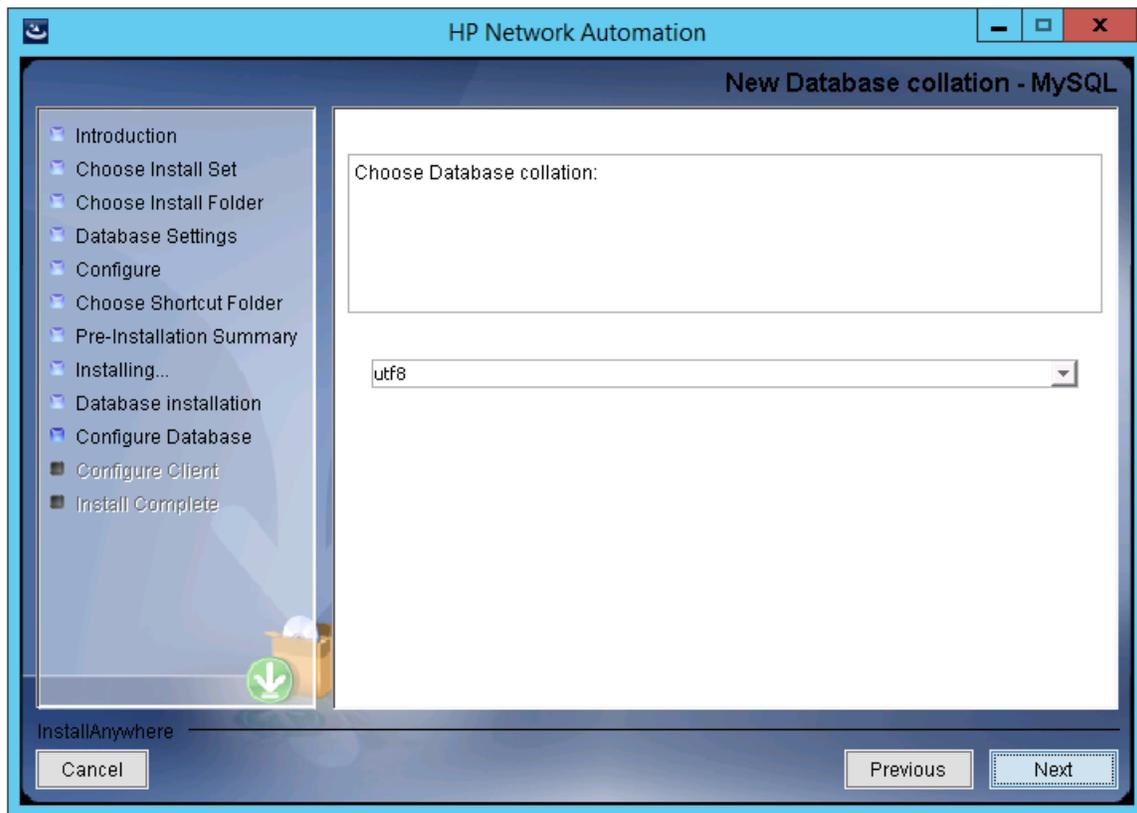
19. (MySQLのみ) [New Database] ページでNAデータベースの接続情報を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。

- **Username**: NAデータベースに接続するためのMySQLユーザの名前です。NAインストーラーでMySQLもインストールする場合、インストーラーによってこのユーザが作成されます。NAインストーラーが既存のMySQLに接続する場合、このユーザがすでに存在している必要があります。
- **Password**: MySQLユーザのパスワードです。
- **Confirm Password**: MySQLユーザのパスワードです。
- **Database Name**: 新しいNAデータベースインスタンスの名前です。

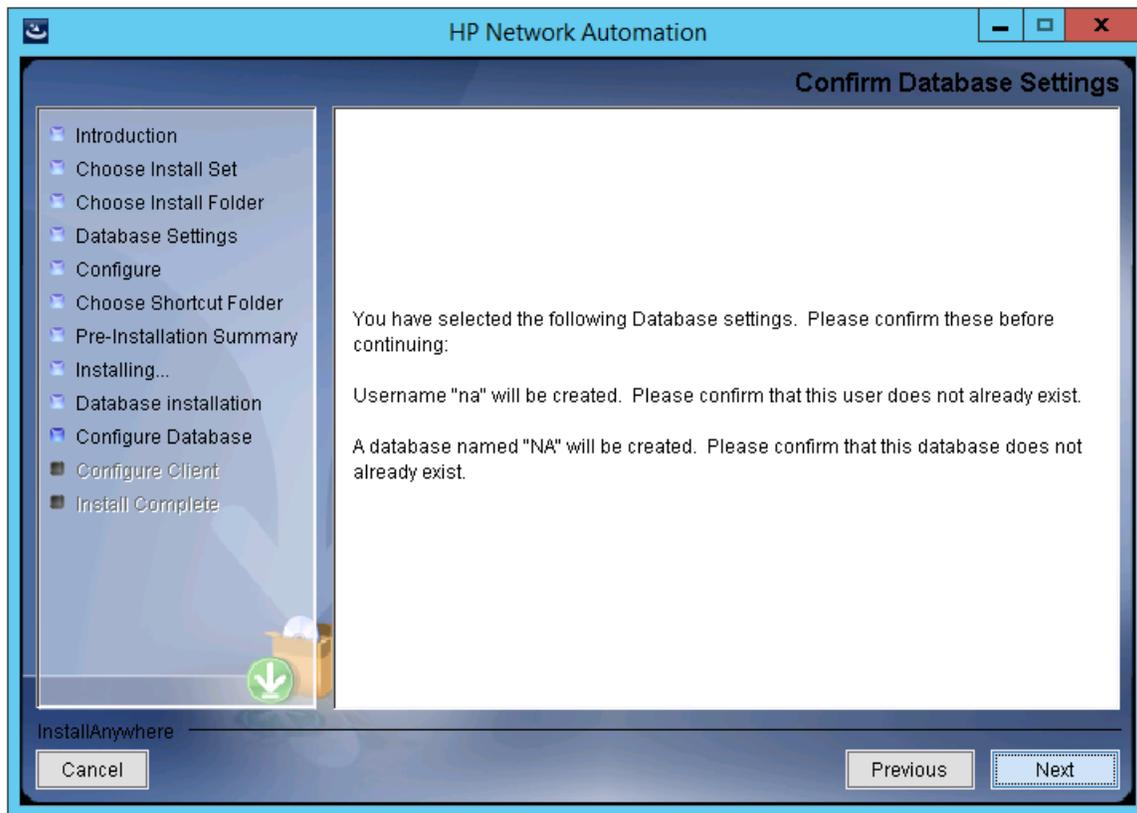
- **Create NA user with this username and password:** NAインストーラーで、このユーザ名とパスワードを持つNAユーザを作成するには、このチェックボックスをオンにします。



20. (MySQLのみ) [New Database Collation - MySQL] ページでデータベース照合を選択し、[Next] をクリックします。

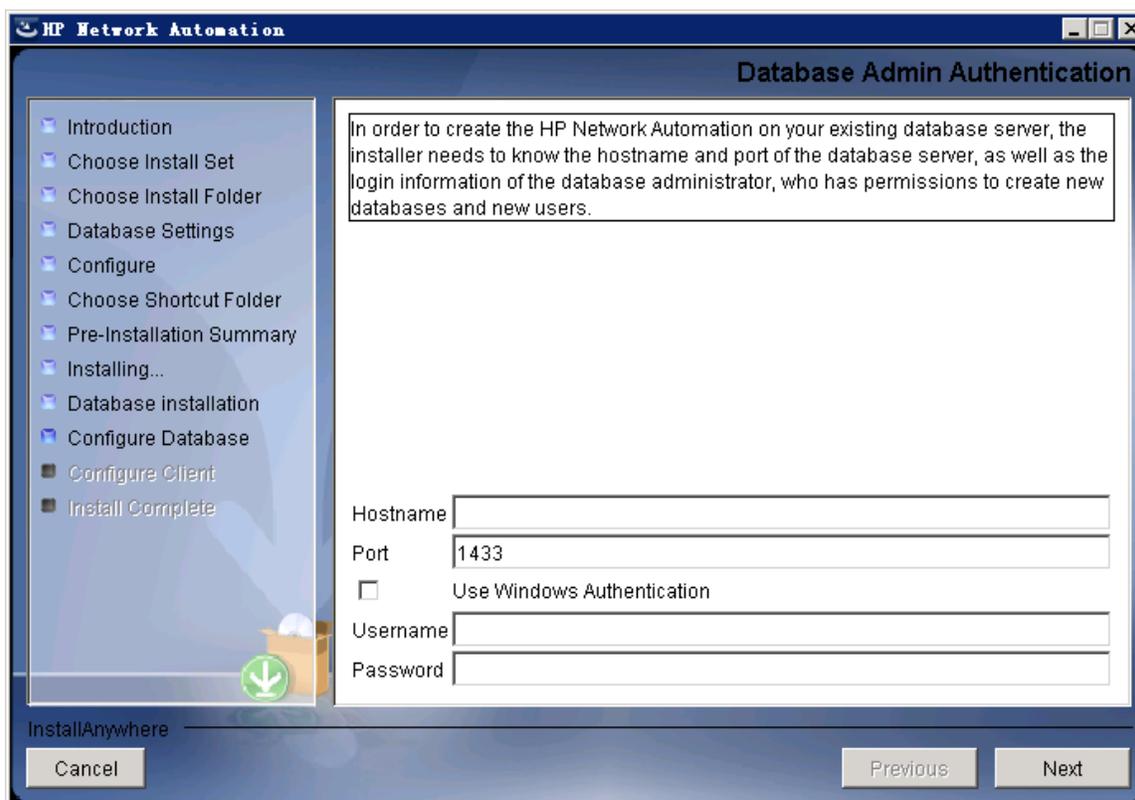


21. (MySQLのみ)[**Confirm Database Settings**]ページで情報を確認します。データベースユーザ名とインスタンス名がまだ存在しないことを確認します。設定を修正するには、[**Previous**]をクリックします。すべての設定が正しい状態になったら、[**Next**]をクリックします。



22. (SQL Serverのみ) [Database Admin Authentication] ページでSQL Serverサーバの接続情報を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。

- [Hostname]: SQL Serverサーバのホスト名です。
- [Port]: SQL Serverサーバのポート番号です。
- [Use Windows Authentication]: Windows認証を使用する場合、このチェックボックスをオンにします。
- [Username]: SQL Server管理者のユーザ名です。
- [Password]: SQL Server管理者のパスワードです。



The screenshot shows the 'Database Admin Authentication' dialog box within the HP Network Automation installer. The window title is 'HP Network Automation' and the dialog title is 'Database Admin Authentication'. On the left, a navigation pane lists the installation steps, with 'Configure Database' selected. The main area contains a text box explaining the need for database server information. Below this are input fields for 'Hostname', 'Port' (set to 1433), 'Username', and 'Password'. There is an unchecked checkbox for 'Use Windows Authentication'. At the bottom, there are 'Cancel', 'Previous', and 'Next' buttons.

HP Network Automation

Database Admin Authentication

In order to create the HP Network Automation on your existing database server, the installer needs to know the hostname and port of the database server, as well as the login information of the database administrator, who has permissions to create new databases and new users.

Hostname

Port

Use Windows Authentication

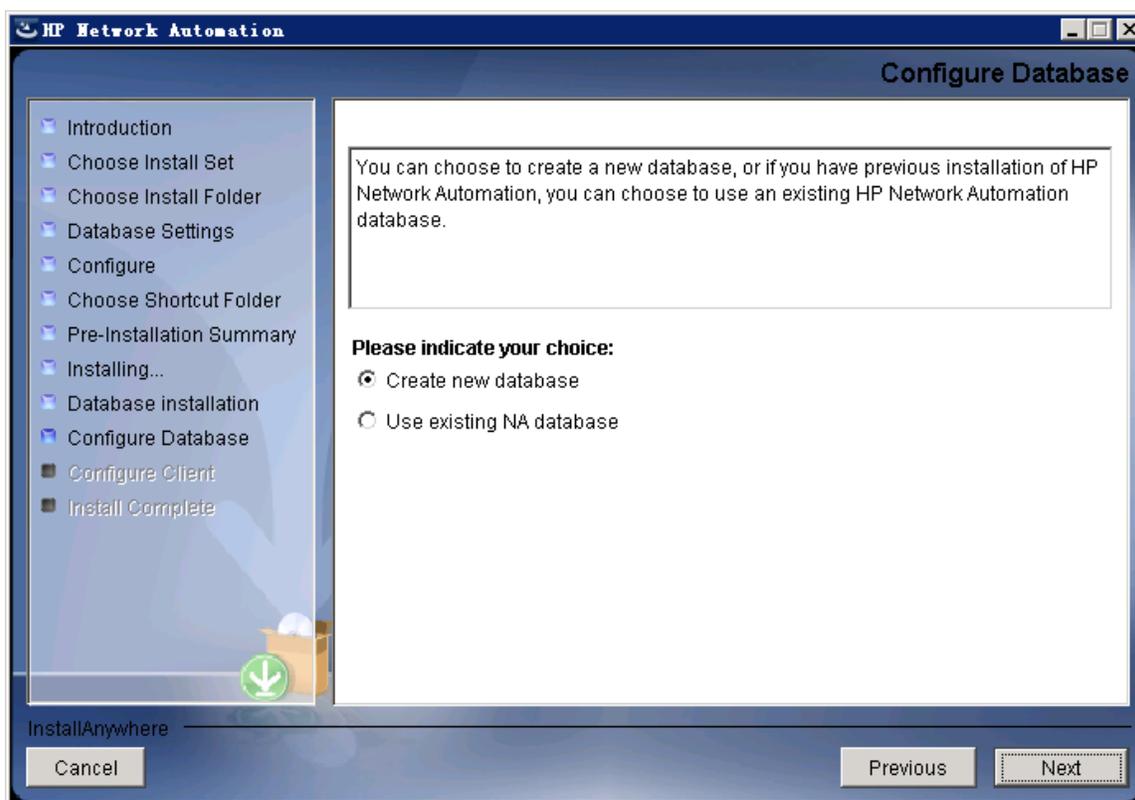
Username

Password

InstallAnywhere

Cancel Previous Next

23. (SQL Serverのみ)[**Configure Database**]ページで、データベース名をクリーンな(NAデータを含まない)データベースにするか既存のNAデータベースにするかを選択し、[**Next**]をクリックします。



24. (SQL Serverのみ) [New Database] ページでNAデータベースの接続情報を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。
- [Username]: NAデータベースに接続するための新しいSQL Serverユーザの名前です。
 - [Password]: 新しいSQL Serverユーザのパスワードです。
 - [Confirm Password]: 新しいSQL Serverユーザのパスワードです。
 - [Database Name]: 新しいNAデータベースインスタンスの名前です。
 - [Create NA user with this username and password]: NAインストーラーで、このユーザ名とパスワードを持つNAユーザを作成するには、このチェックボックスをオンにします。

HP Network Automation

New Database

Please provide:

a) A new username and password that HP Network Automation will use to connect to your database.
b) The name of the database that you would like HP Network Automation to create and use.

Username:

Password:

Confirm Password:

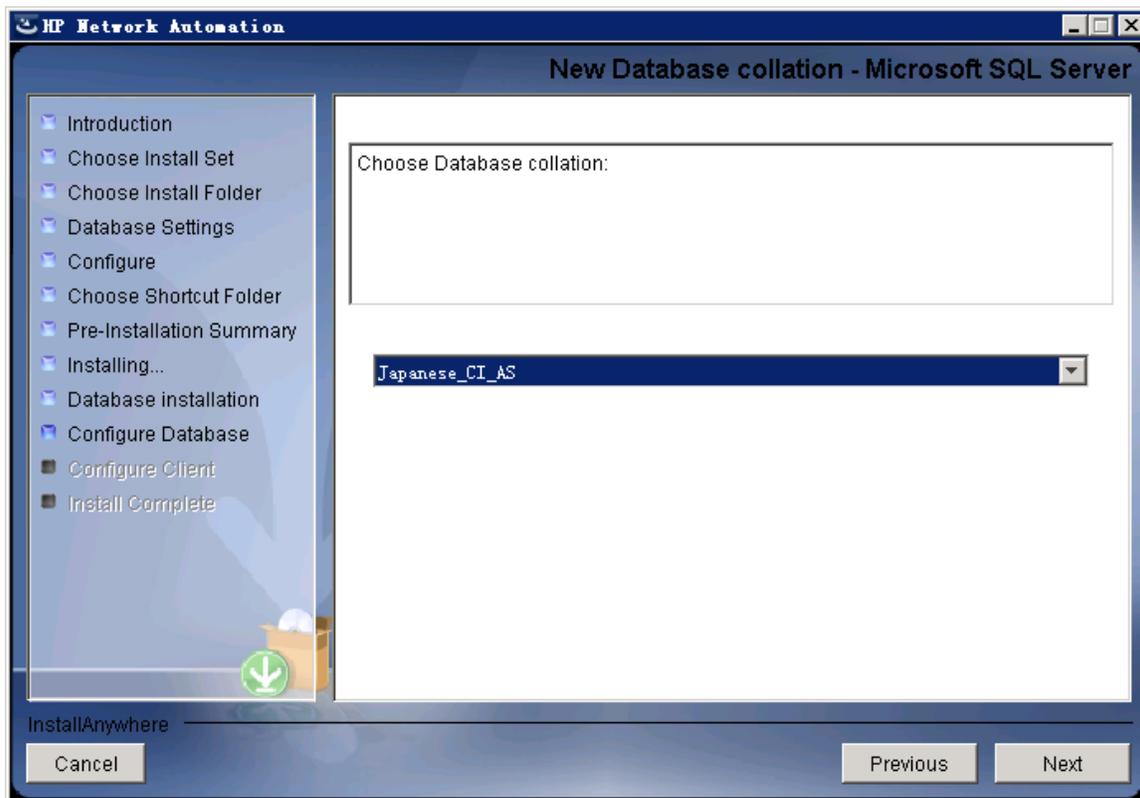
Database Name:

Create NA user with this username and password

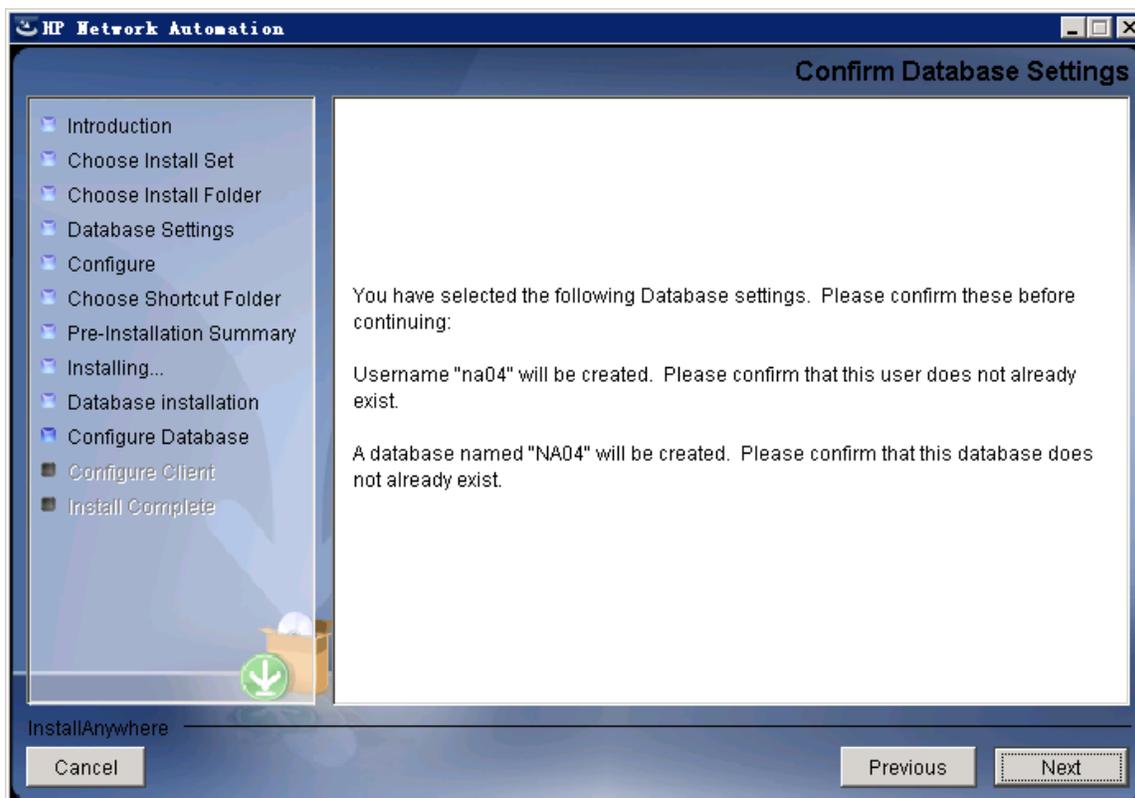
InstallAnywhere

Cancel Previous Next

25. (SQL Serverのみ) [New Database Collation - Microsoft SQL Server] ページでデータベース照合を選択し、[Next] をクリックします。

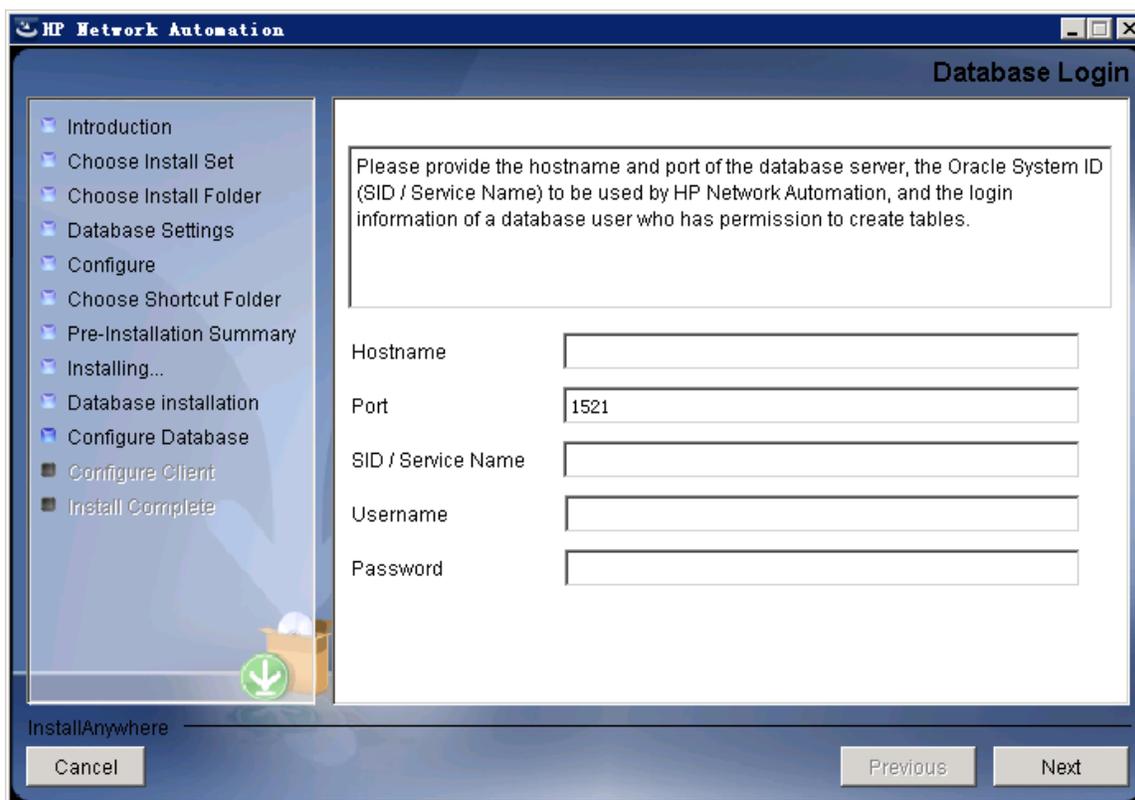


26. (SQL Serverのみ)[**Confirm Database Settings**]ページで情報を確認します。設定を修正するには、[**Previous**]をクリックします。すべての設定が正しい状態になったら、[**Next**]をクリックします。



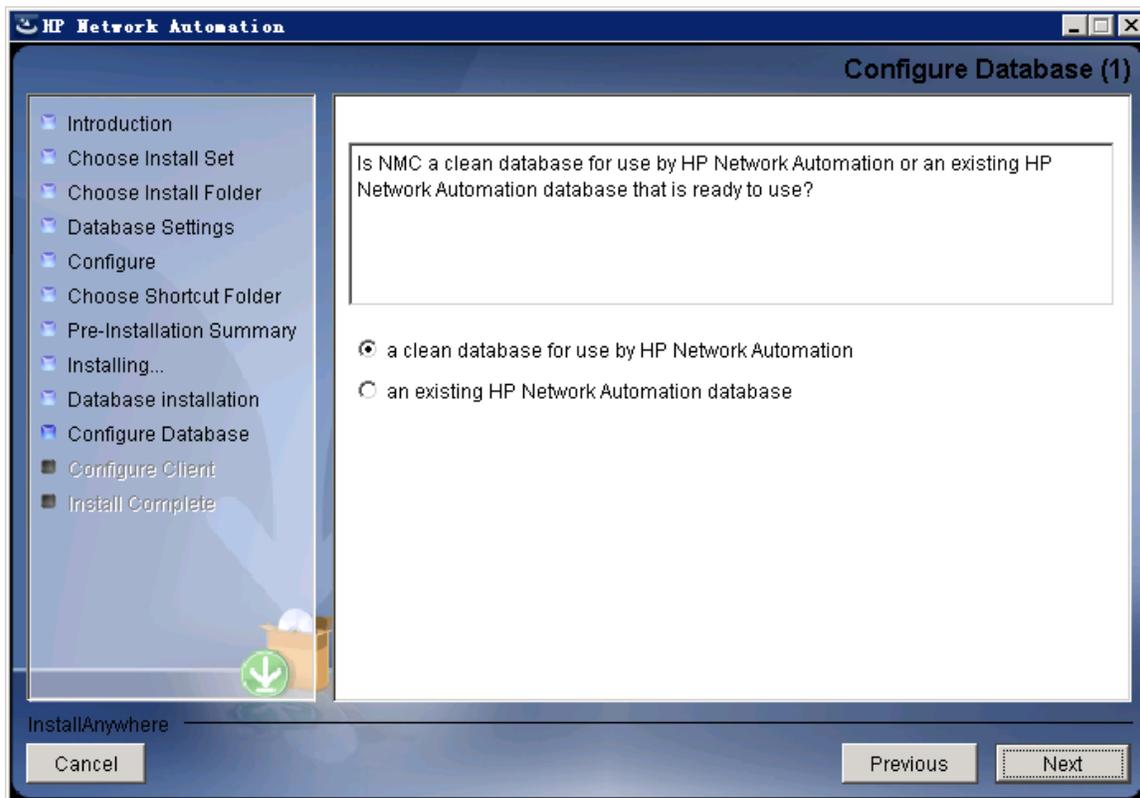
27. (Oracleのみ) [Database Login]ページでOracleデータベースの接続情報を入力し、[Next]をクリックします。次のフィールドがあります。

- [Hostname]: Oracleサーバのホスト名です。
- [Port]: Oracleサーバのポート番号です。
- [SID / Service Name]: Oracleデータベースのシステム識別子またはサービス名です。
- [Username]: Oracle管理者のユーザ名です。
- [Password]: Oracle管理者のパスワードです。

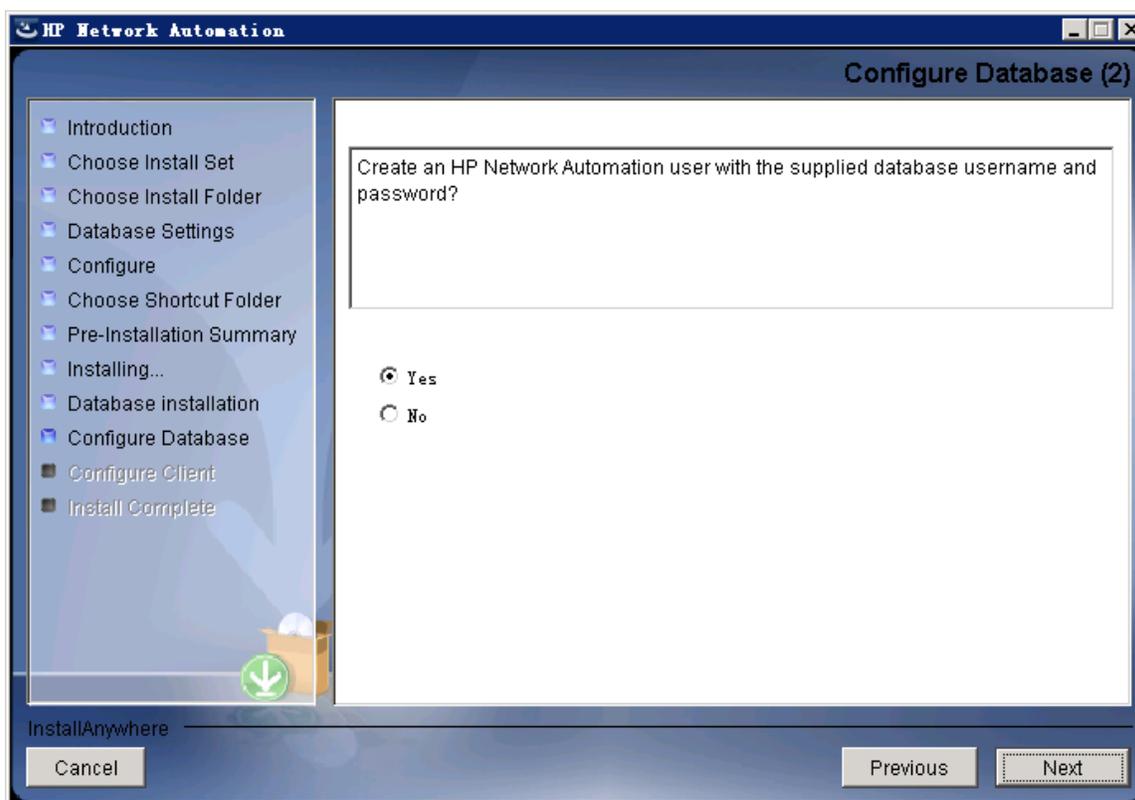


The screenshot shows the 'Database Login' window in the HP Network Automation software. The window title is 'HP Network Automation' and the subtitle is 'Database Login'. On the left, there is a navigation pane with a tree view containing the following items: Introduction, Choose Install Set, Choose Install Folder, Database Settings, Configure, Choose Shortcut Folder, Pre-Installation Summary, Installing..., Database installation, Configure Database, Configure Client, and Install Complete. The 'Configure Client' item is currently selected. The main area of the window contains a text box with the following text: 'Please provide the hostname and port of the database server, the Oracle System ID (SID / Service Name) to be used by HP Network Automation, and the login information of a database user who has permission to create tables.' Below this text box are five input fields: 'Hostname', 'Port' (with the value '1521' entered), 'SID / Service Name', 'Username', and 'Password'. At the bottom of the window, there are three buttons: 'Cancel', 'Previous', and 'Next'. The 'InstallAnywhere' logo is visible in the bottom left corner.

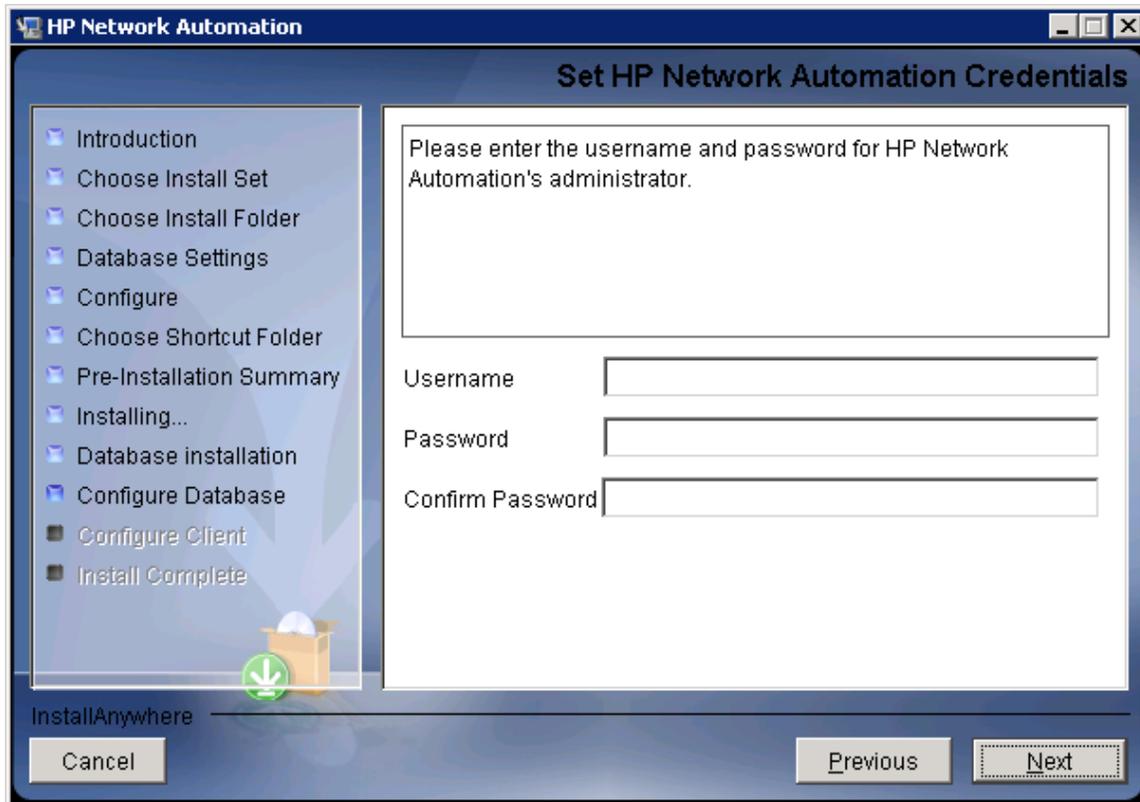
28. (Oracleのみ) [Configure Database (1)] ページで、データベース名をクリーンな (NA データを含まない) データベースにするか既存の NA データベースにするかを選択し、[Next] をクリックします。



29. (Oracleのみ) [Configure Database (2)] ページで、NAインストーラーでデータベースと同じユーザ名とパスワードのNAユーザを作成するかどうかを指定し、**Enter**キーを押します。



30. NAインストーラで同じユーザ名とパスワードのNAユーザおよびデータベースユーザを作成する選択をしなかった場合、**[Set HP Network Automation Credentials]**ページでNA管理者の資格情報を入力し、**[Next]**をクリックします。次のフィールドがあります。
- **[Username]**: 新しいNA管理者のユーザ名です。
 - **[Password]**: 新しいNA管理者のパスワードです。
 - **[Confirm Password]**: 新しいNA管理者のパスワードです。



31. **[Configure Admin]**ページでNA管理者の連絡先情報を入力し、**[Next]**をクリックします。次のフィールドがあります。
- **[First Name]**: NA管理者の名です。
 - **[Last Name]**: NA管理者の姓です。
 - **[Email Address]**: NA管理者の電子メールアドレスです。

HP Network Automation

Configure Admin

Enter the following information for HP Network Automation's administrator:
(HP Network Automation will send email to the email address entered below.)

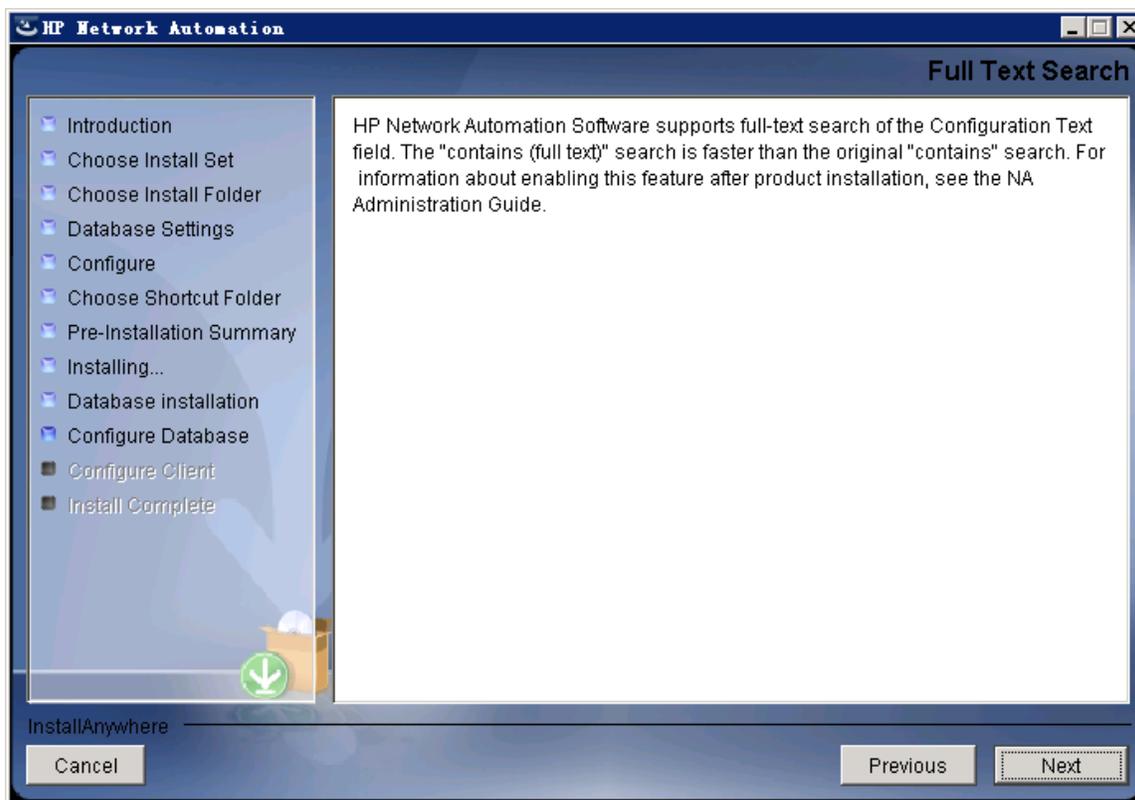
First Name

Last Name

Email Address

Cancel Previous Next

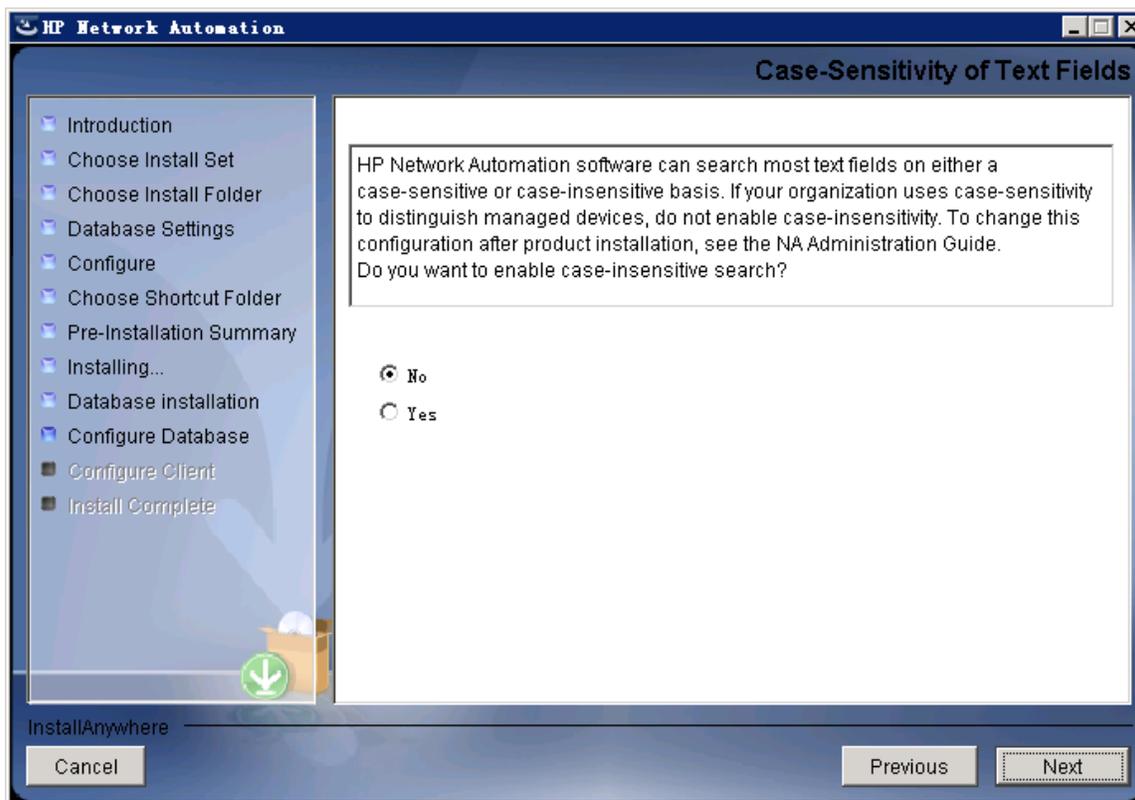
32. (OracleまたはSQL Serverのみ) [Full Text Search] ページで、[Configuration Text] フィールドの全文検索の説明を読みます。全文検索の構成の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。[Next] をクリックします。



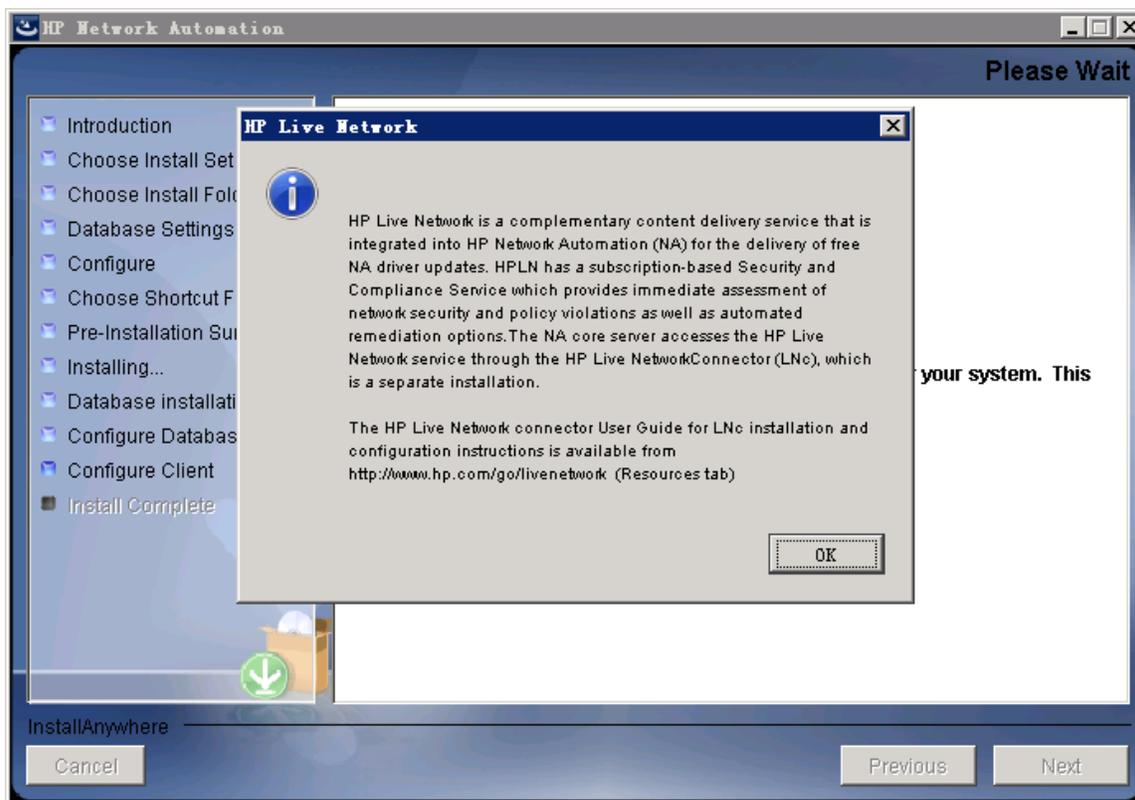
33. (Oracleのみ) [Case-Sensitivity of Text Fields] ページで、ほとんどのテキストフィールドで大文字小文字を区別しない検索を有効にするかどうかを選択します。管理対象デバイスを区別するために大文字小文字を区別している場合、大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。(製品のインストール後にこの構成を変更するには、『NA Administration Guide』を参照してください)。**[Next]** をクリックします。

スタンドアロンNAコアまたは水平スケーラビリティ環境では、インストール時にこの機能を有効にできます。

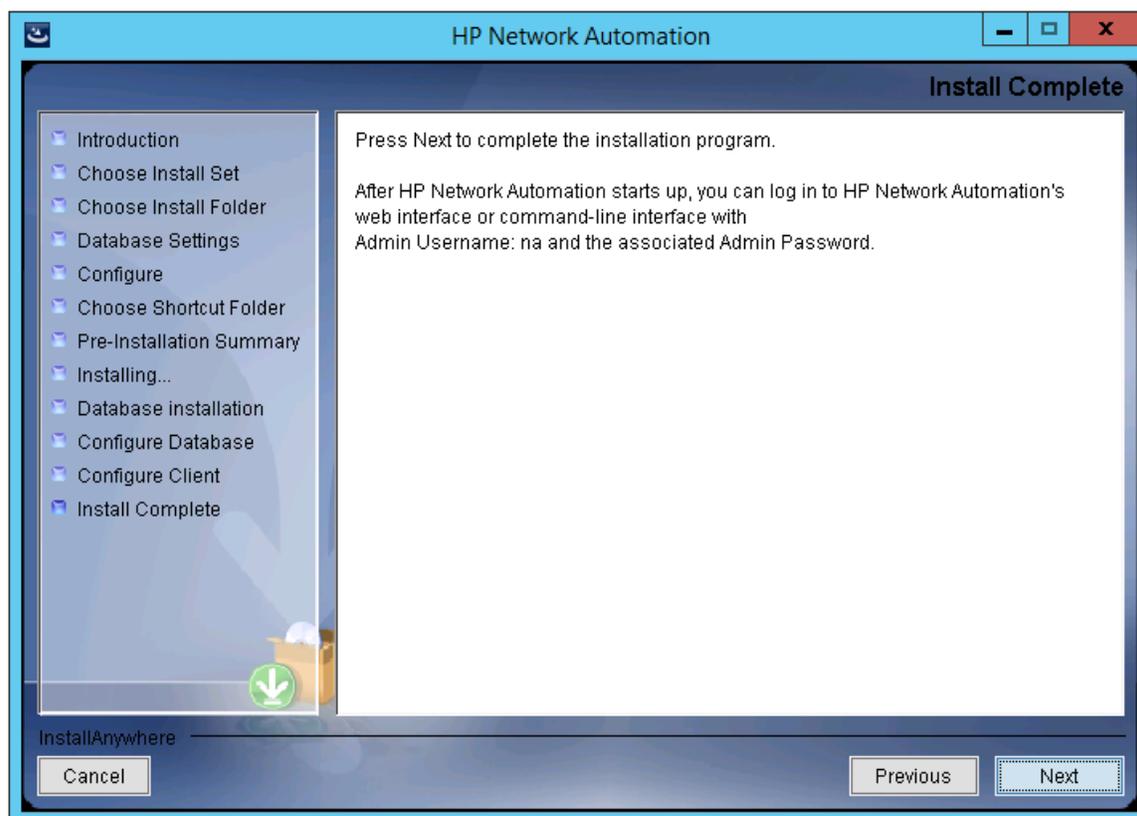
注意: マルチマスタ分散システム環境では、NAのインストール時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。NAのインストール後の全文検索の有効化の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。



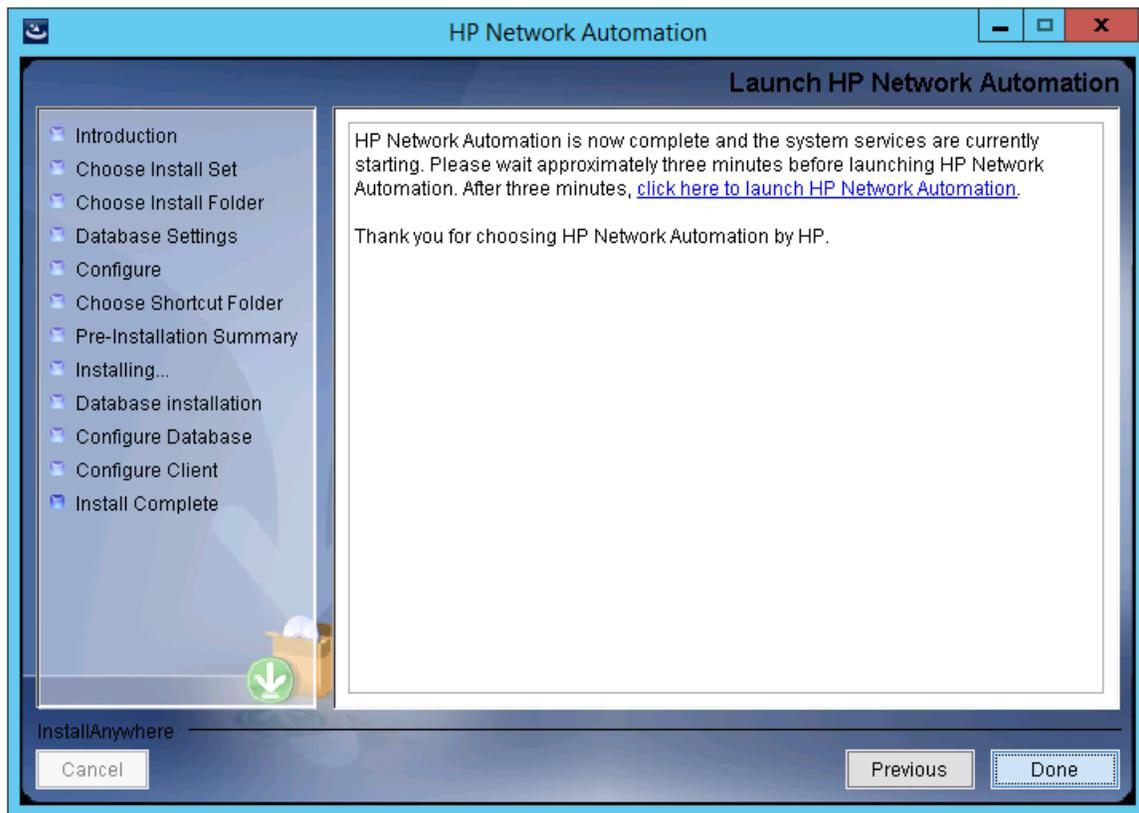
34. [HP Live Network]メッセージボックスで、HP Live Networkに関する情報を確認します。NAコアサーバをインターネットに接続している場合、HP Live Networkを使用して、無料のNAドライバパックの更新とサブスクリプションベースのネットワークセキュリティおよびコンプライアンスの更新を受け取ることができます。[OK]をクリックします。



35. [Install Complete]ページでNA管理者ユーザのユーザ名とパスワードをメモし、[Next]をクリックします。



36. [Launch HP Network Automation]ページで、3分間待った後、リンクをクリックしてNAコンソールを起動し、[Done]をクリックします。



Linuxオペレーティングシステム

LinuxプラットフォームでNAをインストールするには、次の手順を実行します。

1. リリースパッケージでsetup.binファイルを見つけ、コマンドラインから実行します。

インストーラーの[Useful Commands]セクションが表示されます。

```
Extracting the installation resources from the installer archive...
Configuring the installer for this system's environment...

Launching installer...
Preparing CONSOLE Mode Installation...

=====
HP Network Automation                               (created with InstallAnywhere)
=====

Useful Commands
-----
#####
#
# 1. During the installation you can backup to previous step by typing "back" #
#   and pressing Enter. #
# #
# 2. You can exit the installer by typing "quit" and pressing Enter. #
# #
#####
PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

インストール中に「back」と入力してEnterキーを押すと前のステップに戻り、「quit」と入力してEnterキーを押すとインストーラーが終了します。

インストールプロセスを続行するにはEnterキーを押します。

2. [Introduction]セクションで情報を確認し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Introduction
-----

Please read before continuing:

Welcome to Setup for HP Network Automation

The HP Network Automation (NA) install wizard guides you through installing
the NA core and the NA client components.

The NA core server requires one of the following databases:

- Oracle
- Microsoft SQL Server
- MySQL (This installer can install MySQL on the NA core server.)

You must provide the database server's hostname and port, as well as the
username and password that can be used to connect to the database on the NA
server.

For system requirements and supported database versions, see the NA Support
Matrix, available with the NA installer and from the HP Product Manuals web
site at http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals.

IMPORTANT INFORMATION COMPLETE. PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

3. [Choose Install Set]セクションでインストールするものを選択し、**Enter**キーを押します。次のオプションがあります。
- NAデータベースにサポート対象バージョンのOracleを使用する場合、「1」と入力します。別のデータベースサーバにOracleがすでにインストールされ、NAテーブルスペースがすでに作成されている必要があります。
 - NAデータベースにサポート対象バージョンのMicrosoft SQL Serverを使用する場合、「2」と入力します。別のデータベースサーバにSQL Serverがすでにインストールされている必要があります。NAインストーラーによってNAデータベースインスタンスが作成されます。
 - NAインストーラーでNAに付属しているデータベースもインストールする場合や、このシステムまたは別のデータベースサーバにすでにインストールされているサポート対象バージョンのMySQLを使用する場合、「3」と入力します。NAインストーラーによってNAデータベースインスタンスが作成されます。
 - データベースなしでNAを2回目にインストールする場合、「4」と入力します。たとえば、Horizontal Scalability環境に2番目のNAコアサーバをインストールする場合などです。

```
=====
Choose Install Set
-----

Please choose the Install Set to be installed by this installer.

    1- NA core and NA client using Oracle
    2- NA core and NA client using Microsoft SQL Server
->3- NA core and NA client using MySQL
    4- NA Client Only

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
: 1
```

4. (SQL Serverのみ)[License Agreement (Microsoft SQL Server)]セクションでライセンスの各ページを読み、**Enter**キーを押します。Microsoft SQL Server JDBCドライバのライセンス使用条件に同意する場合、[DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT?]プロンプトで「y」と入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
License Agreement (Microsoft SQL Server)
-----
I
Installation and Use of Microsoft SQL Server JDBC Driver Requires Acceptance of
the Following License Agreement:

MICROSOFT SOFTWARE LICENSE TERMS
MICROSOFT SQL SERVER JDBC DRIVER 3.0
These license terms are an agreement between Microsoft Corporation (or based on
where you live, one of its affiliates) and you. Please read them. They apply to
the software named above, which includes the media on which you received it, if
any. The terms also apply to any Microsoft
- updates,
- supplements,
- Internet-based services, and
- support services for this software, unless other terms accompany those ite
ms.
If so, those terms apply.
BY USING THE SOFTWARE, YOU ACCEPT THESE TERMS. IF YOU DO NOT ACCEPT THEM, DO
NOT USE THE SOFTWARE.
If you comply with these license terms, you have the rights below.
1. INSTALLATION AND USE RIGHTS. You may install and use any number of copies
of
the software on your devices .
2. Scope of License. The software is licensed, not sold. This agreement only
gives you some rights to use the software. Microsoft reserves all other rights.
Unless applicable law gives you more rights despite this limitation, you may
use the software only as expressly permitted in this agreement. In doing so,
you must comply with any technical limitations in the software that only allow
you to use it in certain ways. You may not
- work around any technical limitations in the software;

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

5. [License Agreement]セクションでライセンスの各ページを読み、**Enter**キーを押します。OROMatcherのライセンス使用条件に同意する場合、[DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT?]プロンプトで「y」と入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
License Agreement
-----

Installation and Use of OROMatcher Requires Acceptance of the Following License
Agreement:

Savarese.Org

Copyright 1996-1999 Daniel F. Savarese.
Copyright in this document and the software accompanying this document is owned
by Daniel F. Savarese. All rights reserved.

OROMatcher License

Daniel F. Savarese, hereinafter referred to as Daniel, grants you a
non-exclusive, non-transferable limited license to use the software components
comprising the OROMatcher Java class package ("Licensed Software"). There is no
fee for this license. You may not redistribute any of the Licensed Software
except as follows:
1. You may reproduce and redistribute the Licensed Software in object code form
only (Java .class files) and only when incorporated into your software product
which adds substantial and primary functionality to the Licensed Software.
2. You may not permit further redistribution of the Licensed Software by your
end users except as part of a new software product you develop that meets the
restrictions of item 1.
To clarify, you may use the Licensed Software only to build new software you
develop, and you may only distribute the Licensed Software as part of this new
software. You may not include the Licensed Software in a software development
kit or other library or development tool that exposes the API's of the Licensed

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

- (MySQLのみ)[MySQL Installation]セクションでMySQLサーバの場所を選択し、Enterキーを押します。次のオプションがあります。
 - NAインストーラーでMySQLをインストールする場合、「1」と入力します。
 - NAインストーラーをMySQLがすでにインストールされている別のデータベースサーバに接続する場合、「2」と入力します。

```
=====
MySQL Installation
-----

Do you want to install MySQL, or do you already have an installation of MySQL
that NA can use?

->1- Install MySQL
   2- Use existing MySQL Enterprise Server

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT::
```

- (既存のMySQLのみ)[Important: MySQL Version]セクションで、このシステムにすでにインストールされているMySQLまたは別のデータベースサーバがサポートされているバージョンであることを確認します。詳細については、『NAサポートマトリックス』を参照してください。

```
=====
Important: MySQL Version
-----

Confirm that your MySQL database meets the requirements described in the NA
Support Matrix.

If your database has the correct version and type, press Enter to continue.

Otherwise, type "back" and press Enter to choose to install MySQL.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

- [Product License]セクションで、ライセンスファイルがある場合はそのファイルのパスを入力し、Enterキーを押します。

```
=====
Product License
-----

If you have a license file provided by HP, you can enter it now.
Otherwise, you can copy the file later to your HP Network Automation install folder.

Please Provide Full Path and Filename to License File: (DEFAULT: ): █
```

9. [Choose Install Folder]セクションでNAのルートディレクトリの絶対パスを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Choose Install Folder  
-----  
  
Please choose a directory that does not contain existing files.  The directory  
path should not contain spaces.  
  
Where would you like to install?  
  
Default Install Folder: /opt/NA  
  
ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT  
: █
```

10. (NAにインストールされているMySQLのみ)[Choose MySQL Install Folder]セクションでMySQLのルートディレクトリのパスを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Choose MySQL Install Folder  
-----  
  
Where would you like to install MySQL?  
  
MySQL install folder: (DEFAULT: /opt/mysql): █
```

11. (SQL ServerまたはOracleのみ)[Database Settings]セクションでデータベースサーバの場所を指定し、**Enter**キーを押します。次のオプションがあります。

- データベースがNAコアサーバ(このコンピュータ)にある場合、「1」と入力します。
- データベースが別のコンピュータにある場合、「2」と入力します。

```
=====  
Database Settings  
-----  
  
You chose to have HP Network Automation use an existing database server to store i  
ts data.  Where is the database software installed?  
  
1- The database software is installed on this computer  
->2- The database software is installed on another server  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: 2 █
```

12. [Configure Email]セクションで、次の操作を実行します。
 - a. SMTPサーバのホスト名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - b. NAによって送信されるメッセージの電子メールアドレスを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Configure Email  
-----  
  
HP Network Automation can send email notifications. For example, notify administrator whenever device configurations change. To enable this feature, please enter the SMTP server name that HP Network Automation can use to send email and the sender email address.  
  
SMTP server (DEFAULT: mail):  
  
Sender Email Address (DEFAULT: nobody@localhost):
```

13. [Select Language]セクションで、NAがNAコンソール、データベースでの情報の格納、製品ヘルプおよびマニュアルの表示(ローカライズされている場合)に使用する言語を選択し、Enterキーを押します。次のオプションがあります。
- フランス語の場合、「1」と入力します。
 - ドイツ語の場合、「2」と入力します。
 - 日本語の場合、「3」と入力します。
 - 韓国語の場合、「4」と入力します。
 - ロシア語の場合、「5」と入力します。
 - 簡体字中国語の場合、「6」と入力します。
 - スペイン語の場合、「7」と入力します。

```
=====
Select Language
-----

Please select your language. The selected language is used for information
stored in the database, for example task results, event descriptions, and so
on. After information is saved to the database, it remains in that language and
cannot be modified.

->1- French
   2- German
   3- Japanese
   4- Korean
   5- Russian
   6- Simplified Chinese
   7- Spanish

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: 6
```

14. [Pre-Installation Summary]セクションで情報を確認し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Pre-Installation Summary
-----

Please Review the Following Before Continuing:

Product Name:
  HP Network Automation

Install Folder:
  /opt/NA

Link Folder:
  DO NOT INSTALL

Install Set:
  NA core and NA client using MySQL

Disk Space Information (For Installation Target):
  Required:  6,657,966,373 Bytes
  Available: 41,368,911,872 Bytes

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

15. [Installing...]セクションで、インストールが完了するまで待ちます。

```
=====
Installing...
-----

[=====|=====|=====|=====]
[█
```

16. (NAにインストールされているMySQLのみ)[MySQL Security Setup]セクションで、次の操作を実行します。
- NAデータベースインスタンスのルートユーザのパスワードを作成し、**Enter**キーを押します。
 - パスワードを再入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
MySQL Security Setup
-----

Please setup MySQL root password and other security settings.
New Password:
Confirm Password:
```

17. (既存のMySQLのみ)[Database Admin Login]セクションでMySQLの接続情報を入力します。次の操作を実行します。
- MySQLサーバのホスト名を入力し、**Enter**キーを押します。

- b. MySQLサーバのポート番号を入力し、**Enter**キーを押します。
- c. MySQL管理者のユーザ名を入力し、**Enter**キーを押します。
- d. MySQL管理者のパスワードを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Database Admin Login  
-----  
  
In order to create the HP Network Automation database on your existing database  
server, the installer needs to know the hostname and port of the database  
server, as well as the login information of the database administrator, who has  
permissions to create new databases and new users.  
  
Hostname (DEFAULT: ): 192.168.1.117  
Port (DEFAULT: 3306):  
User Name (DEFAULT: ): root  
Password:
```

18. (MySQLのみ) [New Database - MySQL]セクションでNAの接続情報を入力します。次の操作を実行します。
- NAデータベースに接続するためのMySQLユーザの名前を入力します。NAインストーラーでMySQLもインストールする場合、インストーラーによってこのユーザが作成されます。NAインストーラーが既存のMySQLに接続する場合、このユーザがすでに存在する必要があります。Enterキーを押します。
 - 新しいMySQLユーザのパスワードを入力し、Enterキーを押します。
 - パスワードを再入力し、Enterキーを押します。
 - 新しいNAデータベースインスタンスの名前を入力し、Enterキーを押します。
 - [Create NA user with this username and password]プロンプトで、次の操作を実行します。
 - NAインストーラーでデータベースと同じユーザ名とパスワードのNAユーザを作成する場合、「y」と入力してEnterキーを押します。
 - 別のNA管理者ユーザを定義する場合、「n」と入力してEnterキーを押します。

```
New Database - MySQL
-----
I
Please provide:

a) A username and password that HP Network Automation will use to connect to
your database.

b) The name of the database that you would like HP Network Automation to create
and use.

A connection to the database will be tried when you press Enter.

User Name (DEFAULT: ): na
Password:
Confirm Password:
Enter the name of the database to create (DEFAULT: NA):
Create NA user with this username and password (Y/N): y
```

19. (MySQLのみ)[New Database Collation - MySQL]セクションでデータベース照合を選択し、**Enter**キーを押します。

```
=====
New Database collation - MySQL
-----

Choose Database collation:

  1- euckr
  2- gb2312
  3- latin1
  4- sjis
->5- utf8

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

20. (MySQLのみ)[Confirm Database Settings]セクションで情報を確認します。データベースユーザ名とインスタンス名がまだ存在しないことを確認し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Confirm Database Settings
-----

You have selected the following Database settings. Please confirm these before
continuing:

Username "na" will be created. Please confirm that this user does not already
exist.

A database named "NA" will be created. Please confirm that this database does
not already exist.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

21. (SQL Serverのみ)[Database Admin Login]セクションでSQL Serverサーバの接続情報を入力します。次の操作を実行します。
 - a. SQL Serverサーバのホスト名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - b. SQL Serverサーバのポート番号を入力し、**Enter**キーを押します。
 - c. SQL Server管理者のユーザ名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - d. SQL Server管理者のユーザ名を入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Database Admin Login
-----
|
In order to create the HP Network Automation database on your existing database
server, the installer needs to know the hostname and port of the database
server, as well as the login information of the database administrator, who has
permissions to create new databases and new users.

Hostname (DEFAULT: ): 15.154.228.233
Port (DEFAULT: 1433): 1433
User Name (DEFAULT: ): sa
Password: █
```

22. (SQL Serverのみ)[Configure Database]セクションでNAデータベースの状態を指定し、**Enter**キーを押します。次のオプションがあります。
 - データベースがクリーンな(NAデータがない)データベースである場合、「1」と入力します。
 - データベースが既存のNAデータベースである場合、「2」と入力します。

```
=====
Configure Database
-----
You can choose to create a new database, or if you have previous installation of H
P Network Automation, you can choose to use an existing HP Network Automation data
base.

->1- Create new database
   2- Use existing NA database

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

23. (SQL Serverのみ)[Not supported - new SQL Server or Oracle database]セクションでNAデータベースの接続情報を入力します。次の操作を実行します。
 - a. NAデータベースに接続するための新しいSQL Serverユーザの名前を入力し、**Enter**キーを押します。
 - b. 新しいSQL Serverユーザのパスワードを入力し、**Enter**キーを押します。

- c. パスワードを再入力し、**Enter**キーを押します。
- d. 新しいNAデータベースインスタンスの名前を入力し、**Enter**キーを押します。
- e. [Create NA user with this username and password]プロンプトで、次の操作を実行します。
 - NAインストーラーでデータベースと同じユーザ名とパスワードのNAユーザを作成する場合、「y」と入力して**Enter**キーを押します。
 - 別のNA管理者ユーザを定義する場合、「n」と入力して**Enter**キーを押します。

```
=====
Not supported - new SQL Server or Oracle database
-----

Please provide:

a) A username and password that HP Network Automation will use to connect to
your database.

b) The name of the database that you would like HP Network Automation to create
and use.

A connection to the database will be tried when you press Enter.

User Name (DEFAULT: na): testna
Password:
Confirm Password:
Enter the name of the database to create (DEFAULT: na): testna
Create NA user with this username and password (Y/N): Y
```

24. (SQL Serverのみ)[New Database Collation - Microsoft SQL Server]セクションでデータベース照合を選択し、**Enter**キーを押します。

```
=====
New Database collation - Microsoft SQL Server
-----

Choose Database collation:

  1- Chinese_PRC_CI_AS
  2- Cyrillic_General_CI_AS
  3- Japanese_CI_AS
  4- Korean_Wansung_CI_AS
->5- SQL_Latin1_General_Cp1_CI_AS

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

25. (SQL Serverのみ)[Confirm Database Settings]セクションで情報を確認します。データベースユーザ名とインスタンス名がまだ存在しないことを確認し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Confirm Database Settings
-----
I
You have selected the following Database settings. Please confirm these before
continuing:

Username "testna" will be created. Please confirm that this user does not
already exist.

A database named "testna" will be created. Please confirm that this database
does not already exist.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

26. (Oracleのみ)[データベースの管理者ログイン(Database Admin Login)]セクションでOracleデータベースの接続情報を入力します。次の操作を実行します。
- Oracleサーバのホスト名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - Oracleサーバのポート番号を入力し、**Enter**キーを押します。
 - Oracleデータベースのシステム識別子またはサービス名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - Oracle管理者のユーザ名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - Oracle管理者のパスワードを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Database Admin Login
-----
I
Please provide the hostname and port of the database server, the Oracle System
ID (SID / Service Name) to be used by HP Network Automation, and the login
information of a database user who has permission to create tables.

Hostname (DEFAULT: ): 15.154.228.233
Port (DEFAULT: 1521): 1521
Oracle System ID (SID) (DEFAULT: ): NACN1
User Name (DEFAULT: ): natest
Password:
```

27. (Oracleのみ)[Configure Database (1)]セクションでNAデータベースの状態を指定し、**Enter**キーを押します。次のオプションがあります。
- データベースがクリーンな(NAデータがない)データベースである場合、「1」と入力します。
 - データベースが既存のNAデータベースである場合、「2」と入力します。

```
=====  
Configure Database (1)  
-----  
  
Is NACN1 a clean database for use by HP Network Automation or an existing HP Network  
Automation database that is ready to use?  
  
->1- a clean database for use by HP Network Automation  
   2- an existing HP Network Automation database  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT::
```

28. (Oracleのみ)[Configure Database (2)]セクションで、NAインストーラーでデータベースと同じユーザ名とパスワードのNAユーザを作成するかどうかを指定し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Configure Database (2)  
-----  
  
Create an HP Network Automation user with the supplied database username and password?  
  
->1- Yes  
   2- No  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

29. データベースに接続するための資格情報とは異なる資格情報を持つNA管理者ユーザを作成する場合、[Set NA Credentials]セクションでNA管理者の資格情報を入力します。次の操作を実行します。
- a. 新しいNA管理者のユーザ名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - b. 新しいNA管理者のパスワードを入力し、**Enter**キーを押します。
 - c. パスワードを再入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====  
Set NA Credentials  
-----  
  
Please enter the username and password for NA's administrator.  
User Name (DEFAULT: ): gwu  
Password:  
Confirm Password:
```

30. [Configure Admin]セクションでNA管理者の連絡先情報を入力します。次の操作を実行します。
 - a. NA管理者の名を入力し、**Enter**キーを押します。
 - b. NA管理者の姓を入力し、**Enter**キーを押します。
 - c. NA管理者の電子メールアドレスを入力し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Configure Admin
-----

Enter the following information for HP Network Automation's administrator. HP Network Automation will send email to the email address entered below.

Database is going to be created.

First name (DEFAULT: ): natest
Last name (DEFAULT: ): natest
Email address (DEFAULT: ): natest@hp.com
```

31. [Database Setup]セクションで、データベース構成が完了するまで待ちます。

```
=====
Database Setup
-----

I
The installer will create the database you have provided.

#####
# This step might take up to a few minutes. Please do not interrupt.      #
#####

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

32. (SQL ServerまたはOracleのみ)[Full Text Search]セクションで、[Configuration Text]フィールドの全文検索の説明を読みます。全文検索の構成の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。**Enter**キーを押します。

```
=====
Full Text Search
-----

HP Network Automation Software supports full-text search of the Configuration Text field. The "contains (full text)" search is faster than the original "contains" search. For information about enabling this feature after product installation, see the NA Administration Guide.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

33. (Oracleのみ)[Case-Sensitivity of Text Fields]セクションで、ほとんどのテキストフィールドで大文字小文字を区別しない検索を有効にするかどうかを選択します。管理対象デバイスを区別するために大文字小文字を区別している場合、大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。(製品のインストール後にこの構成を変更するには、『NA Administration Guide』を参照してください)。Enterキーを押します。

スタンドアロンNAコアまたは水平スケーラビリティ環境では、インストール時にこの機能を有効にできます。

注意: マルチマスタ分散システム環境では、NAのインストール時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。NAのインストール後の全文検索の有効化の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。

```
=====  
Case-Sensitivity of Text Fields  
-----  
  
HP Network Automation software can search most text fields on either a case-sensitive or case-insensitive basis. If your organization uses case-sensitivity to distinguish managed devices, do not enable case-insensitivity. To change this configuration after product installation, see the NA Administration Guide.  
Do you want to enable case-insensitive search?  
  
1- No  
->2- Yes  
  
ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

34. [HP Live Network]セクションで、HP Live Networkに関する情報を確認します。[HP Live Network]メッセージボックスで、HP Live Networkに関する情報を確認します。NAコアサーバをインターネットに接続している場合、HP Live Networkを使用して、無料のNAドライバパックの更新とサブスクリプションベースのネットワークセキュリティおよびコンプライアンスの更新を受け取ることができます。Enterキーを押します。

```
=====  
HP Live Network  
-----  
  
HP Live Network is a complementary content delivery service that is integrated into HP Network Automation (NA) for the delivery of free NA driver updates. HPLN has a subscription-based Security and Compliance Service which provides immediate assessment of network security and policy violations as well as automated remediation options. The NA core server accesses the HP Live Network service through the HP Live NetworkConnector (LNC), which is a separate installation.  
  
The HP Live Network connector User Guide for LNC installation and configuration instructions is available from http://www.hp.com/go/livenetwork (Resources tab)  
  
PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

35. [Installation Complete]セクションでNA管理者ユーザのユーザ名とパスワードをメモし、Enterキーを押します。

```
=====  
Installation Complete  
-----  
  
Press Enter to complete the installation program.  
  
After HP Network Automation starts up, you can log in to HP Network  
Automation's web interface or command-line interface with  
Admin Username: na and the associated Admin Password.  
  
PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:
```

Service Packインストーラー

サポート対象プラットフォームについては、『NAサポートマトリックス』を参照してください。

このガイドの関連する章の手順に従います。

- [「別のシステムからNA 10.00へのアップグレード」\(13ページ\)](#)
- [「同一システムでのNA 10.00へのアップグレード」\(26ページ\)](#)

NA Service Packインストーラーのインターフェイスについては、このセクションを参照してください。

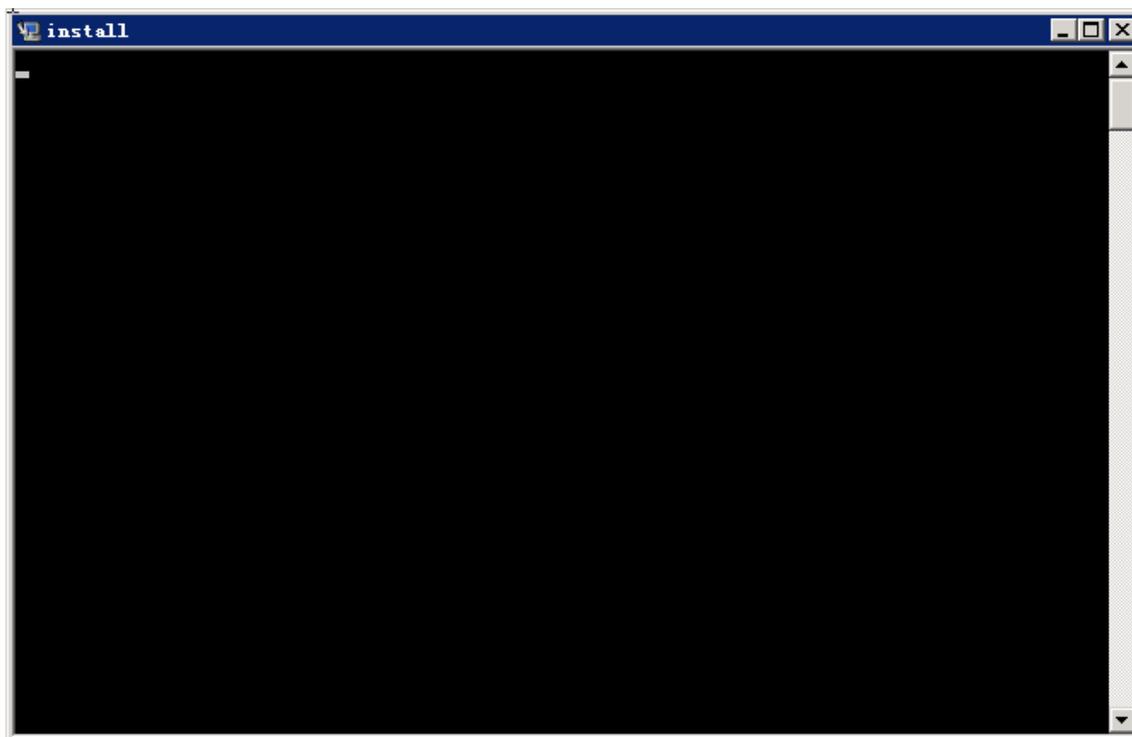
注: データ損失を防止するため、NAインストールディレクトリおよびNAデータベースのすべてのコンテンツをバックアップします。

Windowsオペレーティングシステム

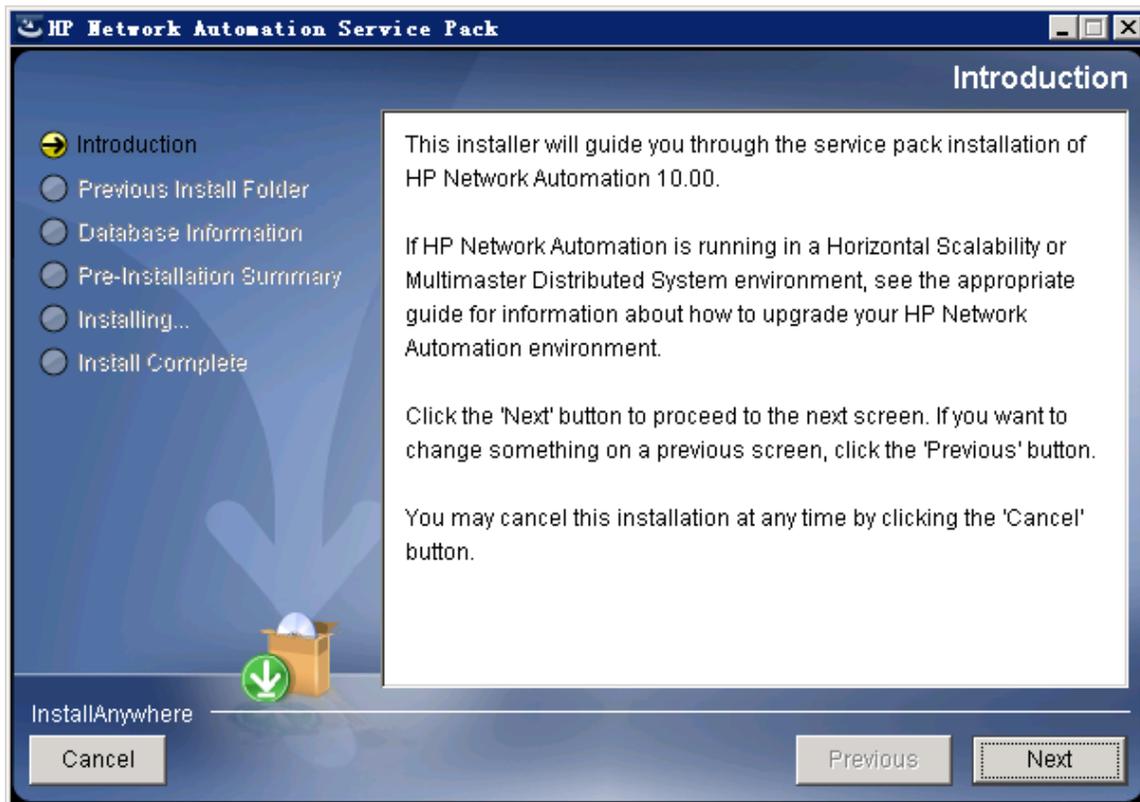
WindowsプラットフォームでNAをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. リリースパッケージで`setup.exe`ファイルを見つけてダブルクリックします。

空のコマンドプロンプトウィンドウがただちに開きます。このウィンドウは、インストール中ずっと開いたままにします。

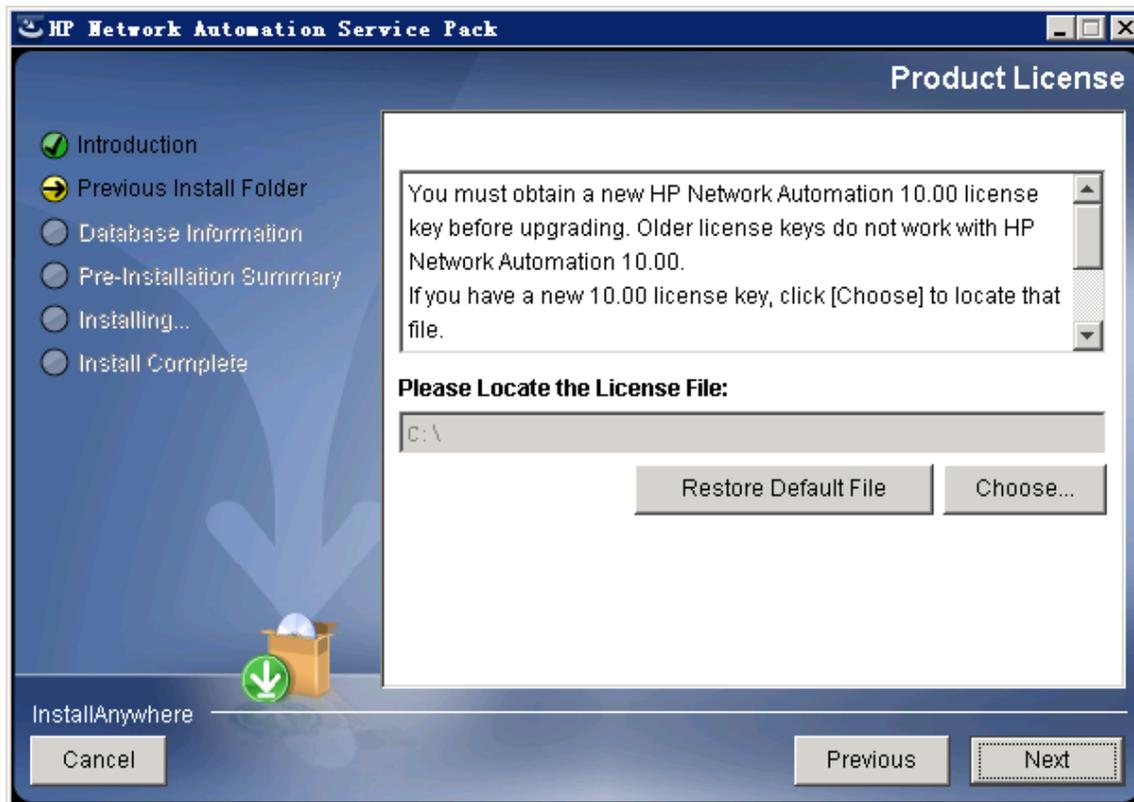


2. [Introduction]ページで概要情報を確認し、[Next]をクリックします。

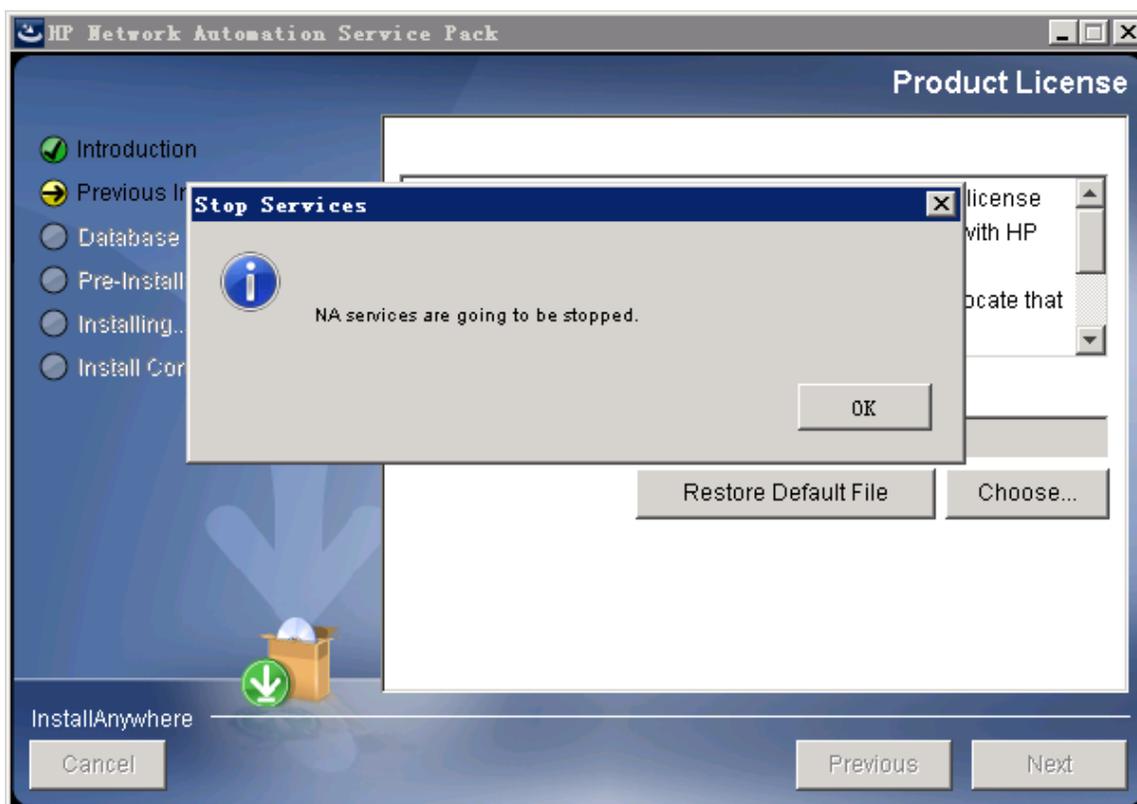


3. [Product License]ページでNA 10.00ライセンスキーのパスを入力します。

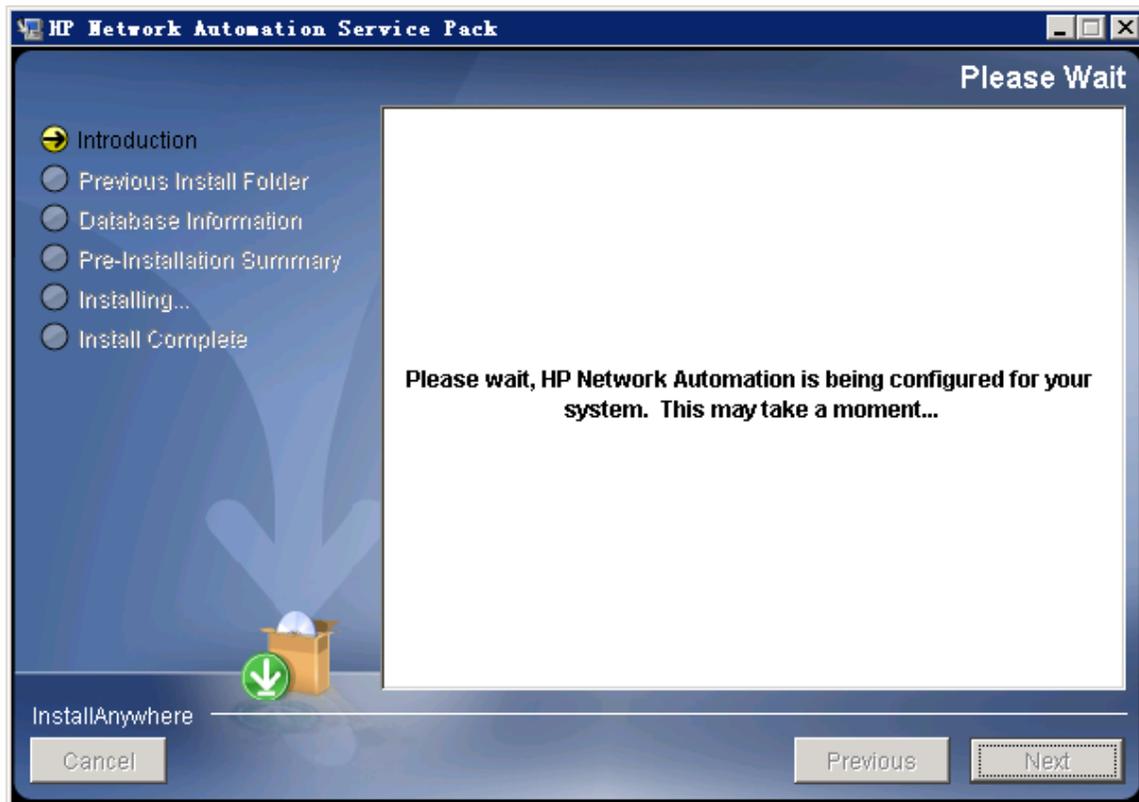
注: アップグレードする前に、NA 10.00の新しい恒久ライセンスキーを取得する必要があります。



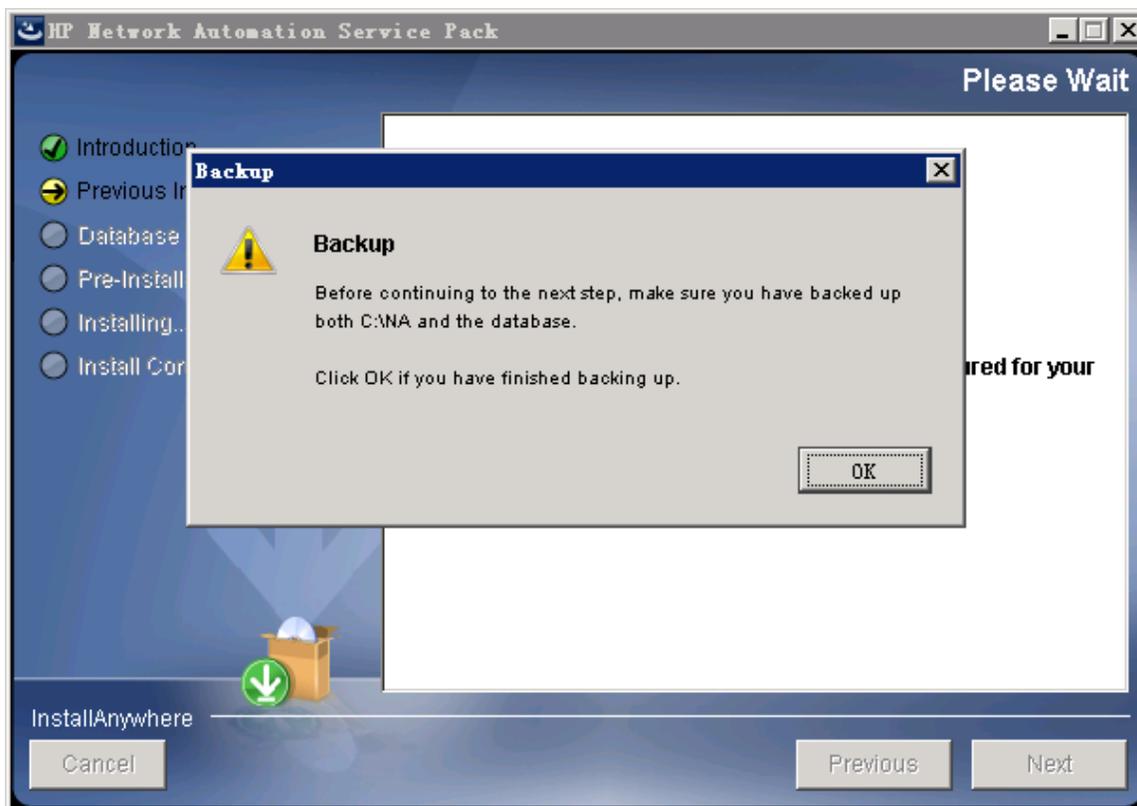
4. **[Stop Services]**メッセージボックスで、Service PackインストーラーによってNAサービスが停止されることが示されます。**[OK]**をクリックします。



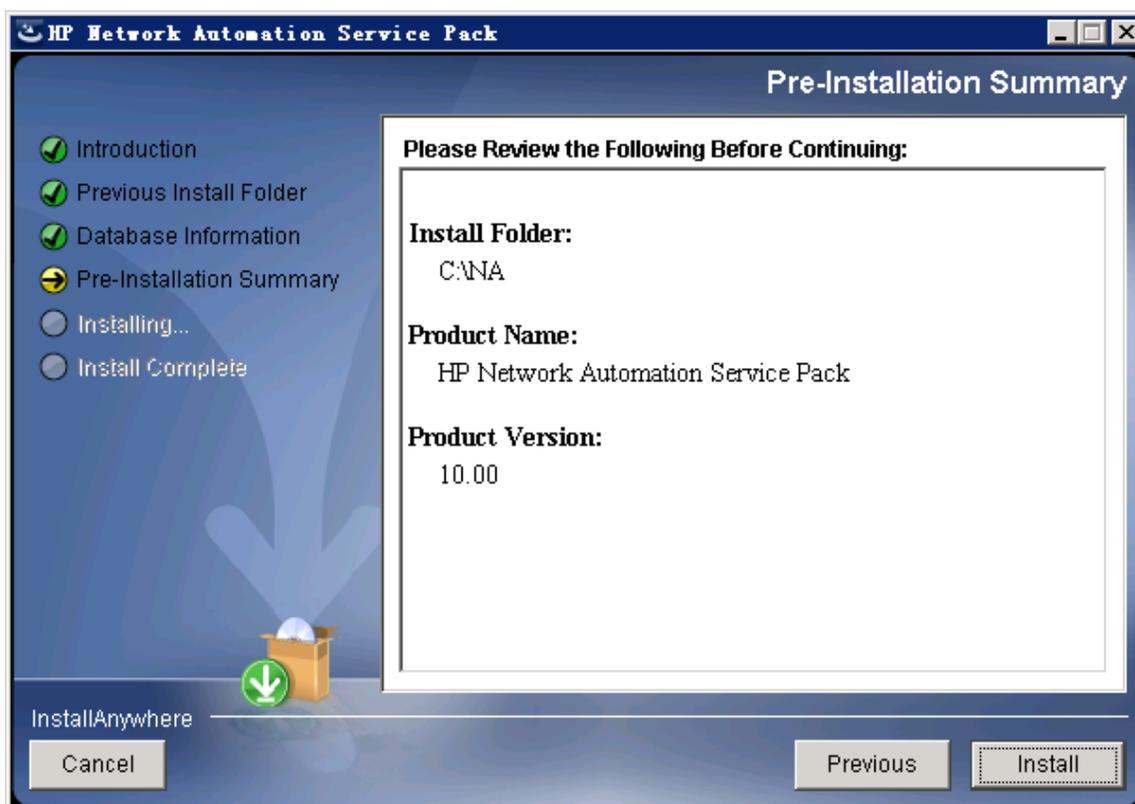
5. [Please Wait]ページで、インストール準備が完了するまで待ちます。



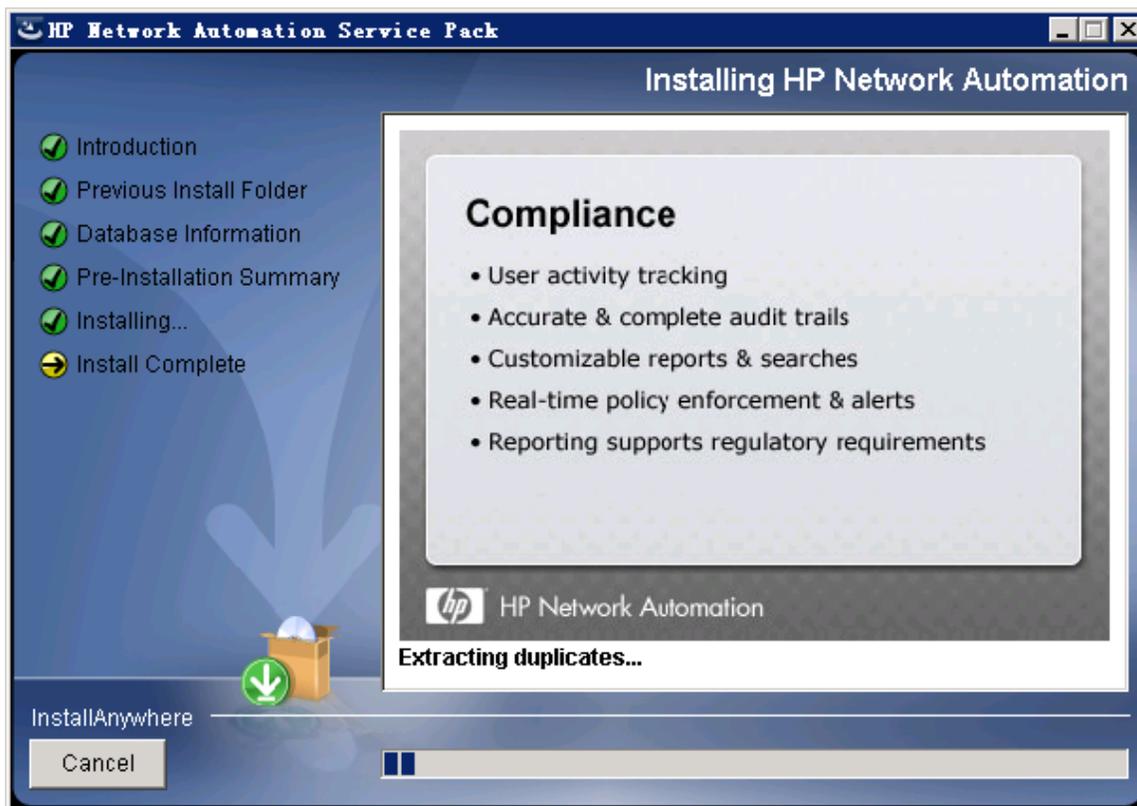
6. **[Backup]**メッセージボックスで、NAファイルシステムおよびNAデータベースをバックアップするように指示されます。これらのバックアップを完了していない場合、この時点で実行します。NAファイルシステムおよびNAデータベースをバックアップした後、**[OK]**をクリックします。



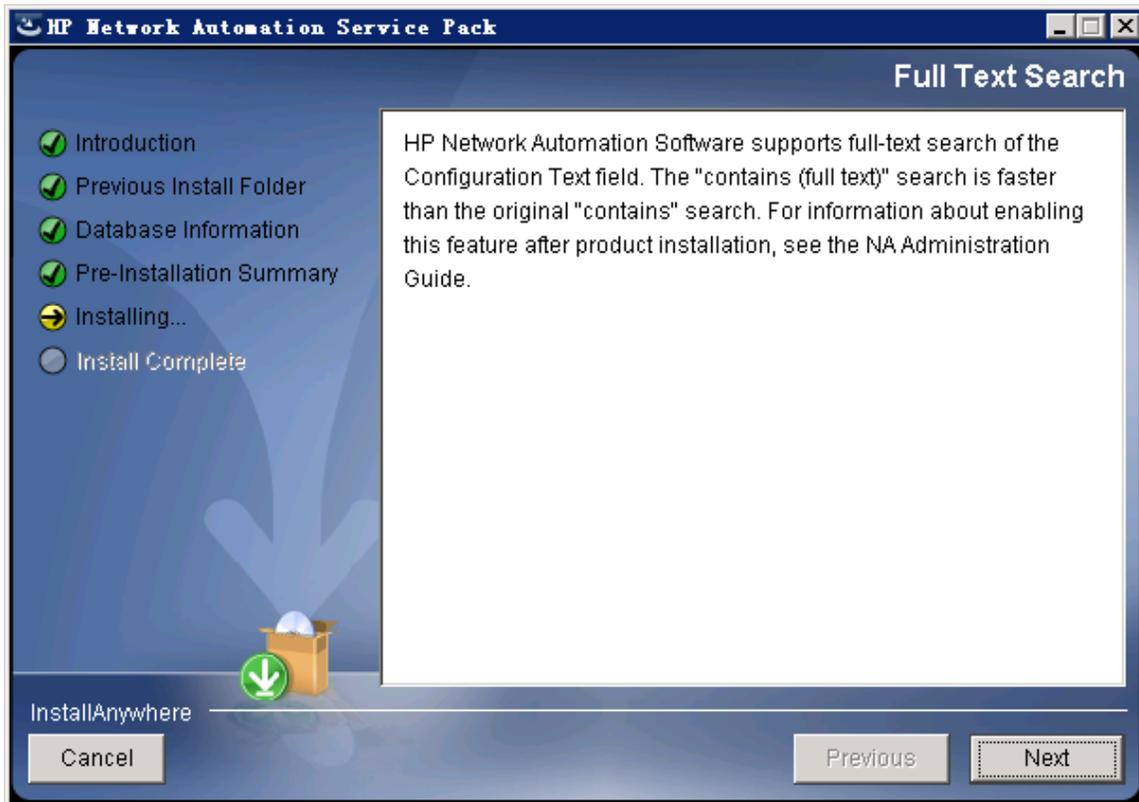
7. [Pre-Installation Summary]ページで情報を確認します。設定を修正するには、[Previous]をクリックします。すべての設定が正しければ、[Install]をクリックします。



8. [Installing HP Network Automation]ページで、インストールが完了するまで待ちます。



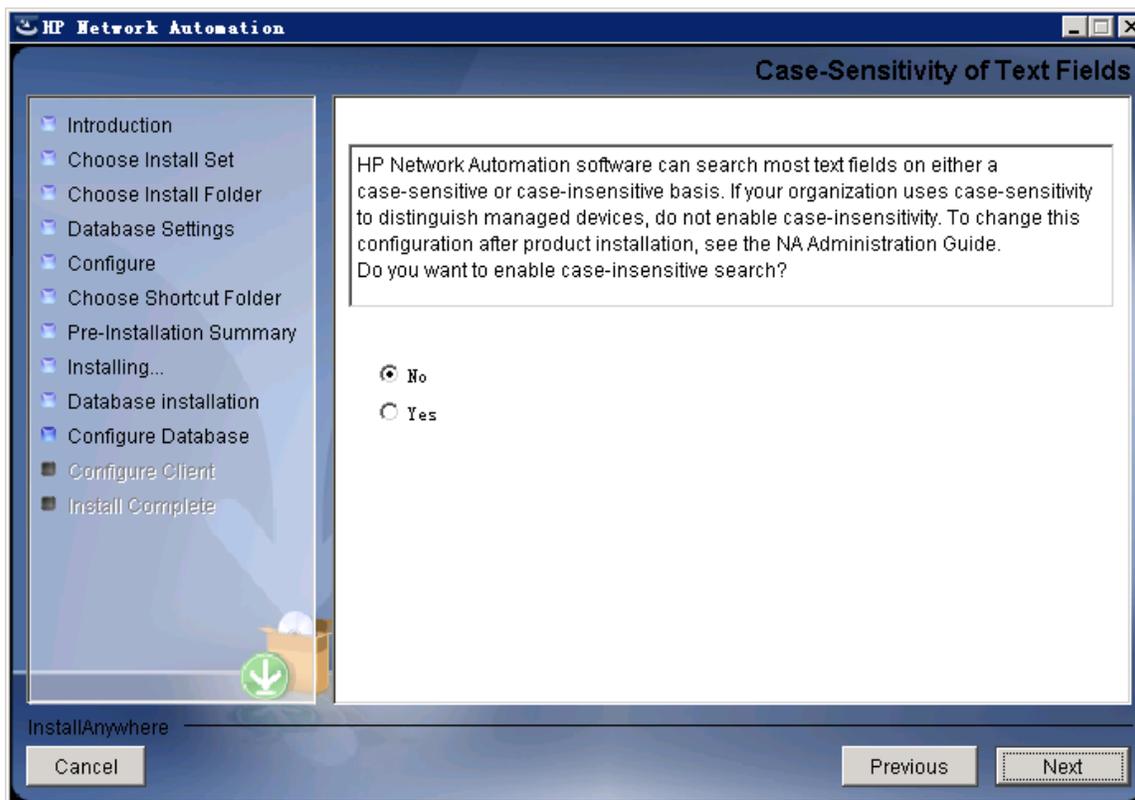
9. (OracleまたはSQL Serverのみ) [Full Text Search] ページで、[Configuration Text] フィールドの全文検索の説明を読みます。全文検索の構成の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。[Next] をクリックします。



10. (Oracleのみ) [Case-Sensitivity of Text Fields] ページで、ほとんどのテキストフィールドで大文字小文字を区別しない検索を有効にするかどうかを選択します。管理対象デバイスを区別するために大文字小文字を区別している場合、大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。(製品のインストール後にこの構成を変更するには、『NA Administration Guide』を参照してください)。**[Next]** をクリックします。

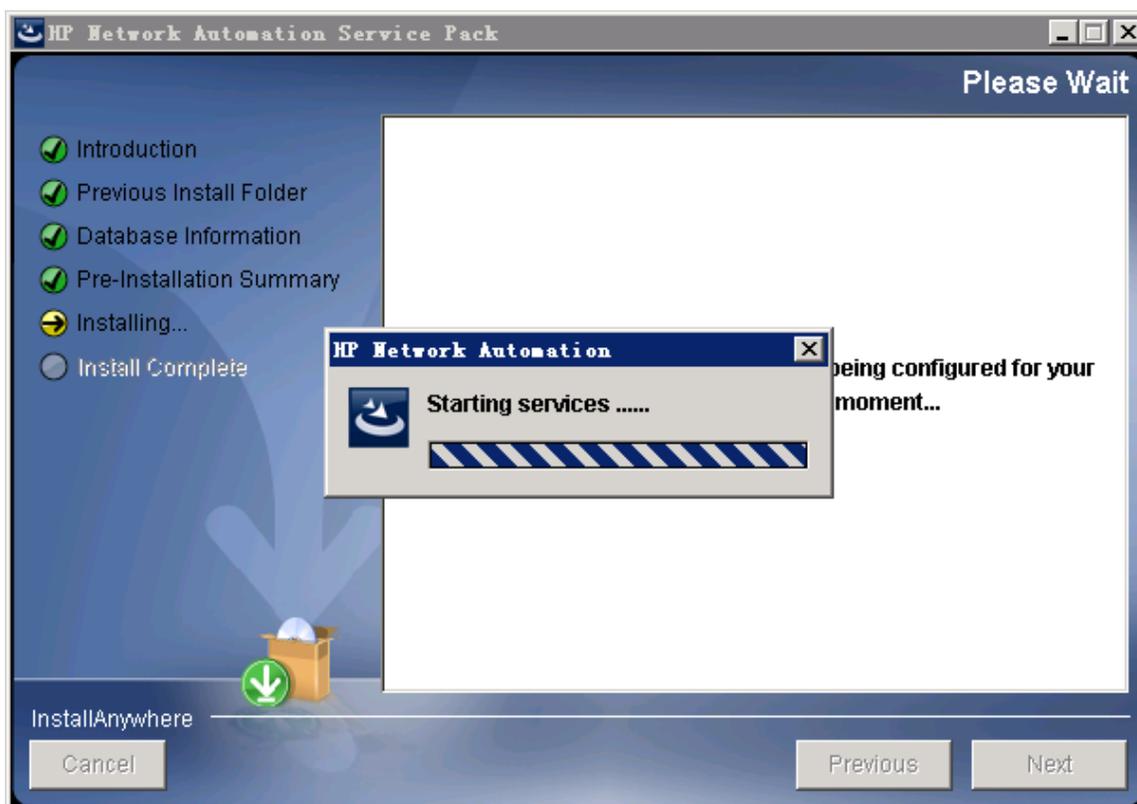
スタンドアロンNAコアまたは水平スケーラビリティ環境では、アップグレード時にこの機能を有効にできます。

注意: マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。NAのアップグレード後の全文検索の有効化の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。

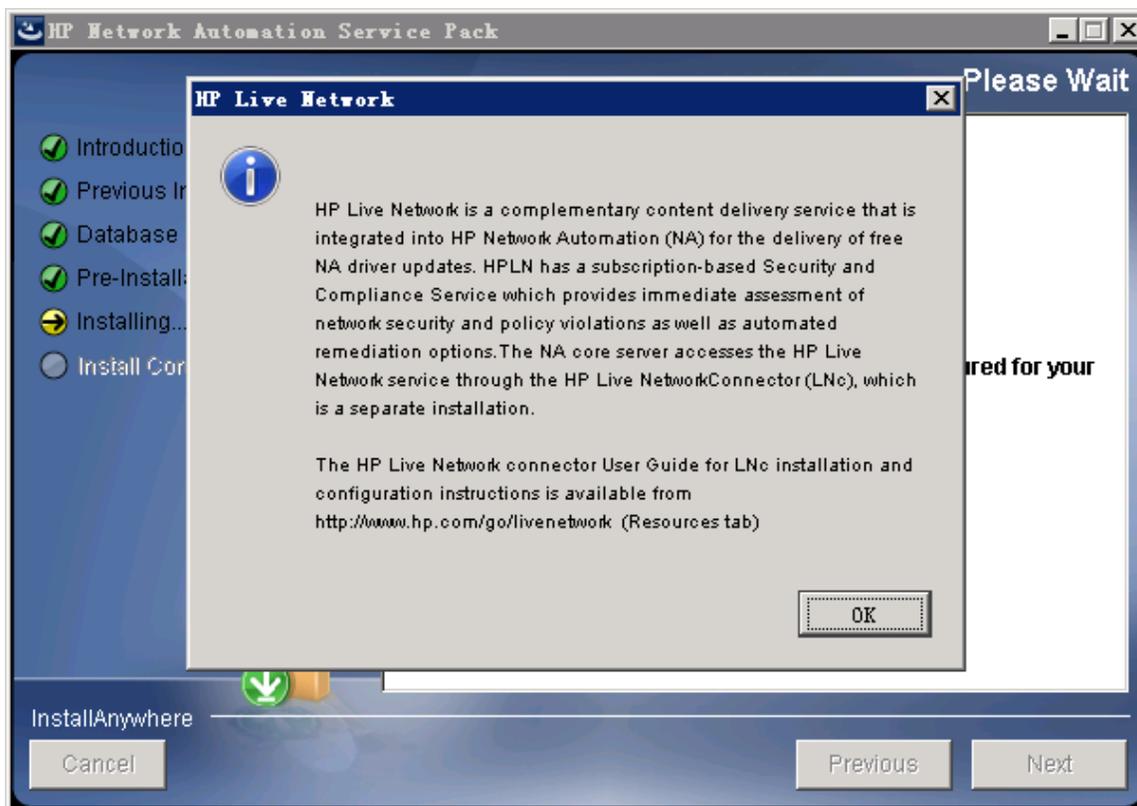


11. [Upgrading Database] ページで、データベーススキーマのアップグレードが完了するまで待ちます。

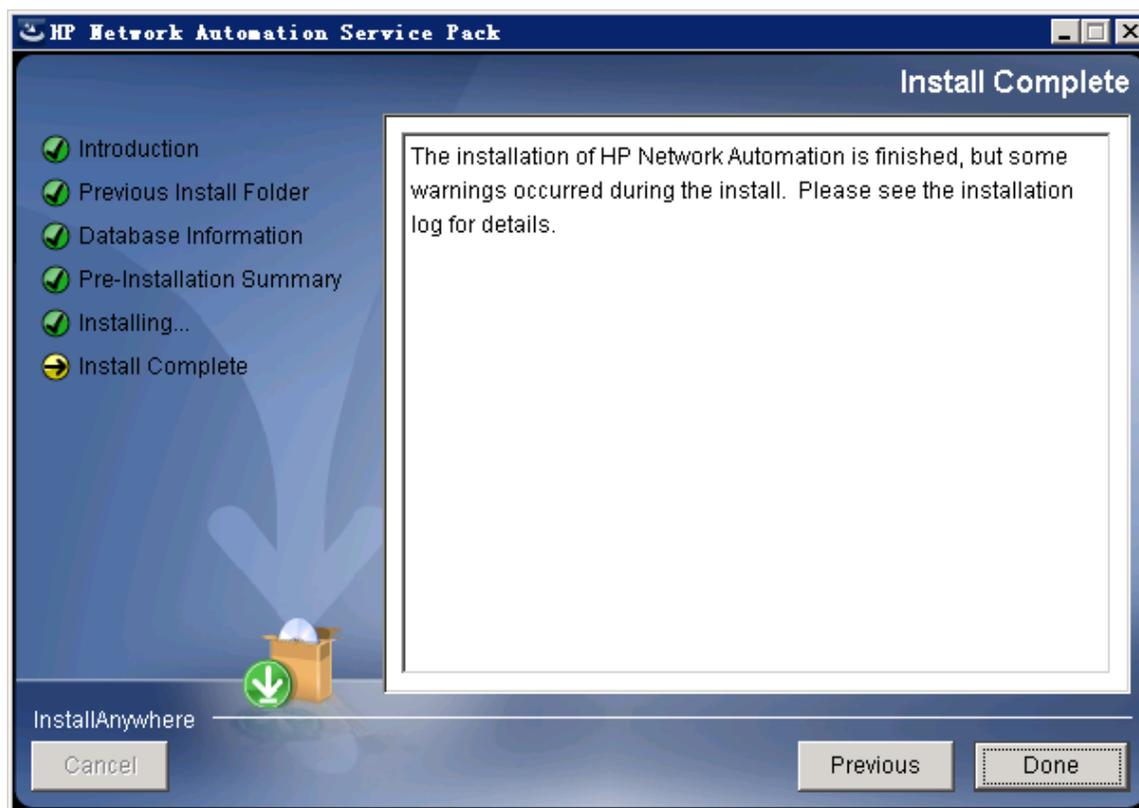
12. [HP Network Automation]メッセージボックスで、Service PackインストーラーによってNAサービスが開始されること
が示されます。インストールが完了するまで待ちます。



13. [HP Live Network]メッセージボックスで、HP Live Networkに関する情報を確認します。NAコアサーバをインターネットに接続している場合、HP Live Networkを使用して、無料のNAドライバパックの更新とサブスクリプションベースのネットワークセキュリティおよびコンプライアンスの更新を受け取ることができます。[OK]をクリックします。



14. [Install Complete]ページで[Done]をクリックします。



Linuxオペレーティングシステム

LinuxプラットフォームでNAをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. リリースパッケージでsetup.binファイルを見つけ、コマンドラインから実行します。

インストーラーの[Introduction]セクションが表示されます。

```
Preparing to install...
Extracting the JRE from the installer archive...
Unpacking the JRE...
Extracting the installation resources from the installer archive...
Configuring the installer for this system's environment...

Launching installer...

=====
HP Network Automation                               (created with InstallAnywhere)
-----

Preparing CONSOLE Mode Installation...

=====
Introduction
-----

This installer will guide you through the service pack installation of HP
Network Automation 10.00.
how to upgrade your HP Network Automation environment.

Respond to each prompt to proceed to the next step in the installation.  If you
want to change something on a previous step, type 'back'.

You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

インストール中に「back」と入力してEnterキーを押すと前のステップに戻り、「quit」と入力してEnterキーを押すとインストーラーが終了します。

インストールプロセスを続行するにはEnterキーを押します。

2. [Product License]セクションでNA10.00ライセンスキーのパスを入力します。

注: アップグレードする前に、NA 10.00の新しい恒久ライセンスキーを取得する必要があります。

```
=====
Product License
-----

You must obtain a new HP Network Automation 10.00 license key before upgrading.
Older license keys do not work with HP Network Automation 10.00.
If you have a new 10.00 license key, you can enter it now.
If you do not have a 10.00 license key, type 'cancel' and press Enter to exit
and re-run this installer after obtaining a valid 10.00 license key.

Please Provide Full Path and Filename to License File: (DEFAULT: ): █
```

3. [Stop Services]セクションで、Service PackインストーラーによってNAサービスが停止されることが示されます。Enterキーを押します。

```
=====
Stop Services
-----

Services are going to be stopped.

This may take up to a few minutes.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

4. [Backup]セクションで、NAファイルシステムおよびNAデータベースをバックアップするように指示されます。これらのバックアップを完了していない場合、この時点で実行します。NAファイルシステムおよびNAデータベースをバックアップした後、Enterキーを押します。

```
=====
Backup
-----

Before continuing to the next step, make sure you have backed up both /opt/NA
and the database.

Select OK if you have finished backing up.

PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE FOLLOWING (OK): █
```

5. [Pre-Installation Summary]セクションで情報を確認し、**Enter**キーを押します。

```
=====
Pre-Installation Summary
-----

Please Review the Following Before Continuing:

Install Folder:
  /opt/NA

Product Name:
  HP Network Automation Service Pack

Product Version:
  10.00

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

6. [Installing...]および[Setting up Environments...]セクションで、インストールが完了するまで待ちます。

```
=====
Installing...
-----

[=====|=====|=====|=====]
[-----|-----|-----|-----]

-----

Setting up Environments ...
-----

This may take up to a few minutes.

..... █
```

7. (OracleまたはSQL Serverのみ) [Full Text Search] セクションで、[Configuration Text] フィールドの全文検索の説明を読みます。全文検索の構成の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。[Next] をクリックします。

```
=====
Full Text Search
-----

HP Network Automation Software supports full-text search of the Configuration
Text field. The "contains (full text)" search is faster than the original
"contains" search. For information about enabling this feature after product
installation, see the NA Administration Guide.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

8. (Oracleのみ) [Case-Sensitivity of Text Fields] セクションで、ほとんどのテキストフィールドで大文字小文字を区別しない検索を有効にするかどうかを選択します。管理対象デバイスを区別するために大文字小文字を区別している場合、大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。(製品のインストール後にこの構成を変更するには、『NA Administration Guide』を参照してください)。[Next] をクリックします。

スタンドアロンNAコアまたは水平スケーラビリティ環境では、アップグレード時にこの機能を有効にできます。

注意: マルチマスタ分散システム環境では、NAのアップグレード時に大文字小文字を区別しない検索を有効にしないでください。NAのアップグレード後の全文検索の有効化の詳細については、『NA Administration Guide』を参照してください。

```
=====
Case-Sensitivity of Text Fields
-----

HP Network Automation software can search most text fields on either a case-sensit
ive or case-insensitive basis. If your organization uses case-sensitivity to disti
nguish managed devices, do not enable case-insensitivity. To change this configura
tion after product installation, see the NA Administration Guide.
Do you want to enable case-insensitive search?

    1- No
    ->2- Yes

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: █
```

9. [Upgrading Database] セクションで、データベーススキーマのアップグレードが完了するまで待ちます。

```
=====
Upgrading Database ...
-----

Depending on the size of the database, this may take up to a few hours.

Please do not interrupt.
```

10. [Starting Services]セクションで、Service PackインストーラーによってNAサービスが開始されることが示されます。インストールが完了するまで待ちます。

```
=====
Starting Services ...
-----

This may take up to a few minutes.
..... █
```

11. [HP Live Network]セクションで、HP Live Networkに関する情報を確認します。[HP Live Network]メッセージボックスで、HP Live Networkに関する情報を確認します。NAコアサーバをインターネットに接続している場合、HP Live Networkを使用して、無料のNAドライバパックの更新とサブスクリプションベースのネットワークセキュリティおよびコンプライアンスの更新を受け取ることができます。Enterキーを押します。

```
=====
HP Live Network
-----

HP Live Network is a complementary content delivery service that is integrated
into HP Network Automation (NA) for the delivery of free NA driver updates.
HPLN has a subscription-based Security and Compliance Service which provides
immediate assessment of network security and policy violations as well as
automated remediation options. The NA core server accesses the HP Live Network
service through the HP Live NetworkConnector (LNc), which is a separate
installation.

The HP Live Network connector User Guide for LNc installation and configuration
instructions is available from http://www.hp.com/go/livenetwork (Resources
tab)

PRESS <ENTER> TO CONTINUE: █
```

12. [Installation Complete]セクションでNAルートディレクトリの場所をメモし、Enterキーを押します。

```
=====
Installation Complete
-----

Congratulations. HP Network Automation Service Pack 10.00 has been successfully
installed to:

/opt/NA
```

インストールおよびアップグレードガイド
お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールおよびアップグレードガイド, 2014年7月 (Network Automationソフトウェア 10.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、ovdoc-nsm@hp.com宛にお送りください。